令和５年度

シラバス

学校法人　福岡医療学院
福岡医療専門学校

柔道整復科Ｉ部　Ａ組

令和５年度　福岡医療専門学校　柔道整復科　シラバス　目次

教 育 理 念 ..... Ｐ 1

養 成 人 材 像 ..... Ｐ 1

教育課程編成・実施の方針 ..... Ｐ 1

科目及び授業時間数 ..... Ｐ 2

基 礎 分 野 ..... Ｐ 3

専門基礎分野 P15

専 門 分 野 P53

教育理念

親が子に残せる唯一の財産は教育である

養成人材像

骨折・脱臼・捻挫等の外傷の予防と治療に必要な知識・技能を修得し、患者にとって適切な施術を行うことができる柔道整復師を養成する。

教育課程編成・実施の方針

本校の教育理念に基づき、柔道整復科の養成人材像を踏まえた教育を行う上で必要なカリキュラムを作成し、基礎分野、専門基礎分野、専門分野の科目の講義、実習をおこなう。

１年次では、基礎分野（心理学、表現法、社会学、生物、外国語)、専門基礎分野（解剖学、生理学、運動学、医学史、衛生学・公衆衛生学、関係法規、柔道)、専門分野（柔道整復総論、柔道整復実技、臨床実習）の科目を履修する。社会人基礎力を身につけるとともに、柔道整復術と医学の基礎を学ぶ。また、附属臨床実習施設で臨床実習を行い、医療人としての態度や人間性、倫理観を養うとともに職業理解を深める。

２年次では、基礎分野（表現法、外国語)、専門基礎分野（運動学、病理学概論、一般臨床医学、外科学概論、整形外科学、リハビリテーション医学)、専門分野（柔道整復各論、柔道整復実技、臨床実習）の科目を履修する。様々な疾病や外傷を学ぶことで、柔道整復師の業務範囲内・外の疾患を的確に評価・鑑別・施術ができる医学的知識と専門技術を身につけていく。また、臨床実習では、実習指導者の指導・監督の下で施術の介助を行い、臨床的な能力を養う。

３年次では、国家試験対策の科目や、認定実技審査に対応した科目を履修し、これまで修得した専門的知識と技術を高める。また、臨床実習では、模擬患者を相手に、問診から施術、施術録（カルテ）の作成まで、一連の流れが実践できる能力を養う。医療面接を通して医療人としてのコミュニケーション能力や、鑑別診断、外傷を適切に処置できる知識と技術を修得するとともに、臨床実習終了後は、症例報告会を行い、意見交換を行うことで、専門的知識の理解を深める。

以上を通して、柔道整復師としての専門的知識と技術を身につけ、柔道整復師の国家資格取得を目指す。

柔道整復科　科目及び授業時間数

令和５年度　入学生					1年次		2年次		3年次	
分野	教育内容	科目名	単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数
基礎分野	科学的思考の基盤人間と生活	心理学	2	30	2	30				
		表現法Ⅰ	2	30	2	30				
		表現法Ⅱ	2	30			2	30		
		社会学	2	30	2	30				
		生物	2	30	2	30				
		外国語Ⅰ	2	30	2	30				
		外国語Ⅱ	2	30			2	30		
		小　計	14	210	10	150	4	60		
専門基礎分野	人体の構造と機能	解剖学Ⅰ	2	60	2	60				
		解剖学Ⅱ	3	75	3	75				
		解剖学Ⅲ	1	30					1	30
		生理学Ⅰ	3	75	3	75				
		生理学Ⅱ	3	75	3	75				
		生理学Ⅲ	1	30					1	30
		運動学Ⅰ	1	30	1	30				
		運動学Ⅱ	1	30			1	30		
		小　計	15	405	12	315	1	30	2	60
	疾病と傷害	病理学概論	2	60			2	60		
		一般臨床医学Ⅰ	2	60			2	60		
		外科学概論	2	60			2	60		
		整形外科学Ⅰ	2	60			2	60		
		ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ医学Ⅰ	2	60			2	60		
		ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ医学Ⅱ	1	15			1	15		
		小　計	11	315			11	315		
	柔道整復術の適応	一般臨床医学Ⅱ	1	15			1	15		
		整形外科学Ⅱ	1	15			1	15		
		小　計	2	30			2	30		
	保健医療福祉と柔道整復の理念	医学史	1	15	1	15				
		衛生学・公衆衛生学	2	60	2	60				
		関係法規Ⅰ	1	30	1	30				
		関係法規Ⅲ	1	30					1	30
		柔道Ⅰ	2	60	2	60				
		柔道Ⅱ	1	45					1	45
		小　計	8	240	6	165			2	75
	社会保障制度	関係法規Ⅱ	1	15					1	15
		小　計	1	15					1	15
専門分野	基礎柔道整復学	柔道整復総論Ⅰ	3	75	3	75				
		柔道整復総論Ⅱ	1	30	1	30				
		柔道整復総論Ⅲ	1	30					1	30
		基礎演習Ⅰ	2	60					2	60
		基礎演習Ⅱ	1	30					1	30
		基礎演習Ⅲ	1	30					1	30
		基礎演習Ⅳ	1	30					1	30
		基礎演習Ⅴ	1	30					1	30
		小　計	11	315	4	105			7	210
	臨床柔道整復学	柔道整復各論Ⅰ	1	30	1	30				
		柔道整復各論Ⅱ	3	75			3	75		
		柔道整復各論Ⅲ	3	75			3	75		
		柔道整復各論Ⅳ	2	60			2	60		
		柔道整復各論Ⅴ	2	60					2	60
		柔道整復各論Ⅵ	1	30					1	30
		臨床演習Ⅰ	1	30					1	30
		臨床演習Ⅱ	2	60					2	60
		臨床演習Ⅲ	2	60					2	60
		臨床演習Ⅳ	2	60					2	60
		小　計	19	540	1	30	8	210	10	300
	柔道整復実技	柔道整復実技Ⅰ	2	60	2	60				
		柔道整復実技Ⅱ	2	60	2	60				
		柔道整復実技Ⅲ	1	30	1	30				
		柔道整復実技Ⅳ	2	60			2	60		
		柔道整復実技Ⅴ	2	60			2	60		
		柔道整復実技Ⅵ	2	60			2	60		
		柔道整復実技Ⅶ	2	60			2	60		
		柔道整復実技Ⅷ	1	30			1	30		
		柔道整復実技Ⅸ	3	90					3	90
		小　計	17	510	5	150	9	270	3	90
	臨床実習	臨床実習Ⅰ	1	45	1	45				
		臨床実習Ⅱ	1	45			1	45		
		臨床実習Ⅲ	1	45					1	45
		臨床実習Ⅳ	1	45					1	45
		小　計	4	180	1	45	1	45	2	90
合　計			102	2760	39	960	36	960	27	840

科目名	心理学								

柔道整復科Ⅰ部 A組

学年	1年	分野	基礎	単位数	2単位	時間数	30時間	期間	1学期

評価担当	井上　哲雄	担当教員	井上　哲雄

科目概要	近年、関心の高い臨床心理学や脳の働きなどから、心理学の基礎的なことがらを学習する。また、発達障害、認知症、動機づけ、情動、学習、脳科学について事例や日常的な出来事の具体例を通して詳しく学習する。

到達目標	① 人間の心理と行動を理解することにより、自己コントロール能力を高める ② 専門的仕事においての患者への正確な洞察能力を高める。

回数	単元項目	授業内容	形態	担当教員
1	心と適応(1)	心理学とは、心の強化	講義	井上
2	心と適応(2)	心の進化、心の発達	講義	井上
3	心と適応(3)	ライフサイクル、動機づけと情動	講義	井上
4	心と適応(4)	性格、知能	講義	井上
5	心と適応(5)	ストレスとメンタルヘルス	講義	井上
6	心と適応(6)	カウンセリングと心理療法	講義	井上
7	中間まとめ	1～6回まで中間まとめ	演習	井上
8	心のしくみ(1)	感覚、知覚	講義	井上
9	心のしくみ(2)	記憶、学習	講義	井上
10	心のしくみ(3)	思考、脳と心	講義	井上
11	心のしくみ(4)	脳損傷と心の動き	講義	井上
12	心のしくみ(5)	社会のなかの人	講義	井上
13	心のしくみ(6)	心と社会	講義	井上
14	期末まとめ	8～13回まで期末まとめ	演習	井上
15	総括	1～14回までの総括	講義	井上

評価方法

評価指標	中間試験	期末試験	−	−	−	−	合計
評価割合(%)	50	50	−	−	−	−	100

教科書	はじめて出会う心理学　長谷川一寿・東條正城・大島尚・丹野義彦・廣中直行　有斐閣　¥2,000＋税

教材・参考図書	適宜紹介する。

オフィスアワー	適宜確認すること。

履修上の注意点	授業の復習を充分に行うこと。

科目名	表現法Ⅰ								柔道整復科Ⅰ部 A組
学年	1年	分野	基礎	単位数	2単位	時間数	30時間	期間	1～3学期
評価担当	竹下　政雄				担当教員	竹下　政雄			
科目概要	円滑な人間関係構築を実現するための基盤としての表現(主として、話すこと・聴くこと・書くこと)力を育成する。								
到達目標	① 人間関係を円滑にする音声言語についての基礎的な知識を深め、活用できるようにする。 ② 文字言語による表現様式を理解し、目的と相手に応じて作成できるようになる。								

回数	単元項目	授業内容	形態	担当教員
1	オリエンテーション	漢字小試験(以下毎時間)、授業内容の概要説明	講義	竹下
2	返信用はがきの書き方	返信用はがきの理解と作成	講義	竹下
3	手紙の作法	手紙の基本様式の理解	講義	竹下
4	手紙の作成(1)	手紙(近況報告)作成	講義	竹下
5	手紙の作成(2)	手紙(近況報告)作成	講義	竹下
6	期末まとめ	1～5回まで期末まとめ	演習	竹下
7	1学期総括	期末まとめの反省、敬語の誤例収集の仕方の理解	講義	竹下
8	公文書の書式	公文書の書式の理解	講義	竹下
9	公文書の作成	履歴書送り状の作成	講義	竹下
10	敬語(1)	敬語の種類(尊敬語・謙譲語Ⅰ)の理解	講義	竹下
11	敬語(2)	敬語の種類(謙譲語Ⅱ・丁寧語・美化語)の理解	講義	竹下
12	敬語(3)	敬語の誤例と訂正の仕方の理解と訂正	講義	竹下
13	敬語(4)	敬語の一覧表作成	講義	竹下
14	中間まとめ	8～13回まで中間まとめ	演習	竹下
15	総括	中間まとめの反省、レポート作成の準備	講義	竹下
16	レポート作成(1)	序文、尊敬語、謙譲語Ⅰ、謙譲語Ⅱ	講義	竹下
17	レポート作成(2)	丁寧語、美化語、敬語使用上の注意	講義	竹下
18	レポート作成(3)	レポート提出	講義	竹下
19	人間関係の確立(1)	目から入る刺激、挨拶による刺激	講義	竹下
20	人間関係の確立(2)	話題、聞くことの理解	講義	竹下
21	期末まとめ	15～20回まで期末まとめ	演習	竹下
22	総括	期末まとめの反省、小論文作成のための取材の視点の理解	講義	竹下
23	おかしな日本語(1)	日常生活上の理解	講義	竹下
24	おかしな日本語(2)	医療関係上の理解	講義	竹下
25	小論文Aの作成(1)	おかしな日本語に関する小論文作成	講義	竹下
26	小論文Aの作成(2)	おかしな日本語に関する小論文作成	講義	竹下
27	小論文Aの作成(3)	人間関係の確立に関する小論文作成	講義	竹下
28	小論文Aの作成(4)	人間関係の確立に関する小論文作成	講義	竹下

29	期末まとめ	23～28 回まで期末まとめ	演習	竹下
30	総括	1 学年の総括	講義	竹下

評価方法							
評価指標	中間試験	期末試験	臨時試験	リポート	－	－	合計
評価割合(%)	40	40	10	10	－	－	100

教科書	適宜、プリントを配布する。
教材・参考図書	適宜紹介する。
オフィスアワー	適宜確認すること。
履修上の注意点	毎週、漢字テストを行うので予習・復習しておくこと。

科目名	表現法Ⅱ								柔道整復科Ⅰ部 A組
学年	2年	分野	基礎	単位数	2単位	時間数	30時間	期間	1～3学期
評価担当	大久保　正信					担当教員	大久保　正信		
科目概要	対話、応対及び説明、文書作成など、相手や場面、目的等に合った表現法の基礎を身に付けることを目的とし、講師作成の教材に基づく講義及び演習を通して、今後に生きる表現力を育成する。								
到達目標	① 目的と相手に応じた文書(履歴書、送り状、紹介書など)が作成できるようになる。 ② 乱れつつある現代の日本語の動向に流されることなく、正しい日本語を話す姿勢を身に付ける。 ③ 人間関係を成立させるための対話、応対及び説明等の医療面接が円滑に出来るようになる。								

回数	単元項目	授業内容	形態	担当教員
1	オリエンテーション	授業内容の概要説明	講義	大久保
2	履歴書の作成(1)	履歴書の意味及び作成上の留意点	講義	大久保
3	履歴書の作成(2)	履歴書作成	演習	大久保
4	履歴書の作成(3)	履歴書作成(提出→添削後返却)	演習	大久保
5	送り状の作成(1)	送り状の書式及び作成上の留意点	講義	大久保
6	送り状の作成(2)	送り状作成(提出→添削後返却)	講義	大久保
7	中間まとめ	1～6回まで中間まとめ	演習	大久保
8	敬語(1)	敬語の必要性、敬語の種類	講義	大久保
9	敬語(2)	敬語の種類とその使い方	演習	大久保
10	敬語(3)	敬語の種類とその使い方	演習	大久保
11	医療面接(1)	医療面接の留意点	講義	大久保
12	医療面接(2)	医療面接の実際	演習	大久保
13	医療面接(3)	医療面接の実際	演習	大久保
14	中間まとめ	8～13回まで中間まとめ	演習	大久保
15	論理的文章の作成(1)	論理的文章の特徴、資料収集(取材)の仕方	講義	大久保
16	論理的文章の作成(2)	論理的文章の構成、構想表の使い方	講義	大久保
17	論理的文章の作成(3)	作成上の留意点(文体、文の組み立て)	講義・演習	大久保
18	論理的文章の作成(4)	作成上の留意点(接続する語句と接続の仕方)	講義・演習	大久保
19	論理的文章の作成(5)	作成上の留意点(修飾と被修飾、形容詞)	講義・演習	大久保
20	論理的文章の作成(6)	作成上の留意点(副詞、表記、原稿用紙)	講義・演習	大久保
21	小論文作成(1)	小論文の構成(構想表を使用して)	講義	大久保
22	期末まとめ	15～21回まで期末まとめ	演習	大久保
23	小論文作成(2)	小論文の作成(提出→添削後返却)	演習	大久保
24	小論文作成(3)	小論文の作成(推敲して修正)	演習	大久保
25	小論文作成(4)	小論文の作成(清書して提出)	演習	大久保
26	紹介書の作成(1)	情報提供紹介書の書式と作成上の留意点	講義	大久保
27	紹介書の作成(2)	情報提供紹介書の作成	演習	大久保

28	助動詞(1)	助動詞の働きと意味による分類	講義・演習	大久保
29	助動詞(2)	助動詞「れる・られる」他	講義	大久保
30	期末まとめ	23～28 回まで期末まとめ	演習	大久保
31	総合まとめ	1～30 回まで総合まとめ	講義	大久保

評価方法

評価指標	中間試験	期末試験	臨時試験	リポート	−	−	合計
評価割合(%)	40	40	10	10	−	−	100

教科書	適宜、プリントを配布する。
教材・参考図書	適宜紹介する。
オフィスアワー	適宜確認すること。
履修上の注意点	講義をしっかり聞いて、演習に臨み、課題の提出期日に遅れず提出すること。また、講義の内容は補習で補足する。

科目名	社会学								柔道整復科Ⅰ部 A組
学年	1年	分野	基礎	単位数	2単位	時間数	30時間	期間	1学期
評価担当	下迫　勇夫			担当教員	下迫　勇夫				
科目概要	現代社会における様々な問題を発見し、考察することで社会への興味・関心を高め、社会人として必要な基礎知識を身につける。またグループワークを通して傾聴性や協調性などの能力を育成する。								
到達目標	① 日本の政治体制・三権分立・権利の仕組みについて理解する。 ② 宗教(仏教・キリスト教・イスラム教)について理解し、宗教問題について説明することができる。 ③ 国際連合・国際政治・国際社会についての関係を理解し説明することができる。								

回数	単元項目	授業内容	形態	担当教員
1	オリエンテーション	日本史のまとめ	講義	下迫
2	日本現代史(1)	日本現代史	講義	下迫
3	日本現代史(2)	日本現代史、日本の民主化	講義	下迫
4	日本国憲法(1)	条文の構成、第九条、第二十五条、第九十六条、	講義	下迫
5	日本国憲法(2)	国会、内閣、衆議院内閣制	講義	下迫
6	日本国憲法(3)	司法権、裁判所のしくみ、三審制	講義	下迫
7	中間まとめ	1～6回まで中間まとめ	演習	下迫
8	日本の経済(1)	GDP、第二次大戦後の経済体制(1)	講義	下迫
9	日本の経済(2)	第二次大戦後の経済体制(2)、変動相場制	講義	下迫
10	宗教　三大宗教	キリスト教の起こりと展開、イスラム教の起こり	講義	下迫
11	パレスチナ問題	イスラエルの建国とパレスチナ難民、イスラム原理主義	講義	下迫
12	国際連合	組織と機能	講義	下迫
13	東西冷戦	平和共存、WTO、TPP	講義	下迫
14	期末まとめ	8～13回まで期末まとめ	演習	下迫
15	総括	1～14回までの総括	講義	下迫

評価方法							
評価指標	中間試験	期末試験	－	－	－	－	合計
評価割合(%)	50	50	－	－	－	－	100

教科書	適宜、プリントを配布する。
教材・参考図書	適宜紹介する。
オフィスアワー	適宜確認すること。
履修上の注意点	新聞を読む習慣を身につけること。

科目名	生物								柔道整復科Ⅰ部 A 組
学年	1 年	分野	基礎	単位数	2 単位	時間数	30 時間	期間	1～2 学期
評価担当	田淵　弘太郎					担当教員	田淵　弘太郎		
科目概要	生物学は健康や病気を理解するために欠かせない基礎的な学問である。ヒトの詳細な機能を理解するためには『生物』というものをより詳しく理解しなければならない。本講義ではヒトの構造・機能を理解するのに必要な基礎的な理解・知識について講義を行う。								
到達目標	① 生物の定義を理解しヒトの構造とその機能を理解し説明できる。 ② 体内おける物質代謝について説明できる。 ③ 各器官の機能について説明できる。								

回数	単元項目	授業内容	形態	担当教員
1	人体を構成する要素	原子・分子・細胞・組織・器官など	講義	田淵
2	ホメオスタシス(1)	内部環境	講義	田淵
3	ホメオスタシス(2)	ホメオスタシス	講義	田淵
4	からだの科学的構成(1)	原子の構造	講義	田淵
5	からだの科学的構成(2)	イオンと同位体	講義	田淵
6	中間まとめ	1～5 回まで中間まとめ	演習	田淵
7	からだの科学的構成(3)	分子と化学結合	講義	田淵
8	からだの科学的構成(4)	栄養素の種類(5 大栄養素)	講義	田淵
9	からだの科学的構成(5)	糖質の種類と構成元素	講義	田淵
10	からだの科学的構成(6)	蛋白質の種類と構成元素	講義	田淵
11	からだの科学的構成(7)	蛋白質の機能	講義	田淵
12	からだの科学的構成(8)	脂質の種類と構成元素	講義	田淵
13	期末まとめ	7～12 回まで期末まとめ	演習	田淵
14	からだの科学的構成(9)	栄養素の代謝	講義	田淵
15	からだの科学的構成(10)	代謝調節とホルモン	講義	田淵
16	循環器の機能(1)	心筋の特徴、刺激伝導系	講義	田淵
17	循環器の機能(2)	心電図、心周期	講義	田淵
18	循環器の機能(3)	循環調節	講義	田淵
19	呼吸器の機能(1)	換気の仕組み	講義	田淵
20	呼吸器の機能(2)	換気量と残気量	講義	田淵
21	中間まとめ	14～20 回まで中間まとめ	演習	田淵
22	神経系の基本機能(1)	静止膜電位、活動電位	講義	田淵
23	神経系の基本機能(2)	伝導、伝達	講義	田淵
24	神経系の基本機能(3)	神経線維の分類	講義	田淵
25	神経系の成り立ち(1)	中枢神経、末梢神経	講義	田淵
26	神経系の成り立ち(2)	遠心性神経、求心性神経	講義	田淵
27	神経系の成り立ち(3)	体性神経、自律神経	講義	田淵

28	期末まとめ	22～27 回まで期末まとめ	演習	田淵
29	神経系の成り立ち(4)	反射①	講義	田淵
30	神経系の成り立ち(5)	反射②	講義	田淵
31	尿の生成と排泄(1)	再吸収と分泌	講義	田淵
32	尿の生成と排泄(2)	排尿	講義	田淵
33	感覚器(1)	一般感覚	講義	田淵
34	感覚器(2)	特殊感覚(1)	講義	田淵
35	感覚器(3)	特殊感覚(2)	講義	田淵
36	期末まとめ	29～35 回まで期末まとめ	演習	田淵
37	植物機能のまとめ		講義	田淵
38	動物機能のまとめ		講義	田淵

評価方法

評価指標	中間試験	期末試験	－	－	－	－	合計
評価割合(%)	50	50	－	－	－	－	100

教科書	生理学　(公社)全国柔道整復学校協会　南江堂　¥6,600＋税
教材・参考図書	適宜紹介する。
オフィスアワー	適宜確認すること。
履修上の注意点	生理学の教科書をもちいて講義を行うが、適宜必要な理解・知識等を追加しながら講義を行うため、ノートをきちんと作成すること。前回授業の内容を踏まえて講義を実施するため、各講義後に復習を行うこと。また、講義の内容は補習で補足する。

科目名	外国語Ⅰ								柔道整復科Ⅰ部 A組
学年	1年	分野	基礎	単位数	2単位	時間数	30時間	期間	1～3学期
評価担当	井原　恒治			担当教員	井原　恒治				
科目概要	施術所業務で使える簡単な英会話の授業である。一般的な医療用語やフレーズを学んでいく。大きく分けると窓口での受付、電話での応対、主訴を訊く、検査の手順などを説明する、会計を行う、などで必要なフレーズを学習していく。その他、教養英語についても単元の中で取り入れていく。								
到達目標	① 医療現場における英語の必要性を理解し、施術所業務における英会話を身につける。								

回数	単元項目	授業内容	形態	担当教員
1	概要説明と導入 英検問題	シラバス説明、自己紹介	講義	井原
2	At Reception(1)	新出単語、Listening、Speaking	講義	井原
3	At Reception(2)	会話文内容説明、Reading、Writing	講義	井原
4	At Reception(3)	Dictation(書き取り練習)、用語ファイル	講義	井原
5	テキスト＋電話応対(1)	会話文内容説明、Speaking	講義	井原
6	テキスト＋電話応対(2)	会話文内容説明、Speaking	講義	井原
7	中間まとめ	1～6回まで中間まとめ	演習	井原
8	総評・フレーズの復習	まとめの総評とフレーズの復習	講義	井原
9	Greetings(1)	新出単語、Listening、Speaking	講義	井原
10	教養英語・夏休みの感想	簡単な英語で夏休みの思い出を書く	講義	井原
11	Greetings(2)	会話文内容説明、Dictation、用語ファイル	講義	井原
12	Chest Pain(1)	新出単語、Listening、Speaking	講義	井原
13	Chest Pain(2)	会話文内容説明、Dictation、用語ファイル	講義	井原
14	中間まとめ	8～13回まで中間まとめ	演習	井原
15	総評・フレーズの復習	まとめの総評とフレーズの復習	講義	井原
16	Head Injury(1)	新出単語、Listening、Speaking	講義	井原
17	Head Injury(2)	会話文内容説明、Dictation、用語ファイル	講義	井原
18	Dizziness(1)	新出単語、Listening、Speaking	講義	井原
19	Dizziness(2)	会話文内容説明、Dictation、用語ファイル	講義	井原
20	一般教養英語	英語の発音と表記のズレについて	講義	井原
21	フレーズの復習	フレーズの復習	講義	井原
22	期末まとめ	15～21回まで期末まとめ	演習	井原
23	教養英語・新年の抱負	簡単な英語で新年の抱負について書く	講義	井原
24	Bill Payment(1)	新出単語、Listening、Speaking	講義	井原
25	Bill Payment(2)	会話文内容説明	講義	井原
26	Bill Payment(3)	会話文内容説明	講義	井原
27	Bill Payment(4)	Dictation、コラム(一般語と専門用語)	講義	井原

28	Bill Payment(5)	その他の会計窓口での表現 Useful Expressions	講義	井原
29	期末まとめ	23～28 回まで期末まとめ	演習	井原
30	総評・フレーズの復習	まとめの総評とフレーズの復習	講義	井原
31	総合まとめ	1～30 回まで総合まとめ	講義	井原

評価方法

評価指標	中間試験	期末試験	－	－	－	－	合計
評価割合(%)	50	50	－	－	－	－	100

教科書	適宜、プリントを配布する。
教材・参考図書	適宜紹介する。
オフィスアワー	適宜確認すること。
履修上の注意点	教科書の購入はないので、プリントを配布する。小テストを適宜行うので、欠席した場合は、次の授業の予定(小テストの範囲)を各自責任持って他の受講者に確認すること。また、講義の内容は補習で補足する。

科目名	外国語Ⅱ								柔道整復科Ⅰ部 A 組
学年	2 年	分野	基礎	単位数	2 単位	時間数	30 時間	期間	1～3 学期
評価担当	井原　恒治				担当教員	井原　恒治			
科目概要	リハビリテーションに焦点をあてて作成されたテキストで主に読解を中心に学習していく。授業ではパワーポイントを使用し、読解力を付けていく為に、視覚的にも分かり易く内容を説明していく。また一般的、専門的な医療用語や英会話でのフレーズも語学用の CD プレイヤーを使用し学習していく。その他、教養英語についても単元の中で取り入れる。								
到達目標	① 疾患を理解したうえで、テキスト内容を理解することができる。 ② 医療用語・教養英語を学び、修得する。								

回数	単元項目	授業内容	形態	担当教員
1	授業概要説明と導入	シラバス説明	講義	井原
2	Chapter2 パーキンソン病(1)	Warm-up	講義	井原
3	Chapter2 パーキンソン病(2)	新出単語、Listening、Speaking	講義	井原
4	Chapter2 パーキンソン病(3)	テキスト本文内容説明、Reading、Writing	講義	井原
5	Chapter2 パーキンソン病(4)	テキスト本文内容説明、Reading、Writing	講義	井原
6	Chapter2 パーキンソン病(5)	Question & Answer	講義	井原
7	期末まとめ	1～6 回まで期末まとめ	演習	井原
8	総評・フレーズの復習	まとめの総評とフレーズの復習	講義	井原
9	Chapter2 パーキンソン病(6)	復習	講義	井原
10	実用英語	英験問題	講義	井原
11	Chapter3 骨粗鬆症(1)	Warm-up	講義	井原
12	Chapter3 骨粗鬆症(2)	新出単語、Listening、Speaking	講義	井原
13	Chapter3 骨粗鬆症(3)	テキスト本文内容説明、Reading、Writing	講義	井原
14	中間まとめ	8～13 回まで中間まとめ	演習	井原
15	総評・フレーズの復習	まとめの総評とフレーズの復習	講義	井原
16	教養英語・夏休みの感想	簡単な英語で夏休みの思い出を書く	講義	井原
17	Chapter3 骨粗鬆症(4)	テキスト本文内容説明、Reading、Writing	講義	井原
18	Chapter3 骨粗鬆症(5)	Question & Answer	講義	井原
19	Chapter3 骨粗鬆症(6)	復習	講義	井原
20	Chapter8 リウマチ(1)	Warm-up	講義	井原
21	フレーズの復習	フレーズの復習	講義	井原
22	期末まとめ	15～21 回まで期末まとめ	演習	井原
23	Chapter8 リウマチ(2)	新出単語、Listening、Speaking、Reading	講義	井原

24	Chapter8 リウマチ(3)	テキスト本文内容説明、Reading、Writing	講義	井原
25	Chapter8 リウマチ(4)	テキスト本文内容説明、Reading、Writing	講義	井原
26	Chapter8 リウマチ(5)	テキスト本文内容説明、Reading、Writing	講義	井原
27	Chapter8 リウマチ(6)	Question & Answer	講義	井原
28	課題取り組み	For Your Information(解説含む)	講義	井原
29	期末まとめ	23～28 回まで期末まとめ	演習	井原
30	総評・フレーズの復習	まとめの総評とフレーズの復習	講義	井原

評価方法

評価指標	中間試験	期末試験	発　表	ﾘｰﾃﾞｨﾝｸﾞ	ﾉｰﾄ提出	－	合計
評価割合(%)	40	40	5	5	10	－	100

教科書	The Art of Healing　荒金房子・村上仁之・Mark Lemon　南雲堂　¥1,700＋税
教材・参考図書	適宜紹介する。
オフィスアワー	適宜確認すること。
履修上の注意点	教科書に沿って学習していく。ほぼ毎回確認シートを配布し回収する。まとめ直前にはノートの提出をしてもらい、平常点への加点を行う。また、発表、モデルリーディングも加点対象となる。

科目名	解剖学Ⅰ								柔道整復科Ⅰ部 A組
学年	1年	分野	専門基礎	単位数	2単位	時間数	60時間	期間	1～2学期
評価担当	稲井　哲一朗				担当教員	稲井　哲一朗			
科目概要	人体の正常な構造を知るために、まずは細胞や組織から始まり、運動器系(骨格系、筋系)、循環器系、体表解剖について解説する。授業は講義形式で板書を多用し、図も多く描いていく。体表解剖では実際に身体に触れて、見て、知識を深めてもらいたい。								
到達目標	① 骨と筋の構造や作用を学ぶことで、関節運動がどのように行われているか説明できるようになる。 ② 血液の働きを理解し、循環ルートを説明できるようになる。 ③ 実際に身体に触れてみて、その部位の名称を答えられるようにする。								

回数	単元項目	授業内容	形態	担当教員
1	概説(1)	人体各部の名称など解剖学的用語	講義	稲井
2	概説(2)	人体の区分、細区分、人体区分線	講義	稲井
3	骨格系各論(1)	総論(骨の役割、形状による分類、構造)	講義	稲井
4	骨格系各論(2)	総論(骨の発生と成長、連結)	講義	稲井
5	骨格系各論(3)	各論(脊柱、胸郭)	講義	稲井
6	骨格系各論(4)	各論(上肢、上肢関節)	講義	稲井
7	中間まとめ	1～6回まで中間まとめ	演習	稲井
8	骨格系各論(5)	各論(下肢、下肢関節)	講義	稲井
9	骨格系各論(6)	各論(頭蓋)	講義	稲井
10	筋系(1)	筋の形態、起始と停止、作用、補助装置、神経	講義	稲井
11	筋系(2)	頭部、頸部の筋（起始・停止・神経・作用）	講義	稲井
12	筋系(3)	胸部の筋（起始・停止・神経・作用)、呼吸運動	講義	稲井
13	筋系(4)	腹部の筋（起始・停止・神経・作用）	講義	稲井
14	期末まとめ	8～13回まで期末まとめ	演習	稲井
15	筋系(5)	背部の筋（起始・停止・神経・作用）	講義	稲井
16	筋系(6)	背部の筋（起始・停止・神経・作用）	講義	稲井
17	筋系(7)	上肢帯の筋（起始・停止・神経・作用）	講義	稲井
18	筋系(8)	上腕の筋（起始・停止・神経・作用）	講義	稲井
19	筋系(9)	前腕の筋（起始・停止・神経・作用）	講義	稲井
20	筋系(10)	手の筋（起始・停止・神経・作用）	講義	稲井
21	筋系(11)	下肢帯の筋（起始・停止・神経・作用）	講義	稲井
22	中間まとめ	15～21回まで中間まとめ	演習	稲井
23	筋系(12)	大腿の筋（起始・停止・神経・作用）	講義	稲井
24	筋系(13)	下腿・足の筋（起始・停止・神経・作用）	講義	稲井
25	体表解剖(1)	体表区分、筋系、脈管系	講義	稲井
26	体表解剖(2)	神経系、感覚器系、外皮、生態計測	講義	稲井
27	骨格筋運動神経(1)	上肢の運動神経	講義	稲井

28	骨格筋運動神経(2)	下肢の運動神経	講義	稲井
29	期末まとめ	23～28 回まで期末まとめ	演習	稲井
30	骨格筋運動神経(3)	体幹の運動神経	講義	稲井

評価方法							
評価指標	中間試験	期末試験	－	－	－	－	合計
評価割合(%)	50	50	－	－	－	－	100

教科書	解剖学　(公社)全国柔道整復学校協会　医歯薬出版　¥7,800＋税
教材・参考図書	イラスト解剖学　松村譲兒　中外医学社　¥7,600＋税
オフィスアワー	適宜確認すること。
履修上の注意点	解剖学で学ぶ知識は膨大な量があるので、確実に身につけていくためには予習・復習が欠かせない。最低限、各 1 時間の予習・復習を徹底して行うこと。授業における板書では図を多用するので、色分けができるよう、ノートと 4 色以上のボールペン、もしくは色鉛筆を必ず準備すること。

科目名	解剖学Ⅱ							柔道整復科Ⅰ部 A組
学年	1年	分野	専門基礎	単位数	3単位	時間数	75時間	期間	1～3学期
評価担当	新井　文用			担当教員	新井　文用				
科目概要	人体の構造を知らなければ病気を理解することができず、当然治療することもできない。医療を志す者にとっては最も重要で基本的な科目となる。この科目では内臓系、内分泌系、神経系、感覚器系、映像解剖学について学習する。								
到達目標	① 内臓系の位置と構造を三次元的にイメージし、その基本的な働きを理解する。 ② 神経系と内分泌系の構造を理解し、他の組織とのつながりを説明できる。 ③ 感覚器系の構造と働きを理解する。 ④ X線などの画像診断装置の原理と特性について理解する。								

回数	単元項目	授業内容	形態	担当教員
1	組織(1)	細胞、組織	講義	新井
2	組織(2)	組織、骨格系総論	講義	新井
3	組織(3)	組織、神経系基礎	講義	新井
4	組織(4)	発生、器官系統	講義	新井
5	内分泌系(1)	下垂体、松果体、甲状腺、上皮小体	講義	新井
6	内分泌系(2)	副腎、膵臓、精巣、卵巣	講義	新井
7	中間まとめ	1～6回まで中間まとめ	演習	新井
8	脈管系(1)	総論、体循環と肺循環、血管の形態と構造	講義	新井
9	脈管系(2)	心臓の位置と形態、構造、弁、心臓壁の構造	講義	新井
10	脈管系(3)	刺激伝導系、心臓の脈管と神経、心膜の構造	講義	新井
11	脈管系(4)	動脈系(頭部、頸部、上肢)	講義	新井
12	脈管系(5)	動脈系(胸腹部、骨盤、下肢)	講義	新井
13	脈管系(6)	静脈系	講義	新井
14	期末まとめ	8～13回まで期末まとめ	演習	新井
15	脈管系(7)	胎児循環、リンパ系	講義	新井
16	内臓系(1)	口、口腔腺、咽頭、食道、胃、十二指腸	講義	新井
17	内臓系(2)	空腸、回腸、大腸、肝臓、胆道、膵臓、腹膜	講義	新井
18	内臓系(3)	外鼻、副鼻腔、咽頭、喉頭	講義	新井
19	内臓系(4)	気管、気管支、、肺、胸膜、縦隔	講義	新井
20	内臓系(5)	腎臓	講義	新井
21	内臓系(6)	尿管、膀胱、尿道	講義	新井
22	中間まとめ	15～21回まで中間まとめ	演習	新井
23	内臓系(7)	精巣、精管、精嚢、付属生殖器、陰茎と陰嚢	講義	新井
24	内臓系(8)	卵巣、卵管、子宮、腟、外陰部、会陰、周期的変化、胎盤	講義	新井
25	神経系(1)	神経組織、中枢神経の区分、脳室系、髄膜	講義	新井
26	神経系(2)	終脳	講義	新井

27	神経系(3)	間脳、中脳、橋、延髄	講義	新井
28	神経系(4)	小脳、脊髄、伝導路	講義	新井
29	期末まとめ	23～28 回まで期末まとめ	演習	新井
30	神経系(5)	脳神経	講義	新井
31	神経系(6)	脊髄神経後枝、頸神経叢、腕神経叢、胸神経	講義	新井
32	神経系(7)	腰神経叢、仙骨神経叢、陰部神経叢、尾骨神経	講義	新井
33	神経系(8)	デルマトーム、自律神経	講義	新井
34	感覚器(1)	皮膚、深部感覚	講義	新井
35	感覚器(2)	視覚器、聴覚器	講義	新井
36	感覚器(3)	平衡感覚器、味覚器、嗅覚器	講義	新井
37	期末まとめ	30～36 回まで期末まとめ	演習	新井
38	映像解剖	Ｘ線、ＣＴ、ＭＲＩ、サーモグラフィ	講義	新井

評価方法

評価指標	中間試験	期末試験	－	－	－	－	合計
評価割合(%)	50	50	－	－	－	－	100

教科書	解剖学　(公社)全国柔道整復学校協会　医歯薬出版　¥7,800＋税
教材・参考図書	イラスト解剖学　松村譲兒　中外医学社　¥7,600＋税
オフィスアワー	講義時に適宜確認すること。
履修上の注意点	解剖学で学ぶ知識は膨大な量があるので、確実に身につけていくためには予習・復習が欠かせない。最低限、各 1 時間の予習・復習を徹底して行うこと。細胞の内容は、生理学Ⅰでも教授する。授業における板書では図を多用するので、色分けができるよう、ノートと 4 色以上のボールペン、もしくは色鉛筆を必ず準備すること。また、講義の内容は補習で補足する。

科目名	解剖学Ⅲ							柔道整復科Ⅰ部 A組
学年	3年	分野	専門基礎	単位数	1単位	時間数	30時間	期間	2～3学期
評価担当	長門　俊一			担当教員	長門　俊一				
科目概要	1年次において履修した解剖学Ⅰ、解剖学Ⅱをもとに、国家試験対策を行う。1年次に獲得した知識をもとに国家試験を解くにあたっての技術を身につける。								
到達目標	① 人体を構成する細胞・組織・器官が身体のどの部位にあるのか理解し説明できる。 ② 諸器官の形態・構造および機能を一体として把握することができる。								

回数	単元項目	授業内容	形態	担当教員
1	人体解剖学概説	人体各部の名称など解剖学的用語	講義	長門
2	細胞および組織(1)	細胞内小器官、細胞周期と細胞分裂	講義	長門
3	細胞および組織(2)	組織の分類と特性、人体の発生	講義	長門
4	運動器系(1)	総論、脊柱、胸郭、上肢の骨格、下肢の骨格	講義	長門
5	運動器系(2)	頭蓋骨、体幹の筋、上肢の筋	講義	長門
6	運動器系(3)	下肢の筋、頭頸部の筋	講義	長門
7	脈管系(1)	血管系、心臓	講義	長門
8	脈管系(2)	動脈系、静脈系、胎児循環、リンパ系	講義	長門
9	呼吸器系(1)	鼻腔・副鼻腔、咽頭・喉頭、気管と気管支	講義	長門
10	呼吸器系(2)、消化器系(1)	肺、消化管の基本構造、口腔	講義	長門
11	消化器系(2)	咽頭、食道、胃、小腸	講義	長門
12	消化器系(3)	大腸、肝臓、胆嚢、膵臓、腹膜	講義	長門
13	泌尿器系	腎臓、尿路	講義	長門
14	生殖器系	男性生殖器、女性生殖器、受精と発生	講義	長門
15	内分泌系(1)	下垂体、松果体、甲状腺、上皮小体、副腎	講義	長門
16	内分泌系(2)、神経系(1)	膵臓、性腺、神経系の構造、脊髄、延髄と橋	講義	長門
17	神経系(2)	中脳、小脳、間脳、大脳、脳室系	講義	長門
18	神経系(3)	髄膜、脳脊髄液、脳の血管、末梢神経系	講義	長門
19	感覚器系(1)	視覚器、平衡感覚器、味覚器、嗅覚器	講義	長門

評価方法

評価指標	定期試験	－	－	－	－	－	合計
評価割合(%)	100	－	－	－	－	－	100

教科書	解剖学　(公社)全国柔道整復学校協会　医歯薬出版　¥7,800＋税
教材・参考図書	イラスト解剖学　松村譲児　中外医学社　¥7,600＋税
オフィスアワー	適宜確認すること。
履修上の注意点	解剖学で学ぶ知識は膨大な量がある。よって、確実に身につけていくためには予習・復習が欠かせない。最低限、各1時間の予習・復習を徹底して行っておくこと。また、授業における板書では図を多用するので、色分けができるよう、ノートと蛍光ペン、もしくは色鉛筆を必ず準備すること。また、講義の内容は補習で補足する。

科目名	生理学Ⅰ								柔道整復科Ⅰ部
学年	1年	分野	専門基礎	単位数	3単位	時間数	75時間	期間	1～3学期
評価担当	塩川　光一郎					担当教員	塩川　光一郎		
科目概要	生理学は、ヒトが生命活動を維持するために体の各器官がどのような営みをし、また連携しているのかを考えることで、健康や病気を理解するために欠かせない基礎的知識を習得する学問である。これは将来、疾患等の治療にあたる柔道整復師を目指す学生のために必要な学問である。								
到達目標	① 各臓器や組織の役割と働きを理解し、人体の恒常性、循環機能、生殖について説明することができる。 ② 高齢者の生理学的特徴について説明することができる。								

回数	単元項目	授業内容	形態	担当教員
1	生理学とは(1)	生理学とは、細胞膜	講義	塩川
2	生理学とは(2)	核、染色体と遺伝、細胞内小器官	講義	塩川
3	生理学とは(3)	組織・器官と生体の機能系	講義	塩川
4	生理学とは(4)	生体の恒常性と統合機能	講義	塩川
5	生理学とは(5)	体液の区分と組成	講義	塩川
6	血液(1)	血液の成分と組成	講義	塩川
7	中間まとめ	1～6回まで中間まとめ	演習	塩川
8	血液(2)	止血	講義	塩川
9	血液(3)	血液型	講義	塩川
10	血液(4)	免疫	講義	塩川
11	循環(1)	心臓（解剖・電気的活動）	講義	塩川
12	循環(2)	心臓（心電図・活動周期）	講義	塩川
13	循環(3)	血管	講義	塩川
14	期末まとめ	8～13回まで期末まとめ	演習	塩川
15	循環(4)	リンパ系、循環調節	講義	塩川
16	呼吸(1)	呼吸器系の構造、換気	講義	塩川
17	呼吸(2)	ガス交換と運搬	講義	塩川
18	呼吸(3)	呼吸周期の調節	講義	塩川
19	栄養と代謝(1)	生体に必要な栄養素	講義	塩川
20	栄養と代謝(2)	エネルギー代謝	講義	塩川
21	栄養と代謝(3)	栄養素の代謝、食物と栄養	講義	塩川
22	中間まとめ	15～21回まで中間まとめ	演習	塩川
23	消化と吸収(1)	消化器系の構造と働き(1)	講義	塩川
24	消化と吸収(2)	消化器系の構造と働き(2)	講義	塩川
25	消化と吸収(3)	食物の消化と吸収	講義	塩川
26	消化と吸収(4)	各栄養素の消化と吸収	講義	塩川
27	尿の生成と排泄（1）	腎臓の構造と機能	講義	塩川
28	尿の生成と排泄（2）	尿の生成	講義	塩川

29	期末まとめ	23～28 回まで期末まとめ	演習	塩川
30	尿の生成と排泄 (3)	腎血流量	講義	塩川
31	尿の生成と排泄 (4)	排尿、腎臓による体液の調節	講義	塩川
32	生殖(1)	性分化、男性生殖器	講義	塩川
33	生殖(2)	女性生殖器、妊娠と分娩	講義	塩川
34	体温とその調節(1)	体温、熱産生、熱放散	講義	塩川
35	体温とその調節(2)	体温調節、気候馴化、発熱とうつ熱	講義	塩川
36	高齢者の生理学的特徴(1)	細胞・組織の加齢現象	講義	塩川
37	期末まとめ	30～36 回まで期末まとめ	演習	塩川
38	高齢者の生理学的特徴(2)	高齢者の生理的特徴、運動と加齢	講義	塩川

評価方法

評価指標	中間試験	期末試験	−	−	−	−	合計
評価割合(%)	50	50	−	−	−	−	100

教科書	生理学　(公社)全国柔道整復学校協会　南江堂　¥6,000＋税
教材・参考図書	適宜紹介する。
オフィスアワー	適宜確認すること。
履修上の注意点	講義では初めて聞く専門用語が出てくるため、講義前に教科書を読んで予習をすること。講義後にノートと教科書を見比べて、しっかり復習をすること。また、講義の内容は補習で補足する。

科目名	生理学Ⅱ							柔道整復科Ⅰ部 A組
学年	1年	分野	専門基礎	単位数	3単位	時間数	75時間	期間	1～3学期
評価担当	岡本　順子				担当教員	岡本　順子			
科目概要	生理学は、本来、ヒトが生きているということはどういうことか、ヒトのからだは生きていくためにどのような営みをしているのかを考え、健康や病気を理解するために欠かせない基礎的学問であり、将来、外傷・障害の治療にあたる柔道整復師を目指す学生にとって必要な知識である。								
到達目標	① 各臓器や組織の役割と働きを理解し、内分泌の機能、骨・筋肉の基本的機能、神経系、感覚系について説明することができる。 ② 競技者の生理学的特徴ついて説明することができる。								

回数	単元項目	授業内容	形態	担当教員
1	内分泌系の機能(1)	内分泌腺、ホルモンの一般的性質	講義	岡本
2	内分泌系の機能(2)	ホルモンの種類と作用	講義	岡本
3	内分泌系の機能(3)	視床下部・下垂体	講義	岡本
4	内分泌系の機能(4)	甲状腺	講義	岡本
5	内分泌系の機能(5)	副腎皮質	講義	岡本
6	内分泌系の機能(6)	副腎髄質	講義	岡本
7	中間まとめ	1～6回まで中間まとめ	演習	岡本
8	内分泌系の機能(7)	膵臓のホルモン	講義	岡本
9	内分泌系の機能(8)	生殖腺のホルモン	講義	岡本
10	骨の生理学(1)	骨の構造、形成、成長、形成	講義	岡本
11	骨の生理学(2)	カルシウム・リン代謝、ビタミンD、ホルモン	講義	岡本
12	体液の生理学	体液の組成、酸塩基平衡	講義	岡本
13	筋肉の機能(1)	筋の種類とその特徴	講義	岡本
14	期末まとめ	8～13回期末まとめ	演習	岡本
15	筋肉の機能(2)	骨格筋の構造、筋収縮の仕組み	講義	岡本
16	筋肉の機能(3)	収縮機序とエネルギー供給	講義	岡本
17	筋肉の機能(4)	筋の熱発生、筋電図、平滑筋、心筋	講義	岡本
18	神経系の基本的機能(1)	神経細胞の形態、静止膜電位と活動電位	講義	岡本
19	神経系の基本的機能(2)	閾刺激、神経系の基本法則	講義	岡本
20	神経系の基本的機能(3)	興奮の伝導、神経の種類	講義	岡本
21	神経系の基本的機能(4)	興奮の伝達	講義	岡本
22	中間まとめ	15～21回まで中間まとめ	演習	岡本
23	神経系の機能(1)	神経系の成り立ち	講義	岡本
24	神経系の機能(2)	内臓機能の調節	講義	岡本
25	神経系の機能(3)	内臓機能の視床下部による調節	講義	岡本
26	神経系の機能(4)	姿勢と運動の調節（運動調節の仕組みと脊髄反射）	講義	岡本
27	神経系の機能(5)	姿勢と運動の調節（脳幹を中枢とする運動機能）	講義	岡本
28	神経系の機能(6)	姿勢と運動の調節（小脳と新皮質）	講義	岡本

29	期末まとめ	23～28 回まで期末まとめ	演習	岡本
30	神経系の機能(7)	高次機能（脳波・睡眠）	講義	岡本
31	神経系の機能(8)	高次機能（連合野・学習記憶）	講義	岡本
32	感覚の生理学(1)	感覚の種類、体性感覚の機能	講義	岡本
33	感覚の生理学(2)	内臓感覚、特殊感覚(嗅覚と味覚)	講義	岡本
34	感覚の生理学(3)	特殊感覚(聴覚と視覚)	講義	岡本
35	感覚の生理学(4)	特殊感覚(前庭感覚)	講義	岡本
36	競技者の生理学的特徴(1)	運動トレーニングと筋・神経系の機能	講義	岡本
37	期末まとめ	30～36 回まで期末まとめ	演習	岡本
38	競技者の生理学的特徴(2)	運動と呼吸・循環器の機能	講義	岡本

評価方法

評価指標	中間試験	期末試験	－	－	－	－	合計
評価割合(%)	50	50	－	－	－	－	100

教科書	生理学　(公社)全国柔道整復学校協会　南江堂　¥6,600＋税
教材・参考図書	適宜紹介する。
オフィスアワー	適宜確認すること。
履修上の注意点	講義では初めて聞く専門用語が出てくるため、講義前に教科書を読んで予習をすること。講義後にノートと教科書を見比べて、しっかり復習をすること。また、講義の内容は補習で補足する。

科目名	生理学Ⅲ							柔道整復科Ⅰ部 A組
学年	3年	分野	専門基礎	単位数	1単位	時間数	30時間	期間	2～3学期
評価担当	加藤　健一			担当教員	加藤　健一				
科目概要	生理学は人体の機能を明らかにし、その機能がどのような機序で現れるかを追求する学問である。現在の生理学は、解剖学的知識や実験などにより得られた科学的証拠に基づき構築されている。その成果は臨床医学の領域で病気の治療に不可欠な知識を提供している。								
到達目標	① 国家試験へ向けて基本事項～応用に至るまでの理解を深めていく中で、生理学と関連性の大きい種々の疾患を理解し、説明することができるようになる。								

回数	単元項目	授業内容	形態	担当教員
1	生理学の基礎	人体を構成する要素～輸送	講義	加藤
2	体液の生理学	体液の区分、イオン組成、恒常性維持のしくみ	講義	加藤
3	神経系の機能	神経系の成り立ち、内臓機能調節、視床下部による調節、姿勢と運動の調節、高次機能	講義	加藤
4	感覚の生理学	感覚の種類、一般的性質、体性感覚と内臓感覚、特殊感覚	講義	加藤
5	内分泌系の機能	内分泌とは、ホルモンの性質・種類・作用、視床下部、下垂体、甲状腺、副腎皮質のホルモン、副腎髄質、膵臓、性腺のホルモン	講義	加藤
6	生殖 骨の生理学	性分化、生殖器、月経周期、妊娠分娩、乳汁分泌 構造、形成と成長、再吸収と再形成、ビタミンD	講義	加藤
7	筋肉の機能	種類とその特徴、骨格筋の構造、収縮、興奮、筋長と張力、収縮エネルギー、平滑筋、心筋	講義	加藤
8	血液の生理学	血液の役割と組成、免疫機能、血液型、血液凝固	講義	加藤
9	循環の生理学(1)	心臓の機能、血管系、リンパ管系	講義	加藤
10	循環の生理学(2)	循環の調節、局所循環、脳脊髄液循環	講義	加藤
11	呼吸の生理学	換気、ガス交換、ヘモグロビンの役割、二酸化炭素の運搬、呼吸の調節、呼吸の異常	講義	加藤
12	消化と吸収(1)	消化器系の働き、運動とその調節、消化液	講義	加藤
13	消化と吸収(2)	消化、吸収、消化管ホルモン、肝臓と胆道系	講義	加藤
14	栄養と代謝	代謝、中間代謝、エネルギー代謝	講義	加藤
15	体温とその調節	体温、熱産生と熱放散、体温調節、うつ熱と発熱	講義	加藤
16	尿の生成と排泄(1)	腎の構造と機能、糸球体ろ過	講義	加藤
17	尿の生成と排泄(2)	尿細管の再吸収と分泌、尿の成分、排尿	講義	加藤
18	高齢者の生理学的特徴	老化のメカニズム、呼吸・循環器の老化、消化・泌尿器、免疫系の老化	講義	加藤
19	競技者の生理学的特徴	運動トレーニングと筋･神経系の機能､運動と呼吸･循環器の機能	講義	加藤

評価方法							
評価指標	定期試験	－	－	－	－	－	合計
評価割合(%)	100	－	－	－	－	－	100

教科書	生理学　(公社)全国柔道整復学校協会　南江堂　¥6,600＋税
教材・参考図書	適宜紹介する。
オフィスアワー	適宜確認すること。
履修上の注意点	1年次で学んだ内容をもとに、国家試験問題に対応する力を身につけていくことになるが、1年次の時より授業進度が速いので、授業で分からなかったことは、理解できるまで必ず自分で調べ、考え、質問し、解決する癖を身につけること。また、講義の内容は補習で補足する。

科目名	運動学Ⅰ								柔道整復科Ⅰ部 A組
学年	1年	分野	専門基礎	単位数	1単位	時間数	30時間	期間	2学期
評価担当	當眞　裕樹					担当教員	當眞　裕樹		
科目概要	運動学では、人間の身体運動を医科学的に分析研究した知見に基づき、人体の構造や機能を再確認しつつ、正常運動の様態および運動障害等について学習する。								
到達目標	① 人間の運動にかかわる身体の機能と構造を理解する。 ② 正常な運動を学ぶことで、何が障害されているのかをわかるようになる。								

回数	単元項目	授業内容	形態	担当教員
1	運動学の目的	運動学とは、運動学の領域と目的、運動のとらえ方	講義	當眞
2	身体運動と力学(1)	身体運動に関する力	講義	當眞
3	身体運動と力学(2)	人体における単一機械構造	講義	當眞
4	身体運動と力学(3)	運動の法則	講義	當眞
5	身体運動と力学(4)	仕事と力学的エネルギー	講義	當眞
6	神経の構造と機能	神経細胞、末梢神経、中枢神経	講義	當眞
7	中間まとめ	1～6回まで中間まとめ	演習	當眞
8	運動感覚	運動感覚と運動の制御機構	講義	當眞
9	反射と随意運動(1)	反射	講義	當眞
10	反射と随意運動(2)	随意運動	講義	當眞
11	姿勢	姿勢の分類、重心、立位姿勢、立位姿勢の制御	講義	當眞
12	歩行	歩行周期、運動学的分析、力学的分析等	講義	當眞
13	運動発達	神経組織の成熟、乳幼児期の運動発達	講義	當眞
14	期末まとめ	8～13回まで期末まとめ	演習	當眞
15	運動学習	運動技能と運動能力、学習曲線	講義	當眞

評価方法

評価指標	中間試験	期末試験	−	−	−	−	合計
評価割合(%)	50	50	−	−	−	−	100

教科書	運動学　(公社)全国柔道整復学校協会　医歯薬出版　¥4,200＋税
教材・参考図書	イラスト解剖学　松村譲児　中外医学社　¥7,600＋税
オフィスアワー	適宜確認すること。
履修上の注意点	解剖学、生理学、心理学等の諸知識を基盤とし、運動学専門分野の学習、知識の習得につとめること。また、前回授業の内容を踏まえて講義を実施するため、各講義後に復習を行うこと。

科目名	運動学Ⅱ							柔道整復科Ⅰ部 A組
学年	2年	分野	専門基礎	単位数	1単位	時間数	30時間	期間	1学期
評価担当	富永　忠雅			担当教員	富永　忠雅				
科目概要	運動学では、人間の身体運動を医科学的に分析研究した知見に基づき、人体の構造や機能を再確認しつつ、正常運動の様態および運動障害等について学習する。								
到達目標	① 正常な関節運動は、どのように行われているか説明できるようになる。 ② 正常な運動を学ぶことで、何が障害されているのかをわかるようになる。								

回数	単元項目	授業内容	形態	担当教員
1	運動の表し方	運動の表示、関節運動の表示	講義	富永
2	運動器の構造と機能(1)	骨、関節の構造と機能	講義	富永
3	運動器の構造と機能(2)	骨格筋の構造と機能	講義	富永
4	四肢と体幹の運動(1)	上肢帯の運動	講義	富永
5	四肢と体幹の運動(2)	肩関節の運動、肘関節と前腕の運動	講義	富永
6	四肢と体幹の運動(3)	手関節と手の運動	講義	富永
7	中間まとめ	1～6回まで中間まとめ	演習	富永
8	四肢と体幹の運動(4)	股関節の運動	講義	富永
9	四肢と体幹の運動(5)	膝関節の運動	講義	富永
10	四肢と体幹の運動(6)	足関節、足部の運動	講義	富永
11	四肢と体幹の運動(7)	体幹と脊柱	講義	富永
12	四肢と体幹の運動(8)	頚椎の運動、胸椎と胸郭の運動	講義	富永
13	四肢と体幹の運動(9)	腰椎・仙椎および骨盤の運動	講義	富永
14	期末まとめ	8～13回まで期末まとめ	演習	富永
15	四肢と体幹の運動(10)	顔面および頭部の運動	講義	富永

評価方法							
評価指標	中間試験	期末試験	－	－	－	－	合計
評価割合(%)	50	50	－	－	－	－	100

教科書	運動学　(公社)全国柔道整復学校協会　医歯薬出版　¥4,200＋税
教材・参考図書	イラスト解剖学　松村譲兒　中外医学社　¥7,600＋税
オフィスアワー	適宜確認すること。
履修上の注意点	講義形式は板書を中心とするので、必ずノートを持参すること。効果的に知識を習得するために、授業後の復習を欠かさず行うこと。

科目名	病理学概論							柔道整復科Ⅰ部 A 組
学年	2 年	分野	専門基礎	単位数	2 単位	時間数	60 時間	期間	1～2 学期
評価担当	大野　純					担当教員	大野　純		
科目概要	病理学は疾病の原因、成立過程、及びその結果など疾病の基本概念について学ぶものである。医療チームを構成する全ての職種に共通する必須の病理学総論が重要である。これを学ぶことで、柔道整復の臨床科目を深く理解することに繋がる。								
到達目標	① 病理を研究する方法を知り、その観察方法について考えることができ、疾病一般について意義・分類を知る。 ② 細胞傷害・循環障害・進行性病変・炎症・腫瘍などのマクロ・ミクロの形態変化を知見として捉え、修得する。								

回数	単元項目	授業内容	形態	担当教員
1	病理学とは	形態学における観察方法	講義	大野
2	疾病の一般	疾病の経過・予後・転帰	講義	大野
3	細胞傷害(退行性病変)	萎縮・変性・壊死	講義	大野
4	細胞傷害(代謝障害)(1)	尿酸代謝異常・Ca 代謝異常・色素代謝異常	講義	大野
5	細胞傷害(代謝障害)(2)	アポトーシス・死の判定・死後の変化	講義	大野
6	循環障害(1)	充血・うっ血・虚血・出血	講義	大野
7	中間まとめ	1～6 回まで中間まとめ	演習	大野
8	循環障害(2)	血栓・塞栓・梗塞	講義	大野
9	循環障害(3)	浮腫・脱水・高血圧症	講義	大野
10	進行性病変(病的増殖)	肥大・過形成・再生・化生	講義	大野
11	進行性病変と細胞組織の適応	創傷治癒・組織内異物の処理・骨折の治癒	講義	大野
12	進行性病変(病的増殖)と細胞・組織の適応	移植　再生医学　脳死の法的判定基準	講義	大野
13	炎症(1)	炎症の原因	講義	大野
14	期末まとめ	8～13 回まで期末まとめ	演習	大野
15	炎症(2)	炎症の形態学変化	講義	大野
16	炎症(3)	炎症の分類	講義	大野
17	免疫異常・アレルギー(1)	免疫の仕組み・免疫不全・後天性免疫不全	講義	大野
18	免疫異常・アレルギー(2)	自己免疫疾患・アレルギーの 5 型	講義	大野
19	腫瘍(1)	腫瘍の定義・腫瘍の組織構造	講義	大野
20	腫瘍(2)	発癌の原因・腫瘍の分類	講義	大野
21	腫瘍(3)	主要な癌	講義	大野
22	中間まとめ	15～21 回まで中間まとめ	演習	大野
23	先天性異常(1)	単遺伝子性遺伝・多因子遺伝性の形式をとる疾患	講義	大野
24	先天性異常(2)	奇形の原因・奇形成立の時期・奇形の種類	講義	大野
25	病　因(1)	内因・外因	講義	大野

26	病　因(2)	物理的外因・化学的外因・生物学的外因	講義	大野
27	運動器の病理(1)	感染性疾患・骨及び軟部腫瘍	講義	大野
28	運動器の病理(2)	関節骨疾患・骨粗鬆症・神経&筋疾患	講義	大野
29	期末まとめ	23～28 回まで期末まとめ	演習	大野
30	総合まとめ	炎症・腫瘍・感染症	講義	大野

評価方法							
評価指標	中間試験	期末試験	−	−	−	−	合計
評価割合(%)	50	50	−	−	−	−	100

教科書	病理学概論　(公社)全国柔道整復学校協会　医歯薬出版　¥3,800＋税
教材・参考図書	適宜紹介する。
オフィスアワー	適宜確認すること。
履修上の注意点	病理学の用語は直接、医療の場で使用される場合はその正確な意味に基づかなければならず、曖昧な理解は厳に慎まなければならない。よって、特に炎症・腫瘍・循環障害といった基本概念については十分に時間を費やす必要が求められる。各自、ノートには自分が後で最後に書き入れるスペースがあるような使い方をすること。また、効果的に知識を習得するために、授業後の復習を欠かさず行うこと。

科目名	一般臨床医学Ⅰ							柔道整復科Ⅰ部 A 組
学年	2 年	分野	専門基礎	単位数	2 単位	時間数	60 時間	期間	1～2 学期
評価担当	宇田津　明彦			担当教員	宇田津　明彦				
科目概要	近年、医療・保健・福祉を取り巻く環境が大きく変化し、柔道整復師はその職種の特殊性から幅広い知識の習得が必要とされている。この科目では内科疾患を中心とした疾患の概念を学ぶと同時に、柔道整復師が臨床現場で注意を払わなければならない、鑑別しなくてはならない症状・所見の理解を深める。								
到達目標	① 各器官別疾患の基礎的な知識(概念、原因、症状)を身に付ける。 ② 柔道整復師の業務上必要な、念頭に置くべき臨床症状を理解し、鑑別できるようにする。								

回数	単元項目	授業内容	形態	担当教員
1	診察概論、診察各論(1)	診察の意義、診察の進め方、医療面接、視診	講義	宇田津
2	診察各論(2)	聴診、触診	講義	宇田津
3	診察各論(3)	生命徴候、感覚検査、反射検査	講義	宇田津
4	診察各論(4)	代表的な臨床症状(1)	講義	宇田津
5	診察各論(5)	代表的な臨床症状(2)	講義	宇田津
6	検査法	生理機能検査、運動機能検査、検体検査、運動機能検査	講義	宇田津
7	中間まとめ	1～6 回まで中間まとめ	演習	宇田津
8	呼吸器疾患(1)	感染性呼吸器疾患、閉塞性呼吸器疾患	講義	宇田津
9	呼吸器疾患(2)	拘束性呼吸器疾患、気胸、その他の呼吸器疾患	講義	宇田津
10	循環器疾患(1)	心不全、心臓弁膜症、不整脈、代表的な先天性心疾患	講義	宇田津
11	循環器疾患(2)	冠動脈疾患、動脈疾患、血圧異常	講義	宇田津
12	消化器疾患(1)	口腔疾患、食道疾患、胃・十二指腸疾患	講義	宇田津
13	消化器疾患(2)	腸疾患、腹膜疾患	講義	宇田津
14	期末まとめ	8～13 回まで期末まとめ	演習	宇田津
15	代謝疾患(1)	糖代謝異常、脂質代謝異常	講義	宇田津
16	代謝疾患(2)	尿酸代謝異常、その他の代謝異常症	講義	宇田津
17	内分泌疾患(1)	下垂体疾患、甲状腺疾患	講義	宇田津
18	内分泌疾患(2)	副腎疾患	講義	宇田津
19	血液造血疾患(1)	赤血球疾患、白血球疾患	講義	宇田津
20	血液造血疾患(2)	リンパ網内系疾患、出血性素因	講義	宇田津
21	腎・尿路疾患(1)	原発性糸球体腎炎、腎不全症	講義	宇田津
22	中間まとめ	15～21 回まで中間まとめ	演習	宇田津
23	腎・尿路疾患(2)	感染症、腫瘍性疾患、結石症、前立腺疾患	講義	宇田津
24	神経疾患(1)	脳血管障害、感染性疾患、脊髄脳腫瘍	講義	宇田津
25	神経疾患(2)	基底核疾患、その他の変性疾患、認知症性疾患、筋疾患	講義	宇田津

26	感染症(1)	細菌感染症	講義	宇田津
27	感染症(2)	ウイルス感染症、性感染症	講義	宇田津
28	リウマチ・膠原病・アレルギー	総論(膠原病)、各疾患、総論(アレルギー)	講義	宇田津
29	期末まとめ	23～28 回まで期末まとめ	演習	宇田津
30	環境要因による疾患	高山病、熱中症　一酸化炭素中毒	講義	宇田津

評価方法							
評価指標	中間試験	期末試験	－	－	－	－	合計
評価割合(%)	50	50	－	－	－	－	100

教科書	一般臨床医学　(公社)全国柔道整復学校協会　医歯薬出版　¥5,800＋税
教材・参考図書	適宜紹介する。
オフィスアワー	適宜確認すること。
履修上の注意点	解剖学・生理学の基礎知識が必要であるため、きちんと理解しておくこと。また、国家試験においても重要な科目となるので、授業後の復習は確実に行うこと。

科目名	外科学概論								柔道整復科Ⅰ部 A 組
学年	2 年	分野	専門基礎	単位数	2 単位	時間数	60 時間	期間	1～2 学期
評価担当	宇田津　明彦					担当教員	宇田津　明彦		
科目概要	外傷を専門とする柔道整復師に必要な外科学の基本的知識の習得、日常の臨床の場で必要となる外科疾患の症状、診断法を修得する。								
到達目標	① 身体に起こりうる外科的疾患を学ぶ。各損傷や疾患における症状を理解し、適切な治療法や手術について説明できる。 ② 柔道整復師ができることとできないことを理解し、スムーズな医接連携ができるよう知識を身につける。								

回数	単元項目	授業内容	形態	担当教員
1	外科学とは、損傷(1)	歴史と現在、損傷について	講義	宇田津
2	損傷(2)	創傷(分類、治癒過程、処置、熱傷)	講義	宇田津
3	炎症と外科感染症(1)	炎症の定義、分類、感染症発症のメカニズム	講義	宇田津
4	炎症と外科感染症(2)	外科感染症各論	講義	宇田津
5	腫瘍(1)	成因、分類、発育形式、症状	講義	宇田津
6	腫瘍(2)	検査、治療	講義	宇田津
7	中間まとめ	1～6 回まで中間まとめ	演習	宇田津
8	ショック	4 つの分類とその原因、症状、治療	講義	宇田津
9	輸血、輸液(1)	輸血の基礎知識、適応と実際	講義	宇田津
10	輸血、輸液(2)	一般輸液と高カロリー輸液	講義	宇田津
11	手術	切開法、結紮法、縫合法、穿刺術	講義	宇田津
12	麻酔(1)	全身麻酔法	講義	宇田津
13	麻酔(2)	局所麻酔法	講義	宇田津
14	期末まとめ	8～13 回まで期末まとめ	演習	宇田津
15	移植と免疫	移植の用語、拒絶反応、移植の現状	講義	宇田津
16	出血と止血(1)	出血の分類	講義	宇田津
17	出血と止血(2)	止血の仕組み、外出血と内出血、止血法	講義	宇田津
18	心肺蘇生法	救急救命の流れ、心肺蘇生法、人工呼吸法、AED	講義	宇田津
19	脳神経外科疾患(1)	脳神経疾患の主要徴候、中枢性疾患特有な病態、画像検査	講義	宇田津
20	脳神経外科疾患(2)	頭部外傷、脳血管障害、脳腫瘍	講義	宇田津
21	甲状腺・頸部疾患	甲状腺、副甲状腺、頸部の疾患	講義	宇田津
22	中間まとめ	15～21 回まで中間まとめ	演習	宇田津
23	胸壁・呼吸器疾患(1)	胸郭・肺の検査、手術(切開法)、ドレナージ	講義	宇田津
24	胸壁・呼吸器疾患(2)	肺・胸膜の疾患、胸部損傷	講義	宇田津
25	心臓・脈管疾患(1)	心臓疾患	講義	宇田津
26	心臓・脈管疾患(2)	動脈・静脈疾患	講義	宇田津

27	乳腺疾患	診断、乳腺疾患の種類、乳癌について	講義	宇田津
28	腹部外科疾患(1)	主な症状、検査、代表的な腹部外科疾患	講義	宇田津
29	期末まとめ	23～28 回まで期末まとめ	演習	宇田津
30	腹部外科疾患(2)	その他の腹部外科疾患	講義	宇田津

評価方法							
評価指標	中間試験	期末試験	−	−	−	−	合計
評価割合(%)	50	50	−	−	−	−	100

教科書	外科学概論　(公社)全国柔道整復学校協会　南江堂　¥5,700＋税
教材・参考図書	適宜紹介する。
オフィスアワー	適宜確認すること。
履修上の注意点	外科学の授業では解剖学や生理学の知識が必要となる。よって、解剖学と生理学の教科書も併せ持っておくことが望ましい。授業後には最低 1 時間は予習・復習に充てること。

科目名	整形外科学Ⅰ								柔道整復科Ⅰ部 A 組
学年	2 年	分野	専門基礎	単位数	2 単位	時間数	60 時間	期間	1～2 学期
評価担当	八嶋　康典					担当教員	八嶋　康典		
科目概要	整形外科学は運動器の医学であり、取り扱う部位は脊柱・骨盤・四肢である。対象とする組織は骨・関節・筋・靭帯・脊髄・神経であり、これらの組織の外傷・障害、炎症、先天異常、腫瘍、変性疾患、代謝疾患、骨系統疾患を診断・治療・研究する学問である。授業では臨床上必要となる運動器疾患全般についての基礎的な知識を習得する。								
到達目標	① 運動器系の正常構造と機能を理解する。 ② 整形外科診察法・検査法・治療法を理解する。各運動器疾患の病因、病態、症候、診断、治療を理解する。								

回数	単元項目	授業内容	形態	担当教員
1	整形外科とは 運動器の基礎知識	整形外科の意義と内容・歴史、骨・関節の基礎知識、筋・腱・靭帯の基礎知識、運動器の科学	講義	八嶋
2	整形外科診察法	姿勢、体幹と四肢のバランス、上・下肢長・周径、跛行、関節拘縮と強直、徒手筋力テスト、知覚の診断、反射、検査の進め方、画像検査	講義	八嶋
3	整形外科検査法	単純エックス線撮影、X 線 CT、磁気共鳴撮影法(MRI)、各種の造影法、核医学検査、超音波検査法	講義	八嶋
4	整形外科的治療法	保存療法、観血的治療	講義	八嶋
5	骨・関節損傷総論(1)	骨折総論、定義と分類、診断と症状、治癒、治療	講義	八嶋
6	骨・関節損傷総論(2)	小児骨折の特徴、開放骨折、疲労骨折と病的骨折、合併症	講義	八嶋
7	中間まとめ	1～6 回まで中間まとめ	演習	八嶋
8	骨・関節損傷総論(4)	関節損傷	講義	八嶋
9	スポーツ整形外科 リハビリテーション	総論	講義	八嶋
10	疾患別各論(1)	感染性疾患、骨腫瘍	講義	八嶋
11	疾患別各論(2)	軟部腫瘍、変形性関節症、リウマチ、痛風	講義	八嶋
12	疾患別各論(3)	骨・関節損傷の復習	講義	八嶋
13	疾患別各論(4)	偽性痛風、血友病性関節症、関節遊離体	講義	八嶋
14	期末まとめ	8～13 回まで期末まとめ	演習	八嶋
15	疾患別各論(5)	骨粗鬆症、先天性骨系統疾患	講義	八嶋
16	疾患別各論(6)	多発性神経線維腫症、くる病、巨人症、下垂体性小人症、骨端症	講義	八嶋
17	疾患別各論(7)	四肢循環障害	講義	八嶋
18	疾患別各論(8)	上肢の神経麻痺と絞扼性神経障害	講義	八嶋
19	疾患別各論(9)	下肢の神経麻痺と絞扼性神経障害	講義	八嶋
20	疾患別各論(10)	全身性神経・筋疾患	講義	八嶋
21	疾患別各論(11)	疾患別各論復習	講義	八嶋
22	中間まとめ	15～21 回まで中間まとめ	演習	八嶋

23	身体部位別各論(1)	頸部、胸部、腰部	講義	八嶋
24	身体部位別各論(2)	肩・肩甲帯、上腕・肘関節	講義	八嶋
25	身体部位別各論(3)	前腕、手関節	講義	八嶋
26	身体部位別各論(4)	手・手指、骨盤	講義	八嶋
27	身体部位別各論(5)	大腿、膝関節	講義	八嶋
28	身体部位別各論(6)	身体部位別各論復習	講義	八嶋
29	期末まとめ	23～28 回まで期末まとめ	演習	八嶋
30	身体部位別各論(7)	下腿、足関節	講義	八嶋

評価方法

評価指標	中間試験	期末試験	−	−	−	−	合計
評価割合(%)	50	50	−	−	−	−	100

教科書	整形外科学　(公社)全国柔道整復学校協会　南江堂　¥5,600＋税 標準整形外科学　松野丈夫・中村利孝　医学書院　¥9,400＋税
教材・参考図書	適宜紹介する。
オフィスアワー	適宜確認すること。
履修上の注意点	授業のみで整形外科領域を全て学ぶには時間的余裕はあまりない。学習範囲は広いので、教科書や参考図書などを利用して予習・復習をすること。予備知識として解剖学・生理学・病理学的知識が必要となるので十分身につけておくこと。

科目名	リハビリテーション医学Ⅰ							柔道整復科Ⅰ部 A 組
学年	2 年	分野	専門基礎	単位数	2 単位	時間数	60 時間	期間	1～2 学期
評価担当	宮原　洋八				担当教員	宮原　洋八			
科目概要	今では治療の中にリハビリテーション的考えや手法が組み込まれていく傾向にある。リハビリテーション医学の理念に基づき、各疾患に対する評価法や検査法およびリハビリテーション治療について詳しく学習する。								
到達目標	① リハビリテーションの意味や内容を正しく理解し、説明ができる。 ② 各疾患に対する評価法や検査法および治療法を正しく理解し、説明ができる。 ③ リハビリテーション医学の関連職種について説明ができる。 ④ リハビリテーションと福祉に関する法律を正しく理解し、説明ができる。								

回数	単元項目	授業内容	形態	担当教員
1	リハビリテーションの理念	リハビリテーションという言葉、リハビリテーションの成立過程、障害者の復権とその源泉	講義	宮原
2	リハビリテーションの対象と障害者の実態(1)	医学的リハビリテーションの対象、リハビリテーション医学の対象	講義	宮原
3	リハビリテーションの対象と障害者の実態(2)	リハビリテーション医学と生物学的医学、障害児者の実態、身体障害児者の内訳	講義	宮原
4	障害の階層とアプローチ(1)	ICD と ICIDH、ICIDH から ICF へ、ICF-CY について	講義	宮原
5	障害の階層とアプローチ(2)	ICF コアセット、WHODAS2.0 について、障害へのアプローチ、病気と障害の相違	講義	宮原
6	リハビリテーション評価学(1)	運動学と機能解剖	講義	宮原
7	中間まとめ	1～6 回まで中間まとめ	演習	宮原
8	リハビリテーション評価学(2)	身体所見、小児運動発達の評価	講義	宮原
9	リハビリテーション評価学(3)	ADL の評価、心理的評価、認知症の評価	講義	宮原
10	リハビリテーション評価学(4)	電気生理学的検査、画像診断、運動失調	講義	宮原
11	リハビリテーション障害学と治療学(1)	リハビリテーション障害学 （障害の評価、関節拘縮、関節の変形、筋萎縮、神経麻痺）	講義	宮原
12	リハビリテーション障害学と治療学(2)	リハビリテーション障害学 (痙縮、摂食嚥下障害、高次脳機能障害、ライフサイクルと各ステージのの障害特性)	講義	宮原
13	リハビリテーション障害学と治療学(3)	リハビリテーション治療学 (障害の受容、廃用性症候群、関節拘縮、リンパ浮腫、筋力強化、中枢性麻痺と痙縮の治療)	講義	宮原
14	期末まとめ	8～13 回まで期末まとめ	演習	宮原
15	リハビリテーション障害学と治療学(4)	リハビリテーション治療学 (慢性疼痛、バイオフィードバック、歩行練習、全身運動、レクリエーション治療、リスク管理)	講義	宮原
16	リハビリテーション医学の関連職種(1)	医師・リハビリテーション科専門医、理学療法士	講義	宮原

17	リハビリテーション医学の関連職種(2)	作業療法士、看護師、言語聴覚士	講義	宮原
18	リハビリテーション医学の関連職種(3)	臨床心理士、医療ソーシャルワーカー、義肢装具士、介護支援専門員	講義	宮原
19	リハビリテーション治療技術(1)	理学療法	講義	宮原
20	リハビリテーション治療技術(2)	作業療法、言語聴覚療法	講義	宮原
21	リハビリテーション治療技術(3)	補助具	講義	宮原
22	中間まとめ	15～21 回まで中間まとめ	演習	宮原
23	高齢者のリハビリテーション(1)	平均寿命と健康寿命 フレイル	講義	宮原
24	高齢者のリハビリテーション(2)	フレイルから障害高齢者へ	講義	宮原
25	高齢者のリハビリテーション(3)	認知症、高齢者虐待、要介護への予防	講義	宮原
26	高齢者のリハビリテーション(4)	リハビリテーション前置主義、地域リハビリテーション	講義	宮原
27	高齢者のリハビリテーション(5)	パーキンソン病、脳卒中	講義	宮原
28	リハビリテーションと福祉	社会福祉、介護保険	講義	宮原
29	期末まとめ	23～28 回まで期末まとめ	演習	宮原
30	障害者スポーツ	概要、大会の歴史、分類、種目、評価と効果	講義	宮原

評価方法

評価指標	中間試験	期末試験	−	−	−	−	合計
評価割合(%)	50	50	−	−	−	−	100

教科書	リハビリテーション医学　(公社)全国柔道整復学校協会　南江堂　¥5,000＋税
教材・参考図書	適宜紹介する。
オフィスアワー	適宜確認すること。
履修上の注意点	リハビリテーションについて理論的に理解していく為には、解剖学や生理学などの基礎的な知識に加え、一般臨床学といった専門的な知識を身に付けておく必要がある。講義前には教科書を読んで予習を行う。分からない疾患等については該当科目の教科書をよく読み、最低限の知識は身に付けておくこと。

科目名	リハビリテーション医学Ⅱ							柔道整復科Ⅰ部 A組
学年	2年	分野	専門基礎	単位数	1単位	時間数	15時間	期間	3学期
評価担当	喜多村　伸明			担当教員	喜多村　伸明				
科目概要	柔道整復師は、介護支援専門員や介護サービスとの連携や運営に置いて深い関係が構築されてきている。特に介護予防における機能訓練指導を担当することも制度上可能であり、柔道整復師は医療に留まらず、今後はますます介護予防や自立支援にかかわわることが大きくなるもの考えられている。リハビリテーション医学の理念に基づき、運動器のリハビリテーションの観点から高齢者運動機能の維持と回復について詳しく学習する。								
到達目標	① 高齢者運動機能の維持と回復について、説明することができる。 ② 高齢者自立支援を理解し、説明することができる。 ③ 柔道整復師が行う機能訓練指導を理解し、説明することができる。								

回数	単元項目	授業内容	形態	担当教員
1	運動器のリハビリテーション(1)	骨折の治療と後療法 (骨折治療の考え方と骨折治癒機転、整復法と固定法、適応と原則、後療法と治癒期間、偽関節と骨癒合遷延因子)	講義	喜多村
2	運動器のリハビリテーション(2)	骨粗鬆症 (病態、骨折好発部位、診断、椎体骨折、上腕骨外科頸骨折)	講義	喜多村
3	運動器のリハビリテーション(3)	捻挫のアプローチ (定義と分類、症状と診断的アプローチ、RICE、足関節捻挫)	講義	喜多村
4	運動器のリハビリテーション(4)	上肢損傷後症候群 (肩関節、肘関節、フォルクマン拘縮、手関節と手指)	講義	喜多村
5	運動器のリハビリテーション(5)	下肢損傷後症候群 (股関節、膝関節、足関節)	講義	喜多村
6	運動器のリハビリテーション(6)	頸肩腕症候群の病態とアプローチ 腰痛症の病態とアプローチ	講義	喜多村
7	期末まとめ	1～6回まで期末まとめ	演習	喜多村
8	運動器のリハビリテーション(7)	肋骨骨折へのアプローチ アキレス腱断裂へのアプローチ	講義	喜多村

評価方法							
評価指標	期末試験	－	－	－	－	－	合計
評価割合(%)	100	－	－	－	－	－	100

教科書	リハビリテーション医学　(公社)全国柔道整復学校協会　南江堂　¥5,000＋税 柔道整復師と機能訓練指導　(公社)全国柔道整復学校協会　南江堂 ¥3,000＋税
教材・参考図書	適宜紹介する。
オフィスアワー	適宜確認すること。
履修上の注意点	講義形式は板書を中心とするので、必ずノートを持参すること。効果的に知識を習得するために、授業後の復習を欠かさず行うこと。また、講義の内容は補習で補足する。

科目名	一般臨床医学Ⅱ							柔道整復科Ⅰ部 A組
学年	2年	分野	専門基礎	単位数	1単位	時間数	15時間	期間	3学期
評価担当	宇田津　明彦				担当教員	宇田津　明彦		
科目概要	柔道整復師は、臨床現場において様々な運動器疾患に遭遇した際に柔道整復術に適する損傷と、適さない損傷を的確に判断できる能力を身につけなければならない。柔道整復師が臨床現場で注意を払わなければならない症状・所見の理解を深めるために診察の基本と疾患の概念を学ぶ。							
到達目標	① 柔道整復師が業務を行うに当たり、対象となる疾患が業務範囲内の運動器疾患なのかどうかを適切に判断することができる。 ② 患者に対する医療安全の観点から、柔道整復術を適切に実施できる能力を身に付ける。							

回数	単元項目	授業内容	形態	担当教員
1	損傷に類似した症状を示す疾患(1)	内臓疾患を疑う疼痛	講義	宇田津
2	損傷に類似した症状を示す疾患(2)	腰痛を伴う疾患	講義	宇田津
3	損傷に類似した症状を示す疾患(3)	化膿性の炎症など	講義	宇田津
4	血流障害を伴う損傷	動脈損傷、骨折、脱臼	講義	宇田津
5	末梢神経損傷を伴う損傷	腕神経叢麻痺、骨折、脱臼	講義	宇田津
6	脱臼骨折	肩関節脱臼骨折、肘関節脱臼骨折、股関節脱臼骨折、足関節脱臼骨折	講義	宇田津
7	期末まとめ	1～6回まで期末まとめ	演習	宇田津
8	外出血を伴う損傷	開放性骨折、開放性脱臼	講義	宇田津

評価方法

評価指標	期末試験	−	−	−	−	−	合計
評価割合(%)	100	−	−	−	−	−	100

教科書	医療の中の柔道整復　(公社)全国柔道整復学校協会　南江堂 ¥2,300＋税
教材・参考図書	適宜紹介する。
オフィスアワー	適宜確認すること。
履修上の注意点	解剖学・生理学の基礎知識が必要であるため、きちんと理解しておくこと。また、国家試験においても重要な科目となるので、授業後の復習は確実に行うこと。予備知識として解剖学・生理学・病理学的知識が必要となるので十分身につけておくこと。また、講義の内容は補習で補足する。

科目名	整形外科学Ⅱ								柔道整復科Ⅰ部 A組
学年	2年	分野	専門基礎	単位数	1単位	時間数	15時間	期間	3学期
評価担当	八嶋　康典					担当教員	八嶋　康典		
科目概要	柔道整復師は、臨床現場において様々な運動器疾患に遭遇した際に柔道整復術に適する損傷と、適さない損傷を的確に判断できる能力を身につけなければならない。柔道整復師が臨床現場で注意を払わなければならない症状・所見の理解を深めるために運動器疾患全般の知識を学ぶ。								
到達目標	① 柔道整復師が業務を行うに当たり、対象となる運動器疾患が業務範囲にあるかどうかを適切に判断することができる。 ② 患者に対する医療安全の観点から、柔道整復術を適切に実施できる能力を身に付ける。								

回数	単元項目	授業内容	形態	担当教員
1	病的骨折および脱臼	病的骨折、病的脱臼	講義	八嶋
2	意識障害を伴う損傷	頭蓋骨骨折、脳挫傷、外傷性クモ膜下出血、急性硬膜外出血、急性硬膜下出血、急性脳内出血、慢性硬膜下出血	講義	八嶋
3	脊髄損傷症状のある損傷(1)	頸髄損傷、非骨傷性頸髄損傷	講義	八嶋
4	脊髄損傷症状のある損傷(2)	胸椎・腰椎損傷、非骨傷性胸椎・腰椎部脊髄損傷	講義	八嶋
5	呼吸運動障害を伴う損傷	胸部外傷	講義	八嶋
6	内臓損傷の合併が疑われる損傷	骨折、脱臼	講義	八嶋
7	期末まとめ	1～6回まで期末まとめ	演習	八嶋
8	高エネルギー損傷	外傷性ショック、播種性血管内凝固症候群、脂肪塞栓症候群、深部静脈血栓症、肺血栓塞栓症	講義	八嶋

評価方法							
評価指標	期末試験	－	－	－	－	－	合計
評価割合(%)	100	－	－	－	－	－	100

教科書	医療の中の柔道整復　(公社)全国柔道整復学校協会　南江堂 ¥2,300＋税
教材・参考図書	適宜紹介する。
オフィスアワー	適宜確認すること。
履修上の注意点	授業のみで整形外科領域を全て学ぶには時間的余裕はあまりない。学習範囲は広いので、教科書や参考図書などを利用して予習・復習をすること。予備知識として解剖学・生理学・病理学的知識が必要となるので十分身につけておくこと。また、講義の内容は補習で補足する。

科目名	医学史								柔道整復科Ⅰ部 A組
学年	1年	分野	専門基礎	単位数	1単位	時間数	15時間	期間	1学期
評価担当	田代　秀敏					担当教員	田代　秀敏		
科目概要	医学は過去の長い歴史を通じて発達したものであるが、その全体像をとらえることはきわめて難しい。医学の発達を、経験治療から自然科学として発展した部分を紹介し、現代の医学および医療の基礎的な発展の経緯を学ぶ。また、医療人としての基本的倫理・患者の権利の基礎を学ぶ。								
到達目標	① 医学の歴史的展開により我が国における医療・医学の姿を知り、臨床医学が EBM；Evidence based medicine という概念から、治療到達をいかに患者の望むものにするのかというものを修得する。 ② 柔道整復術の成り立ちを学び、柔道整復の基本理念を習得する。								

回数	単元項目	授業内容	形態	担当教員
1	医学と医療(1)	温故知新、医学の歴史、ヒポクラテス、ベサリウス	講義	田代
2	医学と医療(2)	フレミング、北里柴三郎	講義	田代
3	医学と医療(3)	臨床疫学と EBM、科学とは	講義	田代
4	医学と医療(4)	医療と医学、臨床疫学、医の倫理	講義	田代
5	医療と社会(1)	医の倫理、柔道整復師の倫理綱領	講義	田代
6	中間まとめ	1～5回まで中間まとめ	演習	田代
7	医療と社会(2)	患者の権利	講義	田代
8	医療と社会(3)	医療安全	講義	田代
9	保険・医療・介護(1)	社会保障制度(1)社会保険	講義	田代
10	保険・医療・介護(2)	社会保障制度(2)社会福祉	講義	田代
11	保険・医療・介護(3)	公衆衛生と保健	講義	田代
12	保険・医療・介護(4)	わが国の医療システム、医療従事者と医療施設	講義	田代
13	期末まとめ	7～12回まで期末まとめ	演習	田代
14	保険・医療・介護(5)	チーム医療、リハビリテーション、介護	講義	田代
15	医療経済学と医療政策	国民医療費	講義	田代

評価方法

評価指標	中間試験	期末試験	−	−	−	−	合計
評価割合(%)	50	50	−	−	−	−	100

教科書	医療概論　系統看護学講座　医学書院　¥2,200＋税
教材・参考図書	適宜紹介する。
オフィスアワー	適宜確認すること。
履修上の注意点	講義形式はテキストを中心とするので、必ずノートを持参すること。効果的に知識を習得するために、医学概論という広い内容に入るので、キーワードを中心にメモするようにすること。

科目名	衛生学・公衆衛生学							柔道整復科Ⅰ部 A 組
学年	1 年	分野	専門基礎	単位数	2 単位	時間数	60 時間	期間	1～2 学期
評価担当	本川　渉				担当教員	本川　渉			
科目概要	衛生学・公衆衛生学は環境を整え、傷病を予防し健康の保持増進を図る目的の学問である。柔道整復師も他の医療資格者と共に地域の公衆衛生の推進者となることが期待されている。健康を規定する社会的因子を広くとらえ医療関係者が健康維持・増進にどのように関わっていくべきか講義する。								
到達目標	① 基本的な衛生学・公衆衛生学の知識を修得し、柔道整復師として勤務・開業した後の公衆衛生活動に役立てることが出来るようになること。 ② 国家試験に必要な頻出内容を重点的に網羅していき合格できる実力を修得する。								

回数	単元項目	授業内容	形態	担当教員
1	衛生学・公衆衛生学の歴史と公衆衛生活動	衛生学と公衆衛生学の歴史を学びその違いを理解する。公衆衛生活動の概略を理解する。	講義	本川
2	健康の概念(1)	WHO 憲章を中心に健康についての理解を深める。慢性疾患の予防に重要視される生活の要素を考える。	講義	本川
3	健康の概念(2)	様々な健康指標の意味を理解し日本と諸外国の健康水準を比較する。	講義	本川
4	感染症の予防(1)	感染症が成立するための要件や各種の病原微生物の分類・特徴・感染経路などを理解する。	講義	本川
5	感染症の予防(2)	感染症の予防対策(感染症法や予防接種など)、最近の動向や院内感染の問題を理解する。	講義	本川
6	消毒(1)	化学的消毒法や理学的消毒法の分類や殺菌スペクトル、使用領域や禁忌を理解する。	講義	本川
7	中間まとめ	1～6 回まで中間まとめ	演習	本川
8	消毒(2)	消毒法の応用として具体的な手指皮膚、施術所などでの実施方法を習得する。院内感染の予防のための消毒法を理解する。	講義	本川
9	環境衛生(1)	様々な環境問題について理解する。温熱の 4 要素と測定法を理解する。	講義	本川
10	環境衛生(2)	化学的環境要因およびわが国の 4 大公害訴訟を中心に公害の問題について考える。大気汚染物質の種類、最近の環境問題について理解する。	講義	本川
11	生活環境・食品衛生活動(1)	水の衛生と基準、居住環境について理解する。食中毒の原因なる病原微生物について理解する。	講義	本川
12	生活環境・食品衛生活動(2)	栄養と健康について理解を深める。廃棄物処理の指標と具体的方法を学ぶ。	講義	本川
13	母子保健	母子保健の現状と母子保健の指標となる様々な統計を理解する。	講義	本川
14	期末まとめ	8～13 回まで期末まとめ	演習	本川
15	学校保健(1)	学校保健の意味、学校保健の組織と運営について理解する。学校保健管理、特に感染症の予防について理解する。	講義	本川
16	学校保健(2)	学校環境管理とその主な内容、保健教育と学齢期の健康状況の統計を理解する。	講義	本川

17	産業保健(1)	産業保健と労働衛生管理について理解する。最近の職場の特徴について理解する。	講義	本川
18	産業保健(2)	職業病とその対策、職場における健康診断と健康増進について理解する。	講義	本川
19	成人・高齢者保健(1)	成人、高齢者の健康状態を理解する。生活習慣病のでは悪性新生物について過去からの推移と諸外国との比較を行う。	講義	本川
20	成人・高齢者保健(2)	悪性新生物以外の生活習慣病について理解する。高齢者医療確保法、介護保険制度について理解する。	講義	本川
21	精神保健(1)	精神保健の定義と歴史、主な精神疾患について理解をする。	講義	本川
22	中間まとめ	15～21 回まで中間まとめ	演習	本川
23	精神保健(2)	(1)の続きと精神保健活動と原則、その中でも精神保健福祉法における入院形態を特に理解する。	講義	本川
24	地域保健と国際保健(1)	地域とその特徴、地域保健課活動について理解する。	講義	本川
25	地域保健と国際保健(2)	保健に関する国際協力と世界保健機関(WHO)について。特に WHO の活動内容を重点的に理解する。国際的な環境保全戦略について理解する。	講義	本川
26	衛生行政と保健医療の制度(1)	衛生行政やわが国の衛生行政機構について。特に保健所の業務について理解を深める。保健医療従事者の全体像を理解する。	講義	本川
27	衛生行政と保健医療の制度(2)	医療保険制度の仕組みや財源などを理解する。増大する国民医療費の現状と健康作り対策「健康日本 21」について重点的に理解する。	講義	本川
28	医の倫理	医療及び公衆衛生活動の問題と倫理について理解する。医療の安全の確保と対策を理解する。	講義	本川
29	期末まとめ	23～28 回まで期末まとめ	演習	本川
30	疫学	具体的調査方法、特に分析疫学におけるコホート研究と患者対照研究、介入研究について理解する。	講義	本川

評価方法

評価指標	中間試験	期末試験	−	−	−	−	合計
評価割合(%)	50	50	−	−	−	−	100

教科書	衛生学･公衆衛生学　(公社)全国柔道整復学校協会　南江堂　¥5,000＋税
教材・参考図書	適宜紹介する。
オフィスアワー	適宜確認すること。
履修上の注意点	授業内容について当日中にまとめたノートを作り復習すること。授業中に重要な部分は教科書にチェックさせるので、ノートを作る際に参照すること。

科目名	関係法規Ⅰ							柔道整復科Ⅰ部 A組
学年	1年	分野	専門基礎	単位数	1単位	時間数	30時間	期間	1～2学期
評価担当	小礒　嘉貴			担当教員	小礒　嘉貴				
科目概要	国民は憲法の基本的人権に基づき、良質かつ適切な医療の提供を受ける権利を有している。そのためには意向を十分に尊重した医療を提供しなければならない。また、秘密保持ということだけでなくプライバシーを保護し、個人情報の適切な取扱い、インフォームド・コンセントも当然求められる医療の一端を担う柔道整復師は、当然医療制度の中で医事法規を十分理解し、倫理観をもってその職責を全うすることが大切である。								
到達目標	① 現代法は、禁止・罰則のためだけのものではなく、社会における人の権利、人権を守ることが目的である。医療の中心も人、患者であり、その権利と医療従事者自体の権利を守ることも、法の精神であることを修得する。 ② 柔道整復師として業務に従事するうえで、「柔道整復師法」とその業務や医療従事者一般として必要な医事福祉法規を中心に、理解しておくべき法令を修得する。								

回数	単元項目	授業内容	形態	担当教員
1	職業倫理(1)	医療従事者の職業倫理	講義	小礒
2	職業倫理(2)	柔道整復師に求められる倫理	講義	小礒
3	序論(1)	法の意義、法の体系	講義	小礒
4	序論(2)	柔道整復師および柔道整復に関する法律、柔道整復師と患者の権利	講義	小礒
5	総則	柔道整復師法の目的、定義	講義	小礒
6	中間まとめ	1～5回まで中間まとめ	演習	小礒
7	免許(1)	柔道整復師免許、免許を受けるための要件	講義	小礒
8	免許(2)	免許の申請	講義	小礒
9	免許(3)	免許の取り消し	講義	小礒
10	免許証(1)	柔道整復師免許証及び柔道整復師免許証明書、書き換え交付	講義	小礒
11	免許証(2)	再交付、返納および提出、行政処分	講義	小礒
12	柔道整復師名簿	登録事項、訂正、登録の削除	講義	小礒
13	期末まとめ	7～12回まで期末まとめ	演習	小礒
14	柔道整復師国家試験	試験の実施、合格証書と合格証明書	講義	小礒
15	業務(1)	業務の禁止、業務範囲	講義	小礒
16	業務(2)	秘密を守る義務	講義	小礒
17	業務(3)	都道府県知事の指示、緊急時における厚生労働大臣の事務執行	講義	小礒
18	施術所	施術所の届け出、施術所の構造設備、施術所に対する監督	講義	小礒
19	雑則	広告の制限、名称の制限、経過措置の制定	講義	小礒
20	罰則、指定登録機関及び指定試験期間	罪刑法定主義、柔道整復師法に定められている罰則、両罰規定、指定登録機関、指定試験期間	講義	小礒
21	中間まとめ	14～20回まで中間まとめ	演習	小礒

22	医療従事者の資格法(1)	医師法、歯科医師法、保健師助産師看護師法、診療放射線技師法、臨床検査技師等に関する法律、理学療法士及び作業療法士法	講義	小礒
23	医療従事者の資格法(2)	視能訓練士法、義肢装具士法、救急救命士法、歯科技工士法、薬剤師法	講義	小礒
24	医療法	医療法、医療法施行令	講義	小礒
25	社会福祉関係法規(1)	社会福祉法、生活保護法、児童福祉法、身体障害者福祉法	講義	小礒
26	社会福祉関係法規(2)	知的障害者福祉法、老人福祉法、障害者自立支援法	講義	小礒
27	社会保険関係法規(1)	健康保険法、国民健康保険法、高齢者の医療の確保に関する法律	講義	小礒
28	期末まとめ	22～27 回まで期末まとめ	演習	小礒
29	社会保険関係法規(2)	介護保険法、各共済組合法、労働者災害補償保険法	講義	小礒
30	その他の関係法規	個人情報の保護に関する法律	講義	小礒

評価方法

評価指標	中間試験	期末試験	−	−	−	−	合計
評価割合(%)	50	50	−	−	−	−	100

教科書	関係法規　(公社)全国柔道整復学校協会　医歯薬出版　¥2,400＋税
教材・参考図書	適宜紹介する。
オフィスアワー	適宜確認すること。
履修上の注意点	全体的な法規を熟知しておくことが大切である。基本的には柔道整復師法が主体となるが、細かい点で注意すべき事項を授業で指摘する。授業は板書を中心に行うので、ノートを必ず持参すること。

科目名	関係法規Ⅲ							柔道整復科Ⅰ部 A組
学年	3年	分野	専門基礎	単位数	1単位	時間数	30時間	期間	1～3学期
評価担当	坂主　充史			担当教員	坂主　充史				
科目概要	医療の一端を担う柔道整復師は、当然医療制度の中で医事法規を十分に理解し、倫理観をもって職責を全うしなければならない。柔道整復師として業務に従事するうえで必要な「柔道整復師法」とその業務内容を修得するとともに、職業倫理を身に付ける。								
到達目標	① 1・2年次で習得した知識を基礎とし、た柔道整復師の業務内容を踏まえ、柔道整復師法と実際の業務内容、他の医療資格の業務内容、医療法との関係を修得する。 ② 各疾患、各外傷が柔道整復師の業務範囲か否かを鑑別できるようになる。								

回数	単元項目	授業内容	形態	担当教員
1	序論(1)	法の意義、法の体系	講義	坂主
2	序論(2)	柔道整復師および柔道整復に関する法律、柔道整復師と患者の権利	講義	坂主
3	序論(3)	患者の権利、医療過誤とリスクマネジメント	講義	坂主
4	総則(1)	柔道整復師法の目的	講義	坂主
5	総則(2)	柔道整復師の定義	講義	坂主
6	免許(1)	柔道整復師免許	講義	坂主
7	免許(2)	免許を受けるための要件	講義	坂主
8	免許(3)	免許の申請、免許の取り消し	講義	坂主
9	免許証(1)	柔道整復師免許証(免許証明書)、書き換え交付、再交付	講義	坂主
10	免許証(2)	返納および提出、行政処分	講義	坂主
11	柔道整復師名簿(1)	登録事項、訂正	講義	坂主
12	柔道整復師名簿(2)	登録の削除	講義	坂主
13	柔道整復師国家試験	試験の実施、合格証書と合格証明書	講義	坂主
14	業務(1)	業務の禁止	講義	坂主
15	業務(2)	業務範囲	講義	坂主
16	業務(3)	秘密を守る義務	講義	坂主
17	業務(4)	都道府県知事の指示、緊急時における厚生労働大臣の事務執行	講義	坂主
18	施術所(1)	施術所の届け出	講義	坂主
19	施術所(2)	施術所の構造設備	講義	坂主
20	施術所(3)	施術所に対する監督	講義	坂主
21	雑則(1)	広告の制限	講義	坂主
22	雑則(2)	名称の制限	講義	坂主
23	罰則(1)	罪刑法定主義	講義	坂主
24	罰則(2)	柔道整復師法に定められている罰則	講義	坂主

25	罰則(3)	両罰規定	講義	坂主
26	医療従事者の資格法(1)	医師法、歯科医師法、保健師助産師看護師法、診療放射線技師法、	講義	坂主
27	医療従事者の資格法(2)	理学療法士及び作業療法士法、救急救命士法	講義	坂主
28	医療法	目的、開設の許可、医療施設の定義	講義	坂主
29	社会保障	社会福祉関係法規と社会保険関係法規	講義	坂主
30	個人情報保護法	医療における個人情報	講義	坂主
31	総合まとめ(1)	1回～30回の演習問題	演習	坂主
32	総合まとめ(2)	1回～30回の演習問題	演習	坂主
33	総合まとめ(3)	1回～30回の演習問題	演習	坂主
34	総合まとめ(4)	1回～30回の演習問題	演習	坂主

評価方法

評価指標	定期試験	－	－	－	－	－	合計
評価割合(%)	100	－	－	－	－	－	100

教科書	関係法規　(公社)全国柔道整復学校協会　医歯薬出版　¥2,400＋税 社会保障制度と職業倫理　(公社)全国柔道整復学校協会　医歯薬出版　¥2,000＋税
教材・参考図書	適宜紹介する。
オフィスアワー	適宜確認すること。
履修上の注意点	全体的な法規を熟知しておくことが大切である。基本的には柔道整復師法が主体となるが、細かい点で注意すべき事項を授業で指摘する。法規を知り、医療人としての自覚に再確認する必要がある。効果的に知識を習得するために、授業後の復習を欠かさず行うこと。また、講義の内容は補習で補足する。

科目名	柔道Ⅰ								柔道整復科Ⅰ部 A組
学年	1年	分野	専門基礎	単位数	2単位	時間数	60時間	期間	1～3学期
評価担当	舘原　宗幸、富永　忠雅			担当教員	舘原　宗幸、富永　忠雅				
科目概要	授業では武道の基本である礼法の修得、怪我防止のため受身の修得には十分時間を費やす。その後、基本的な技を説明し、打ち込み動作の練習を行なう。最終的には技の理合いを投の形を通じて理解する。また寝技の固め技(関節技等)を行ない、柔道整復術の成り立ちを学ぶ。								
到達目標	① 「礼に始まり礼に終わる」の武道精神、柔道と柔道整復師の関係を知る。 ② 柔道を通して柔道整復術の成り立ちを学ぶ。 ② 受身や立技・寝技の技を修得する。								

回数	単元項目	授業内容	形態	担当教員
1	オリエンテーション	授業概要等の説明	実技	舘原・富永
2	柔道の基本動作(1)	礼法(立礼・座礼・立ち方・座り方)	実技	舘原・富永
3	柔道の基本動作(2)	礼法、受身(前方・後方・側方)	実技	舘原・富永
4	柔道の基本動作(3)	礼法、前方回転受身	実技	舘原・富永
5	期末まとめ	1～4回まで期末まとめ	演習	舘原・富永
6	柔道の技(1)	組み方(体捌き、崩し方)	実技	舘原・富永
7	柔道の技(2)	送足払、打ち込み練習、技を用いての受身練習	実技	舘原・富永
8	柔道の技(3)	大外刈、打ち込み練習、技を用いての受身練習	実技	舘原・富永
9	柔道の技(4)	大腰、打ち込み練習、技を用いての受身練習	実技	舘原・富永
10	柔道の技(5)	大外刈、大腰を用いての移動打ち込み	実技	舘原・富永
11	柔道の技(6)	相手を崩し、技を掛ける練習	実技	舘原・富永
12	柔道の技(7)	相手を崩し、技を掛ける練習	実技	舘原・富永
13	中間まとめ	6～12回まで中間まとめ	演習	舘原・富永
14	柔道の技(8)	固め技(袈裟固、横四方固、上四方固) 寝技の攻防(お互いが背中合わせから)	実技	舘原・富永
15	柔道の技(9)	固め技(縦四方固、肩車)、寝技の攻防(一方が腹臥位から)	実技	舘原・富永
16	柔道の技(10)	固め技(裸絞、送襟絞、片羽絞)、寝技の攻防(一方が背臥位から)	実技	舘原・富永
17	柔道の技(11)	固め技(腕がらみ、腕挫十字固)、寝技の乱取	実技	舘原・富永
18	柔道の技(12)	一本背負投、打ち込み練習、技を用いての受身練習	実技	舘原・富永
19	柔道の技(13)	背負投、打ち込み練習、技を用いての受身練習	実技	舘原・富永
20	期末まとめ	14～19回まで期末まとめ	演習	舘原・富永
21	柔道の技(14)	釣込腰、打ち込み練習、技を用いての受身練習	実技	舘原・富永
22	柔道の技(15)	約束乱取	実技	舘原・富永
23	柔道の技(16)	投げ形(礼法、体捌き)	実技	舘原・富永
24	柔道の技(17)	投げ形(浮落)	実技	舘原・富永
25	柔道の技(18)	投げ形(背負投、肩車)	実技	舘原・富永

26	柔道の技(19)	投げ形(浮腰、払腰)	実技	舘原・富永
27	柔道の技(20)	投げ形(釣込腰、送足払)	実技	舘原・富永
28	期末まとめ	21～27 回まで期末まとめ	演習	舘原・富永
29	柔道の技(25)	投げ形(支釣込足、内股)	実技	舘原・富永
30	総合まとめ	1～29 回まで総合まとめ	実技	舘原・富永

評価方法

評価指標	中間試験	期末試験	−	−	−	−	合計
評価割合(%)	50	50	−	−	−	−	100

教科書	適宜、プリントを配布する。
教材・参考図書	適宜紹介する。
オフィスアワー	適宜確認すること。
履修上の注意点	健康管理に十分注意し、柔道授業に臨むこと。怪我防止のため、ふざけることや私語はしないように心掛けること。常に柔道着は清潔にし、身体に装飾品(指輪、ピアス、ネックレス、ミサンガ等)は身に付けず、爪は切っておくこと。

科目名	柔道Ⅱ								柔道整復科Ⅰ部 A 組
学年	3 年	分野	専門基礎	単位数	1 単位	時間数	45 時間	期間	1～2 学期
評価担当	富永　忠雅、舘原　宗幸			担当教員	富永　忠雅、舘原　宗幸				
科目概要	柔道Ⅰで修得した内容を復習し、レベルアップして実践できるように反復練習を行なう。柔道を練習するなかで身体の取り扱い、武道的心構えを学ぶ。								
到達目標	① 「礼に始まり礼に終わる」の武道精神、柔道と柔道整復師の関係を知る。 ② 柔道を通して柔道整復術の成り立ちを学ぶ。 ② 受身や立技・寝技の技を修得する。								

回数	単元項目	授業内容	形態	担当教員
1	オリエンテーション	授業概要等の説明	実技	富永・舘原
2	柔道の基本動作(1)	礼法、受身(後方受身)	実技	富永・舘原
3	柔道の基本動作(2)	礼法、受身（前方回転受身)	実技	富永・舘原
4	柔道の技(1)	投げ技（大外刈)、乱取	実技	富永・舘原
5	柔道の技(2)	投げ技（大腰)、乱取	実技	富永・舘原
6	柔道の技(3)	投げ技(大外刈、大腰)、乱取	実技	富永・舘原
7	柔道の技(4)	投げ技(背負投)、乱取	実技	富永・舘原
8	柔道の技(5)	投げ技(釣込腰)、乱取	実技	富永・舘原
9	柔道の技(6)	投げ技(背負投、釣込腰)、乱取	実技	富永・舘原
10	柔道の技(7)	投の形(浮落、背負投)、乱取	実技	富永・舘原
11	柔道の技(8)	投の形(浮落、背負投)、乱取	実技	富永・舘原
12	柔道の技(9)	投の形(肩車、浮腰)、乱取	実技	富永・舘原
13	柔道の技(10)	投の形(肩車、浮腰)、乱取	実技	富永・舘原
14	柔道の技(11)	投の形(払腰、釣込腰)、乱取	実技	富永・舘原
15	柔道の技(12)	投の形(払腰、釣込腰)、乱取	実技	富永・舘原
16	柔道の技(13)	投の形(送足払、支釣込足)、乱取	実技	富永・舘原
17	柔道の技(14)	投の形(送足払、支釣込足)、乱取	実技	富永・舘原
18	柔道の技(15)	投の形(内股)、乱取	実技	富永・舘原
19	柔道の技(16)	投の形(浮落、背負投、肩車、浮腰、払腰)	実技	富永・舘原
20	柔道の技(17)	投の形(釣込腰、送足払、支釣込足、内股)	実技	富永・舘原
21	投げ技総まとめ	4～9 回まで総まとめ	実技	富永・舘原
22	投の形総まとめ(1)	10～15 回まで総まとめ	実技	富永・舘原
23	投の形総まとめ(2)	16～20 回まで総まとめ	実技	富永・舘原

評価方法							
評価指標	定期試験	－	－	－	－	－	合計
評価割合(%)	100	－	－	－	－	－	100

教科書	適宜、プリントを配布する。

教材・参考図書	適宜紹介する。
オフィスアワー	適宜確認すること。
履修上の注意点	健康管理に十分注意し、柔道授業に臨むこと。怪我防止のため、ふざけることや私語はしないように心掛けること。常に柔道着は清潔にし、身体に装飾品(指輪、ピアス、ネックレス、ミサンガ等)は身に付けず、爪は切っておくこと。また、講義の内容は補習で補足する。

科目名	関係法規Ⅱ							柔道整復科Ⅰ部 A組
学年	3年	分野	専門基礎	単位数	1単位	時間数	15時間	期間	2学期
評価担当	坂主　充史				担当教員	坂主　充史		
科目概要	柔道整復師も国民の健康を維持することにより社会保障制度の一端を担っている。ゆえに、医療費や療養費等の医療経済を含む社会保障制度を理解する必要がある。また、免許取得後すぐに開業する事も可能であるため、職業倫理についても理解を深める。							
到達目標	① 社会保障制度、社会保険、医療保険の関係を理解する。 ② 療養費と受領委任払い制度を説明できるようになる。 ③ 柔道整復師に必要な基本的倫理観を身に付ける。							

回数	単元項目	授業内容	形態	担当教員
1	わが国の社会保障(1)	社会保障とは	講義	坂主
2	わが国の社会保障(2)	社会保障制度とは	講義	坂主
3	わが国の社会保障(3)	公的年金	講義	坂主
4	わが国の社会保障(4)	医療保険制度	講義	坂主
5	柔道整復師と療養費(1)	療養費制度の概要	講義	坂主
6	柔道整復師と療養費(2)	受領委任払い	講義	坂主
7	職業倫理(1)	医療従事者の職業倫理	講義	坂主
8	職業倫理(2)	柔道整復師に必要な基本的倫理観	講義	坂主

評価方法							
評価指標	定期試験	－	－	－	－	－	合計
評価割合(%)	100	－	－	－	－	－	100

教科書	社会保障制度と職業倫理　(公社)全国柔道整復学校協会　医歯薬出版　¥2,000＋税
教材・参考図書	適宜紹介する。
オフィスアワー	適宜確認すること。
履修上の注意点	社会保障制度を知り、医療人としての自覚に再確認する必要がある。効果的に知識を習得するために、授業後の復習を欠かさず行うこと。職業倫理では実際に柔道整復師として働く姿を想像しながら事例を考えていくので予習が必要となる。また、講義の内容は補習で補足する。

科目名	柔道整復総論Ⅰ								柔道整復科Ⅰ部 A組
学年	1年	分野	専門	単位数	3単位	時間数	75時間	期間	1～3学期
評価担当	松山　基博、坂主　充史			担当教員	松山　基博、坂主　充史				
科目概要	今日にいたる柔道整復師の歴史および沿革や業務範囲とその心得を学習し、運動器に加わる急性、亜急性の原因によって発生する各組織の損傷の理解と修得に努める。また、柔道整復師の治療法は、整復・固定・後療法の3段階に分けられる。それに加え、相乗効果が期待できる治療手法として、患者の指導管理を行いながら早期社会復帰させることを目的としている。損傷を分類、症状、治癒の病理、予後、他疾患との鑑別を理解したうえで、治療法の一部である整復法と固定法、患者とその関係者に対する指導管理を理解し修得する。また近年の柔道整復師に対するニーズを踏まえて運動指導や痛みのメカニズムについても理解を深化させる。								
到達目標	① 柔道整復師の沿革、業務範囲とその心得を正しく理解する。 ② 各組織の解剖学的構造や機能を理解し、運動器に加わる急性、亜急性の原因によって発生する各組織の損傷を理解し説明することができる。 ③ 柔道整復師が施術後に患者とその関係者へ説明・理解させるために、整復・固定・後療法の意義・必要性を理解し説明することができる。								

回数	単元項目	授業内容	形態	担当教員
1	概説(1)	柔道整復術および柔道整復師の沿革	講義	松山
2	概説(2)	業務範囲とその心得および柔道整復師倫理網領	講義	松山
3	総論(1)	人体に加わる力	講義	松山
4	総論(2)	損傷時に加わる力	講義	松山
5	総論(3)	痛みの基礎	講義	松山
6	総論(4)	痛みの基礎	講義	松山
7	中間まとめ	1～6回まで中間まとめ	演習	松山
8	骨の損傷(1)	骨の形態と機能	講義	松山
9	骨の損傷(2)	骨損傷の概説	講義	松山
10	骨の損傷(3)	骨折の分類	講義	松山
11	骨の損傷(4)	骨折の症状	講義	松山
12	骨の損傷(5)	骨折の合併症	講義	松山
13	骨の損傷(6)	小児骨折・高齢者骨折	講義	松山
14	期末まとめ	8～13回まで期末まとめ	演習	松山
15	骨の損傷(7)	骨折の癒合日数	講義	松山
16	骨の損傷(8)	骨折の治癒過程	講義	松山
17	骨の損傷(9)	骨折の予後	講義	松山
18	骨の損傷(10)	骨折の治癒に影響を与える因子	講義	松山
19	関節の損傷(1)	関節の構造と機能	講義	松山
20	関節の損傷(2)	関節損傷の概説	講義	松山
21	関節の損傷(3)	関節損傷の分類	講義	松山
22	中間まとめ	15～21回まで中間まとめ	演習	松山

23	関節の損傷(4)	損傷される組織・鑑別診断を要する類症、関節構成組織損傷	講義	松山
24	関節の損傷(5)	靭帯、関節包の損傷、関節周囲を通過あるいは起始停止する筋・腱の損傷	講義	松山
25	関節の損傷(6)	関節軟骨損傷、その他関節構成組織の損傷	講義	松山
26	関節の損傷(7)	定義と概説・発生頻度・分類	講義	松山
27	関節の損傷(8)	症状・合併症	講義	松山
28	関節の損傷(9)	整復障害・経過	講義	松山
29	期末まとめ	23～28 回まで期末まとめ	演習	松山
30	関節の損傷(10)	治癒機序と予後	講義	松山
31	治療法(整復法)(1)	徒手整復施行時の配慮・骨折の整復法	講義	坂主
32	治療法(整復法)(2)	脱臼の整復法・徒手整復後の確認と配慮	講義	坂主
33	治療法(整復法)(3)	軟部組織損傷の初期処置	講義	坂主
34	治療法(固定法)	固定施行時の配慮・固定後の配慮	講義	坂主
35	指導管理(1)	患者とその環境の把握、患者と環境に対する指導管理(1)	講義	坂主
36	指導管理(2)	患者と環境に対する指導管理(2)・自己管理に対する指導	講義	坂主
37	期末まとめ	30～36 回まで期末まとめ	演習	坂主
38	総合まとめ	1～37 回まで総復習	講義	坂主

評価方法

評価指標	中間試験	期末試験	−	−	−	−	合計
評価割合(%)	50	50	−	−	−	−	100

教科書	柔道整復学･理論編　(公社)全国柔道整復学校協会　南江堂　¥7,300＋税
教材・参考図書	イラスト解剖学　松村譲兒　中外医学社　¥7,600＋税
オフィスアワー	適宜確認すること。
履修上の注意点	講義形式は板書を中心とするので、必ずノートを持参すること。また、効果的に知識を習得するために、授業後の復習を欠かさず行うこと。また、講義の内容は補習で補足する。

科目名	柔道整復総論Ⅱ							柔道整復科Ⅰ部 A 組
学年	1 年	分野	専門	単位数	1 単位	時間数	30 時間	期間	1～3 学期
評価担当	佐藤　豪介、田代　秀敏			担当教員	佐藤　豪介、田代　秀敏				
科目概要	柔道整復師の業務において、骨折や脱臼以外に筋や腱、靭帯の損傷に対して処置を行う。また、骨折や脱臼の合併症として神経や血管の損傷に遭遇することがある。当該科目ではこれら軟部組織の構造や損傷時の症状、処置について理解する。また、画像診断機器を用いた診断ができない柔道整復師は、正しく聞き、視て、触れて、動かして、評価する能力を身につけ、第一に考えなければならない病態から鑑別を要する疾患までを列挙できなければならない。また、柔道整復術の一つである後療法の根幹をなす手技療法や運動療法、物理療法の概念を理解する。								
到達目標	① 筋・腱・神経・血管の基本的構造を理解する。 ② 各損傷の特徴を理解し、他の損傷や疾患との鑑別ができるようになる。 ③ 評価の構成(問診・視診・触診・測定評価・動的な評価・検査評価)を理解し、患者の状態を正確に評価、記録することができる。後療法の種類、実施方法、適応疾患、禁忌について正しく理解する。 ④ 外傷保存療法の経過及び治癒の判定を理解し、柔道整復師として備えるべき外傷性疾患への対応ができるようになる。								

回数	単元項目	授業内容	形態	担当教員
1	筋の損傷(1)	筋の形態と機能	講義	佐藤
2	筋の損傷(2)	筋損傷の概説、筋損傷の分類	講義	佐藤
3	筋の損傷(3)	筋損傷の症状、筋損傷の治癒機序、筋損傷の予後	講義	佐藤
4	腱の損傷(4)	腱の構造と機能、腱損傷の概説	講義	佐藤
5	腱の損傷(5)	腱損傷の分類、腱損傷の症状、腱損傷の治癒機序	講義	佐藤
6	中間まとめ	1～5 回まで中間まとめ	演習	佐藤
7	末梢神経の損傷(1)	神経の構造と機能	講義	佐藤
8	末梢神経の損傷(2)	神経損傷の概説、神経損傷の分類	講義	佐藤
9	末梢神経の損傷(3)	神経損傷の症状、神経損傷の治癒機序	講義	佐藤
10	血管系、リンパ系の損傷(1)	血管系の構造と機能、リンパ系の構造と機能	講義	佐藤
11	血管系、リンパ系の損傷(2)	四肢血管損傷の概説、血管損傷の分類	講義	佐藤
12	血管系、リンパ系の損傷(3)	血管損傷の症状	講義	佐藤
13	期末まとめ	7～12 回まで期末まとめ	演習	佐藤
14	皮膚の損傷(1)	皮膚の形態と機能、皮膚損傷の概説	講義	佐藤
15	皮膚の損傷(2)	創傷の治癒機序	講義	佐藤
16	評価時の注意点	評価環境の配慮、評価時の身だしなみ、言葉づかい	講義	佐藤
17	評価手順の概説(1)	患者との位置・距離・姿勢	講義	佐藤
18	評価手順の概説(2)	身体評価の流れ	講義	佐藤
19	評価手順の概説(3)	評価の時期による分類	講義	佐藤
20	評価手順の概説(4)	施術録の扱いと記載	講義	佐藤
21	中間まとめ	14～20 回まで中間まとめ	演習	佐藤

22	後療法	用量、患者側の準備	講義	佐藤
23	後療法(手技療法)(1)	基本型	講義	佐藤
24	後療法(手技療法)(2)	応用、禁忌	講義	佐藤
25	後療法(運動療法)(1)	運動の基本型	講義	佐藤
26	後療法(運動療法)(2)	基本的運動療法	講義	佐藤
27	後療法(運動療法)(2)	応用的運動療法	講義	佐藤
28	期末まとめ	22～27 回まで期末まとめ	演習	佐藤
29	後療法(運動療法)(3)	適応、開始時期、禁忌	講義	佐藤
30	後療法(物理療法)(1)	分類	講義	佐藤
31	後療法(物理療法)(2)	安全対策、適応と禁忌	講義	佐藤
32	外傷予防(1)	身体の基礎的状態の評価と対応	講義	田代
33	後療法(物理療法)(3)	電気療法	講義	佐藤
34	外傷予防(2)	身体の基礎的状態の評価と対応	講義	田代
35	後療法(物理療法)(4)	温熱療法(伝導熱療法)	講義	佐藤
36	外傷予防(3)	付帯する環境要因の評価と対応	講義	田代
37	後療法(物理療法)(5)	温熱療法(変換熱療法)	講義	佐藤
38	外傷予防(4)	付帯する環境要因の評価と対応	講義	田代
39	後療法(物理療法)(6)	光線療法	講義	佐藤
40	外傷予防(5)	外傷予防啓発などの教育活動	講義	田代
41	期末まとめ	29～39 回まで期末まとめ	演習	佐藤
42	期末まとめ	32～40 回まで期末まとめ	演習	田代
43	後療法(物理療法)(7)	寒冷療法	講義	佐藤
44	外傷予防(6)	メンタルヘルス、特異的予防	講義	田代
45	後療法(物理療法)(8)	牽引療法、その他	講義	佐藤
46	外傷予防(7)	早期発見、早期治療	講義	田代

評価方法

評価指標	中間試験	期末試験	－	－	－	－	合計
評価割合(%)	50	50	－	－	－	－	100

教科書	柔道整復学･理論編　(公社)全国柔道整復学校協会　南江堂　¥7,300＋税
教材・参考図書	イラスト解剖学　松村譲兒　中外医学社　¥7,600＋税
オフィスアワー	適宜確認すること。
履修上の注意点	講義形式は板書を中心とするので、必ずノートを持参すること。また、効果的に知識を習得するために、授業後の復習を欠かさず行うこと。また、講義の内容は補習で補足する。

科目名	柔道整復総論Ⅲ							柔道整復科Ⅰ部 A 組
学年	3 年	分野	専門	単位数	1 単位	時間数	30 時間	期間	1～2 学期
評価担当	中村　秀樹				担当教員	中村　秀樹			
科目概要	柔道整復学を理解する上で重要な柔道整復学総論を解剖学的な知識を絡めて体系的に理解する。さらに総論が実際の外傷とどのように関連しているかを学ぶことで臨床現場に活用できる知識を修得する。								
到達目標	① 体系的に理解することで学んだ知識を実際の臨床現場で活用し、適切に診察・鑑別・施術・指導管理できる能力を身につける。								

回数	単元項目	授業内容	形態	担当教員
1	骨の損傷	性状、程度、方向、交通の有無外力、数、骨折部位、外力、受傷後の経過	講義	中村
2	骨折の症状	局所症状、全身症状	講義	中村
3	骨折の合併症	併発症、続発症、後遺症	講義	中村
4	小児骨折、高齢者骨折	小児骨折の特徴、高齢者骨折の特徴	講義	中村
5	骨折の癒合日数・治癒経過 関節の損傷(捻挫・脱臼)	骨折の治癒経過、予後、治癒影響因子、関節損傷の分類、靭帯、関節包、関節軟骨、その他関節構成組織損傷	講義	中村
6	脱臼	定義、発生頻度、分類、症状、合併症、整復障害、脱臼の経過と予後	講義	中村
7	筋の損傷	形態と機能、概説、分類、症状、治癒機序、予後	講義	中村
8	腱の損傷	構造と機能、概説、分類、症状、治癒機序、予後	講義	中村
9	末梢神経の損傷	構造と機能、概説、分類、症状、治癒機序、予後	講義	中村
10	診察、治療法(1)	診察時の注意点、概説、流れ、計画、施術録の扱い 治療法(骨折)	講義	中村
11	治療法(2)	治療法(脱臼、軟部組織損傷の初期処置)	講義	中村
12	固定法	固定の目的、種類、範囲、肢位、期間、材料 装具、固定後の配慮	講義	中村
13	後療法(1)	手技療法、運動療法	講義	中村
14	後療法(2)	物理療法、指導管理	講義	中村
15	外傷予防	運動機能向上と教育活動、啓発、特異的予防	講義	中村

評価方法							
評価指標	定期試験	－	－	－	－	－	合計
評価割合(%)	100	－	－	－	－	－	100

教科書	柔道整復学･理論編　(公社)全国柔道整復学校協会　南江堂　¥7,300＋税 柔道整復学･実技編　(公社)全国柔道整復学校協会　南江堂　¥7,000＋税
教材・参考図書	適宜紹介する。
オフィスアワー	適宜確認すること。

履修上の注意点	講義形式は板書を中心とするので、必ずノートを持参すること。また、効果的に知識を習得するために、授業後の復習を欠かさず行うこと。

科目名	基礎演習Ⅰ								柔道整復科Ⅰ部 A組
学年	3年	分野	専門	単位数	2単位	時間数	60時間	期間	1～3学期
評価担当	富永　忠雅				担当教員	富永　忠雅			
科目概要	臨床現場で遭遇する怪我や障害について理解を深めるため、体の構造や機能を再確認し、姿勢や歩行といった身体運動の仕組み学ぶ。また小児の運動発達や運動学習についても学習する。								
到達目標	① 1・2年次で習得した知識を基礎とし、人間の運動にかかわる身体の機能と構造を理解する。 ② 正常な運動を学ぶことで、何が障害されているのかをわかるようになる。 ③ 小児の運動発達や運動学習を学ぶことによって運動障害患者の治療・訓練の基礎知識を身につける。								

回数	単元項目	授業内容	形態	担当教員
1	運動学の目的 運動の表し方	運動学の領域と目的、運動の表し方	講義	富永
2	運動器の構造と機能(1)	骨の構造	講義	富永
3	運動器の構造と機能(2)	骨の機能	講義	富永
4	運動器の構造と機能(3)	関節の構造と機能	講義	富永
5	運動器の構造と機能(4)	骨格筋の構造と機能(筋線維の種類、運動単位)	講義	富永
6	運動器の構造と機能(5)	骨格筋の構造と機能(筋収縮の様態、筋の働き)	講義	富永
7	神経の構造と機能(1)	神経細胞、神経線維、脊髄	講義	富永
8	神経の構造と機能(2)	末梢神経(上肢の筋肉の支配神経)	講義	富永
9	神経の構造と機能(3)	末梢神経(下肢の筋肉の支配神経)	講義	富永
10	神経の構造と機能(4)	中枢神経(脳、錐体路、錐体外路)	講義	富永
11	運動感覚	運動感覚と運動の制御機構	講義	富永
12	反射と随意運動(1)	反射(反射弓、反射中枢の部位による分類)	講義	富永
13	反射と随意運動(2)	随意運動	講義	富永
14	骨格系(1)	各論(上肢骨、下肢骨)	講義	富永
15	骨格系(2)	各論(脊柱、胸郭)	講義	富永
16	骨格系(3)	各論(上肢・下肢の関節)	講義	富永
17	骨格系(4)	各論(頭蓋)	講義	富永
18	筋系(1)	上肢の筋	講義	富永
19	筋系(2)	下肢の筋	講義	富永
20	筋系(3)	頸部・胸部・腹部・背部の筋	講義	富永
21	四肢と体幹の運動(1)	上肢帯・肩関節・肘関節・前腕の運動	講義	富永
22	四肢と体幹の運動(2)	手関節・手の運動	講義	富永
23	四肢と体幹の運動(3)	股関節・膝関節・足関節・足部の運動	講義	富永
24	四肢と体幹の運動(4)	体幹と脊柱の運動、呼吸運動	講義	富永
25	姿勢	重心、立位姿勢、立位姿勢の制御	講義	富永
26	歩行(1)	歩行周期、運動学的分析	講義	富永

27	歩行(2)	運動力学的分析、筋活動、エネルギー代謝	講義	富永
28	歩行(3)	異常歩行の見方、原因別にみる異常歩行	講義	富永
29	運動発達(1)	乳幼児の運動発達(反射・反応、運動発達)	講義	富永
30	運動学習(2)	運動技能と運動能力、動機づけ等	講義	富永
31	総合まとめ(1)	1回～30回のまとめ	演習	富永
32	総合まとめ(2)	1回～30回のまとめ	演習	富永
33	総合まとめ(3)	1回～30回のまとめ	演習	富永
34	総合まとめ(4)	1回～30回のまとめ	演習	富永
35	総合まとめ(5)	1回～30回のまとめ	演習	富永

評価方法

評価指標	定期試験	－	－	－	－	－	合計
評価割合(%)	100	－	－	－	－	－	100

教科書	運動学　(公社)全国柔道整復学校協会　医歯薬出版　¥4,200＋税
教材・参考図書	適宜紹介する。
オフィスアワー	適宜確認すること。
履修上の注意点	講義形式は板書を中心とするので、必ずノートを持参すること。また、効果的に知識を習得するために、授業後の復習を欠かさず行うこと。また、講義の内容は補習で補足する。

科目名	基礎演習Ⅱ							柔道整復科Ⅰ部 A組
学年	3年	分野	専門	単位数	1単位	時間数	30時間	期間	1～3学期
評価担当	藤井　和彦			担当教員	藤井　和彦				
科目概要	超高齢社会の中、運動器疾患の診方および治療は益々重要になってきており、リハビリテーションの臨床は医師を中心に柔道整復師やさまざまな医療従事者によって行われている。また、運動器疾患以外に神経疾患や呼吸・循環器疾患による重複障害を持った状態で施術所に来院されることも少なくない。それらの疾患を持っている患者に対応できるようリハビリテーション医学の方面から基本的事項を修得する。								
到達目標	① リハビリテーションの概念・障害、リハビリテーション医学領域における各種評価を理解し、修得する。 ② 各種神経疾患および呼吸・循環器疾患に対する医学的リハビリテーションアプローチを理解し、患者のもつあらゆる障害に対し総合的に対処することができる。								

回数	単元項目	授業内容	形態	担当教員
1	リハビリテーションの理念(1)	語源	講義	藤井
2	リハビリテーションの理念(2)	成立過程	講義	藤井
3	リハビリテーションの対象と障害者の実態(1)	医学的リハビリテーションの対象	講義	藤井
4	リハビリテーションの対象と障害者の実態(2)	障害者（児）の実態と内訳	講義	藤井
5	障害の階層とアプローチ(1)	ICIDH（国際障害分類）	講義	藤井
6	障害の階層とアプローチ(2)	ICF（国際生活機能分類）	講義	藤井
7	障害の階層とアプローチ(1)	ICF（国際生活機能分類）	講義	藤井
8	障害の階層とアプローチ(2)	ICF（国際生活機能分類）	講義	藤井
9	障害の階層とアプローチ(1)	障害へのアプローチ	講義	藤井
10	障害の階層とアプローチ(2)	障害へのアプローチ	講義	藤井
11	リハビリテーション医学の評価と診断(1)	ADLの評価	講義	藤井
12	リハビリテーション医学の評価と診断(2)	ADLの評価	講義	藤井
13	リハビリテーション医学の評価と診断(1)	画像診断	講義	藤井
14	リハビリテーション医学の評価と診断(2)	画像診断	講義	藤井
15	リハビリテーション医学の評価と診断(1)	運動失調	講義	藤井
16	リハビリテーション医学の評価と診断(2)	運動失調	講義	藤井
17	リハビリテーション医学の基礎医学(1)	障害学	講義	藤井
18	リハビリテーション医学	障害学	講義	藤井

	の基礎医学(2)			
19	リハビリテーション医学の基礎医学(1)	治療学	講義	藤井
20	リハビリテーション医学の基礎医学(2)	治療学	講義	藤井
21	リハビリテーション医学の関連職種(1)	医師、理学療法士、作業療法士等	講義	藤井
22	リハビリテーション医学の関連職種(2)	看護師、言語聴覚士等	講義	藤井
23	リハビリテーション治療技術(1)	理学療法	講義	藤井
24	リハビリテーション治療技術(2)	理学療法	講義	藤井
25	リハビリテーション治療技術(1)	作業療法	講義	藤井
26	リハビリテーション治療技術(2)	作業療法	講義	藤井
27	リハビリテーション治療技術(1)	補装具	講義	藤井
28	リハビリテーション治療技術(2)	補装具	講義	藤井
29	リハビリテーションの実際(1)	脳卒中	講義	藤井
30	リハビリテーションの実際(2)	パーキンソン病	講義	藤井
31	総合まとめ(1)	1回～30回のまとめ	演習	藤井
32	総合まとめ(2)	1回～30回のまとめ	演習	藤井
33	総合まとめ(3)	1回～30回のまとめ	演習	藤井
34	総合まとめ(4)	1回～30回のまとめ	演習	藤井

評価方法

評価指標	定期試験	－	－	－	－	－	合計
評価割合(%)	100	－	－	－	－	－	100

教科書	リハビリテーション医学　(公社)全国柔道整復学校協会　南江堂　¥5,000＋税
教材・参考図書	適宜紹介する。
オフィスアワー	適宜確認すること。
履修上の注意点	講義形式は板書を中心とするので、必ずノートを持参すること。また、効果的に知識を習得するために、授業後の復習を欠かさず行うこと。また、講義の内容は補習で補足する。

科目名	基礎演習Ⅲ							柔道整復科Ⅰ部 A 組
学年	3 年	分野	専門	単位数	1 単位	時間数	30 時間	期間	1～3 学期
評価担当	小礒　嘉貴				担当教員	小礒　嘉貴			
科目概要	疾病を予防するには、環境を整え、健康の保持増進を図る必要がある。健康を規定する社会的因子を広く捉え、医療従事者として公衆衛生学の知識を学び、その理解と修得に努める。								
到達目標	① 1年生で修得した基本的な衛生学・公衆衛生学の知識を基礎とし、疾病予防、院内環境・社会環境の整備、保健活動いついて理解することで、地域医療に貢献することができる。								

回数	単元項目	授業内容	形態	担当教員
1	消毒法(1)	消毒の目的による分類、理学的方法、化学的方法	講義	小礒
2	消毒法(2)	殺菌スペクトルと使用領域	講義	小礒
3	消毒法(3)	消毒法の応用	講義	小礒
4	衛生・公衆衛生学の意義	健康の概念(WHO 憲章)、疾病	講義	小礒
5	公衆衛生に関する憲章と宣言	プライマリヘルスケア、オタワ憲章 アルマ・アタ宣言、ヘルシンキ宣言、リスボン宣言 ジュネーブ宣言、ウィンスロー公衆衛生の定義	講義	小礒
6	公衆衛生に関する法律	日本国憲法第 25 条、柔道整復師法	講義	小礒
7	感染症(1)	病原体の分類	講義	小礒
8	感染症(2)	感染症成立の要因、感染経路	講義	小礒
9	感染症(3)	感染症の分類	講義	小礒
10	感染症(4)	予防接種、不顕性感染、院内感染	講義	小礒
11	衛生統計(1)	人口ピラミッド、人口統計	講義	小礒
12	衛生統計(2)	健康指標	講義	小礒
13	疾病の予防	疾病の予防段階	講義	小礒
14	疫学(1)	疫学研究の意義と方法	講義	小礒
15	疫学(2)	記述疫学、分析疫学、介入研究	講義	小礒
16	母子保健	母子保健の指標、母子保健制度	講義	小礒
17	学校保健(1)	保健教育、保健管理	講義	小礒
18	学校保健(2)	学校保健対策、学校伝染病	講義	小礒
19	産業保健(1)	産業保健の目的、職業病	講義	小礒
20	産業保健(2)	労働災害、産業保健対策	講義	小礒
21	成人保健(1)	成人保健の意義、主要死因別死亡率	講義	小礒
22	成人保健(2)	肥満に関する指標、生活習慣病と対策	講義	小礒
23	高齢者の保健(1)	高齢者医療の確保に関する法律	講義	小礒
24	高齢者の保健(2)	介護保険法	講義	小礒
25	環境衛生(1)	外部環境、内部環境	講義	小礒

26	環境衛生(2)	環境と健康	講義	小礒
27	環境衛生(3)	住居・衣服と健康	講義	小礒
28	環境衛生(4)	上水、下水	講義	小礒
29	環境衛生(5)	廃棄物の種類、廃棄物処理	講義	小礒
30	環境衛生(6)	地球環境と公害	講義	小礒
31	総合まとめ(1)	1回～30回のまとめ	演習	小礒
32	総合まとめ(2)	1回～30回のまとめ	演習	小礒
33	総合まとめ(3)	1回～30回のまとめ	演習	小礒
34	総合まとめ(4)	1回～30回のまとめ	演習	小礒

評価方法

評価指標	定期試験	−	−	−	−	−	合計
評価割合(%)	100	−	−	−	−	−	100

教科書	衛生学･公衆衛生学　(公社)全国柔道整復学校協会　南江堂　¥5,000＋税
教材・参考図書	適宜紹介する。
オフィスアワー	講義時に適宜確認すること。
履修上の注意点	講義形式は板書を中心とするので、必ずノートを持参すること。また、効果的に知識を習得するために、授業後の復習を欠かさず行うこと。また、講義の内容は補習で補足する。

科目名	基礎演習Ⅳ							柔道整復科Ⅰ部 A組
学年	3年	分野	専門	単位数	1単位	時間数	30時間	期間	1～3学期
評価担当	坂　逸平			担当教員	坂　逸平				
科目概要	疾病の鑑別のためには、健康な状態と病的な状態の知識が必要である。疾病における臓器、組織、細胞の形態変化に重点を置き、その理解と修得に努める。								
到達目標	① 1・2年次で習得した知識を基礎とし、疾病の原因、経過、本態、治療効果などについて、細胞、組織、臓器などの形態の変化を理解することで、他の疾病との鑑別をすることができる。								

回数	単元項目	授業内容	形態	担当教員
1	疾病の一般(1)	健康と疾病	講義	坂
2	疾病の一般(2)	疾病の分類、先天性疾患、後天性疾患	講義	坂
3	疾病の一般(3)	症候(自覚症状、他覚症状、症候群)の意義、分類	講義	坂
4	病因(1)	内因(遺伝、内分泌障害、免疫)と疾患	講義	坂
5	病因(2)	外因(栄養障害、物理・化学・生物的因子)と疾患	講義	坂
6	退行性病変(1)	退行性病変の定義、萎縮と疾患	講義	坂
7	退行性病変(2)	変性と疾患、壊死と疾患、死・死後変化・脳死	講義	坂
8	循環障害(1)	充血、うっ血、虚血、出血、血栓・血栓症と疾患	講義	坂
9	循環障害(2)	塞栓・塞栓症、梗塞、浮腫と疾患	講義	坂
10	進行性病変(1)	肥大、過形成、再生、化生と疾患	講義	坂
11	進行性病変(2)	創傷治癒、異物の処理、移植と病態	講義	坂
12	炎症(1)	炎症の原因、炎症の形態学的変化	講義	坂
13	炎症(2)	急性炎症と慢性炎症の特徴、肉芽種性炎と疾患	講義	坂
14	免疫と免疫異常	免疫の仕組みと免疫異常	講義	坂
15	アレルギー	アレルギー(Ⅰ型～Ⅴ型)と疾患	講義	坂
16	免疫不全	原発性免疫不全、後天性免疫不全、自己免疫疾患	講義	坂
17	腫瘍(1)	定義、形態・構造異常、腫瘍の原因	講義	坂
18	腫瘍(2)	腫瘍細胞と特長、異型成、腫瘍マーカー	講義	坂
19	腫瘍(3)	腫瘍の分類(良性腫瘍・悪性腫瘍)、治療と再発	講義	坂
20	腫瘍(4)	上皮性腫瘍、非上皮性腫瘍、主な癌腫	講義	坂
21	先天性異常(1)	単因子性遺伝子疾患、多因子性遺伝子疾患	講義	坂
22	先天性異常(2)	染色体異常と疾患	講義	坂
23	先天性異常(3)	奇形の原因、奇形成立の時期、奇形の種類	講義	坂
24	運動器の病理(1)	感染性疾患の鑑別	講義	坂
25	運動器の病理(2)	骨腫瘍(良性腫瘍、悪性腫瘍)の鑑別	講義	坂
26	運動器の病理(3)	軟部腫瘍(良性軟部腫瘍、悪性軟部腫瘍)の鑑別	講義	坂

27	運動器の病理(4)	非感染性軟部・骨関節疾患(変形性関節症他)	講義	坂
28	運動器の病理(5)	全身性の骨・軟部疾患(先天性骨系統疾患)	講義	坂
29	運動器の病理(6)	骨端症、四肢循環障害	講義	坂
30	運動器の病理(7)	神経・筋疾患(神経麻痺、神経障害)	講義	坂
31	総合まとめ(1)	1回～30回のまとめ	演習	坂
32	総合まとめ(2)	1回～30回のまとめ	演習	坂
33	総合まとめ(3)	1回～30回のまとめ	演習	坂
34	総合まとめ(4)	1回～30回のまとめ	演習	坂
35	総合まとめ(5)	1回～30回のまとめ	演習	坂

評価方法

評価指標	定期試験	－	－	－	－	－	合計
評価割合(%)	100	－	－	－	－	－	100

教科書	病理学概論　(公社)全国柔道整復学校協会　医歯薬出版　¥3,800＋税 外科学概論　(公社)全国柔道整復学校協会　南江堂　¥5,700＋税
教材・参考図書	適宜紹介する。
オフィスアワー	適宜確認すること。
履修上の注意点	講義形式は板書を中心とするので、必ずノートを持参すること。また、効果的に知識を習得するために、授業後の復習を欠かさず行うこと。また、講義の内容は補習で補足する。

科目名	基礎演習Ⅴ							柔道整復科Ⅰ部 A組
学年	3年	分野	専門	単位数	1単位	時間数	30時間	期間	2～3学期
評価担当	岩瀬　惇平			担当教員	岩瀬　惇平				
科目概要	人体の構造と機能などの基礎医学的知識や、疾病と傷害、柔道整復術の適応、保健医療福祉と柔道整復の理念、社会保障制度などの専門基礎知識、基礎柔道整復学や臨床柔道整復学などの専門知識について総合的に学習し、実践につなげる。また、国家試験の過去問や本校独自で作成した問題を活用し、グループ学習を行う。								
到達目標	① 臨床の場を想定して、総合的・基本的な思考力や適切な判断力を身につける。 ② 損傷に対して柔道整復術の適応を見極め、適切に施術を行うことができる。								

回数	単元項目	授業内容	形態	担当教員
1	患者の人権・柔道整復師の義務と倫理	医の倫理と患者の権利、柔道整復師と医師の関係	講義	岩瀬
2	医療の安全の確保	医療事故の防止、医療裁判	講義	岩瀬
3	社会と医療	健康・疾病・障害の概念と社会環境	講義	岩瀬
4	人体の概要	人体の構成と機能、細胞、組織	講義	岩瀬
5	運動器	骨格系、筋系	講義	岩瀬
6	物質の摂取と排泄	呼吸器系、消化器系、泌尿器系	講義	岩瀬
7	環境変化の伝達と反応	血液、生体防御機構、循環器系、神経系、感覚器系、内分泌系	講義	岩瀬
8	診察法	医療面接、視診、打診、聴診、触診、生命徴候	講義	岩瀬
9	炎症	分類	講義	岩瀬
10	消毒	消毒法の一般、種類と方法、消毒法の応用	講義	岩瀬
11	ショック	定義、原因による分類、臨床上の分類、症状	講義	岩瀬
12	意識障害	分類	講義	岩瀬
13	主要な内科疾患	消化器疾患、呼吸器疾患、循環器疾患、内分泌・代謝疾患、膠原病、腎・尿路疾患、神経系疾患	講義	岩瀬
14	運動器の検査法	神経学的検査法、エックス線検査法、MRI検査法、超音波検査法	講義	岩瀬
15	評価法	関節可動域評価、筋力評価、計測、日常生活動作評価、歩行評価、麻痺評価、協調性テスト、運動発達テスト	講義	岩瀬
16	外傷	救急外傷、脊椎・脊髄損傷、筋・腱損傷、スポーツ外傷と障害	講義	岩瀬
17	感染性軟部組織・関節疾患	化膿性骨髄炎、化膿性関節炎、結核性脊椎炎、破傷風、蜂窩織炎、しょう疽	講義	岩瀬
18	骨・軟部腫瘍	骨腫瘍、軟部腫瘍、類腫瘍	講義	岩瀬
19	骨端症	キーンベック病、ペルテス病、オスグット-シュラッター病、ケーラー病、フライバーグ病(第2ケーラー病)	講義	岩瀬

20	軟部組織・関節疾患	変形性膝関節症、腰痛症、骨粗鬆症、椎間板ヘルニア、後縦靭帯骨化症、脊柱管狭窄症、脊髄損傷、肩関節周囲炎、五十肩、手根管症候群、ド・ケルバン病、ばね指・腱鞘炎、膝内障、外反母趾、変形性脊椎炎	講義	岩瀬
21	リハビリテーションの治療	理学療法、作業療法、義肢・装具、言語療法	講義	岩瀬
22	主要症候および損傷部の状態	骨折部の状態、骨折の状態、脱臼の経過	講義	岩瀬
23	骨折の治癒過程	骨癒合の機序、骨折治癒に影響を与える因子	講義	岩瀬
24	療法	保存(非観血)療法	講義	岩瀬
25	施術法の原理、合併症	固定法、後療法、骨折・脱臼の合併症	講義	岩瀬
26	頭部・体幹の骨折・脱臼	肋骨骨折、顎関節脱臼	講義	岩瀬
27	上肢の骨折・脱臼・軟部組織損傷	上腕骨顆上骨折、コーレス骨折、中手骨骨折、指骨骨折、肘関節脱臼、肘内障、肩部の軟部組織損傷	講義	岩瀬
28	下肢の骨折・脱臼・軟部組織損傷	中足骨骨折、足部の軟部組織損傷	講義	岩瀬
29	総合まとめ(1)	1回～28回のまとめ	演習	岩瀬
30	総合まとめ(2)	1回～28回のまとめ	演習	岩瀬
31	総合まとめ(3)	1回～28回のまとめ	演習	岩瀬
32	総合まとめ(4)	1回～28回のまとめ	演習	岩瀬

評価方法

評価指標	定期試験	－	－	－	－	－	合計
評価割合(%)	100	－	－	－	－	－	100

教科書	柔道整復学･理論編　(公社)全国柔道整復学校協会　南江堂　¥7,300＋税 解剖学　(公社)全国柔道整復学校協会　医歯薬出版　¥7,800＋税 整形外科学　(公社)全国柔道整復学校協会　南江堂　¥5,600＋税 標準整形外科学　松野丈夫・中村利孝　医学書院　¥9,400＋税 外科学概論　(公社)全国柔道整復学校協会　南江堂　¥5,700＋税 病理学概論　(公社)全国柔道整復学校協会　医歯薬出版　¥3,800＋税 リハビリテーション医学　(公社)全国柔道整復学校協会　南江堂　¥5,000＋税
教材・参考図書	適宜紹介する。
オフィスアワー	適宜確認すること。
履修上の注意点	講義形式は板書を中心とするので、必ずノートを持参すること。また、効果的に知識を習得するために、復習を確実に行い、知識の修得を目指すこと。また、講義の内容は補習で補足する。

科目名	柔道整復各論Ⅰ							柔道整復科Ⅰ部 A 組
学年	1 年	分野	専門	単位数	1 単位	時間数	30 時間	期間	3 学期
評価担当	林　賢一、諸岡　大輔				担当教員	林　賢一、諸岡　大輔		
科目概要	柔道整復師は骨折や脱臼、軟部組織の損傷など種々の外傷に対して整復や固定、後療法といった形で治療を行う。そのためには、まずその外傷が柔道整復師の業務範囲内であるか否かを判断し、その後適切な処置ができるだけの知識と技術を備えておく必要がある。当該科目では骨折や脱臼、軟部組織損傷の症状や合併症、それに対する処置の方法などを学習する。							
到達目標	① 各損傷の症状や合併症などの特徴を理解する。 ② 各損傷に対して業務範囲内であるか否かを判断できる。 ③ 各損傷に対して適切な処置ができるようになる。							

回数	単元項目	授業内容	形態	担当教員
1	鎖骨骨折(1)	概要、発生機序、症状	講義	林
2	肩部および上腕部の損傷(1)	腱板断裂(発生機序、症状)	講義	諸岡
3	鎖骨骨折(2)	合併症、整復法、固定法	講義	林
4	肩部および上腕部の損傷(2)	腱板断裂(検査法、治療法)	講義	諸岡
5	肩甲骨骨折(1)	概要、骨体部骨折、上・下角骨折、関節窩骨折	講義	林
6	肩部および上腕部の損傷(3)	上腕二頭筋長頭腱損傷(発生機序、症状)	講義	諸岡
7	肩甲骨骨折(2)	外科頸骨折、肩峰骨折、烏口突起骨折	講義	林
8	肩部および上腕部の損傷(4)	上腕二頭筋長頭腱損傷(検査法、治療法)	講義	諸岡
9	鎖骨の脱臼(1)	胸鎖関節脱臼、肩鎖関節脱臼(分類、発生機序、症状)	講義	林
10	肩部および上腕部の損傷(5)	ベネット損傷、SLAP 損傷	講義	諸岡
11	鎖骨の脱臼(2)	肩鎖関節脱臼(整復法、固定法)	講義	林
12	肩部および上腕部の損傷(6)	肩峰下インピンジメント症候群、リトルリーガー肩	講義	諸岡
13	期末まとめ	1・3・5・7・9・11 回まで期末まとめ	演習	林
14	期末まとめ	2・4・6・8・10・12 回まで期末まとめ	演習	諸岡
15	物理療法(1)	機器の取扱い	講義	林
16	物理療法(2)	機器の取扱い	講義	林

評価方法

評価指標	期末試験	−	−	−	−	−	合計
評価割合(%)	100	−	−	−	−	−	100

教科書	柔道整復学･理論編　(公社)全国柔道整復学校協会　南江堂　¥7,300＋税 柔道整復学･実技編　(公社)全国柔道整復学校協会　南江堂　¥7,000＋税
教材・参考図書	適宜紹介する。
オフィスアワー	適宜確認すること。

履修上の注意点	講義形式は板書を中心とするので、必ずノートを持参すること。また、効果的に知識を習得するために、授業後の復習を欠かさず行うこと。また、講義の内容は補習で補足する。

科目名	柔道整復各論Ⅱ							柔道整復科Ⅰ部 A 組
学年	2 年	分野	専門	単位数	3 単位	時間数	75 時間	期間	1～3 学期
評価担当	南　正大、小礒　嘉貴				担当教員	南　正大、小礒　嘉貴			
科目概要	柔道整復師が日常の臨床で遭遇する上肢の骨折・脱臼・軟部組織損傷について各部位の解剖、発生機序、症状、治療法、予後、鑑別診断について学習する。								
到達目標	① 柔道整復師の施術が適応する部分について的確に評価・鑑別・施術出来る知識を習得する。 ② 各疾患の発生機序、症状、その他特徴について理解し説明ができる。 ③ 類似疾患との鑑別をし、的確な治療法が選択できるようになる。 ④ 重度の外傷に遭遇した場合を想定し、他の骨折、脱臼についても適切に判断し医科との連携が取れる知識を習得する。								

回数	単元項目	授業内容	形態	担当教員
1	肩関節部の損傷(1)	上腕骨骨頭骨折、解剖頸骨折、外科頸骨折	講義	小礒
2	肩関節部の損傷(2)	大結節単独骨折、小結節単独骨折、近位骨端線離開	講義	小礒
3	肩関節部の損傷(3)	肩関節前方脱臼	講義	小礒
4	肩関節部の損傷(4)	肩関節後方脱臼、肩関節下方脱臼、肩関節上方脱臼	講義	小礒
5	肩関節部の損傷(5)	反復性肩関節脱臼	講義	小礒
6	肩関節部の損傷(6)	不安定症、末梢神経障害、その他の疾患 注意すべき疾患	講義	小礒
7	中間まとめ	1～6 回まで中間まとめ	演習	小礒
8	上腕部の損傷	解剖と機能、上腕骨骨幹部骨折、橈骨神経損傷 尺骨神経損傷、注意すべき疾患	講義	小礒
9	肘関節部の損傷(1)	解剖と機能、上腕骨顆上骨折	講義	小礒
10	肘関節部の損傷(2)	上腕骨外顆骨折、上腕骨内側上顆骨折	講義	小礒
11	肘関節部の損傷(3)	橈骨近位端部骨折、肘頭骨折	講義	小礒
12	肘関節部の損傷(4)	前腕両骨後方脱臼	講義	小礒
13	肘関節部の損傷(5)	前腕両骨前方脱臼、側方脱臼、前腕両骨分散脱臼	講義	小礒
14	期末まとめ	8～13 回まで期末まとめ	演習	小礒
15	肘関節部の損傷(6)	橈骨頭単独脱臼、肘内障	講義	小礒
16	肘関節部の損傷(7)	靭帯の損傷、野球肘、テニス肘、その他の疾患 注意すべき疾患	講義	南
17	前腕部の損傷(1)	解剖と機能、橈骨骨幹部骨折、ガレアジ骨折 尺骨骨幹部骨折、モンテギア骨折 橈・尺両骨骨幹部骨折	講義	南
18	前腕部の損傷(2)	前腕コンパートメント症候群、腱交叉症候群 末梢神経障害	講義	南
19	手関節部の損傷(1)	解剖と機能、コーレス骨折	講義	南
20	手関節部の損傷(2)	スミス骨折、バートン骨折、ショウファー骨折、 橈骨遠位骨端線離解	講義	南

21	手関節部の損傷(3)	舟状骨骨折、三角骨骨折、有鉤骨骨折、豆状骨骨折その他の手根骨骨折	講義	南
22	中間まとめ	15～21 回まで中間まとめ	演習	南
23	手関節部の損傷(4)	遠位橈尺関節脱臼、橈骨手根関節脱臼	講義	南
24	手関節部の損傷(5)	月状骨脱臼および月状骨周囲脱臼	講義	南
25	手関節部の損傷(6)	三角線維軟骨複合体損傷(TFCC 損傷) ド・ケルバン病、末梢神経障害	講義	南
26	手関節部の損傷(7)	キーンベック病、マーデルング変形 注意すべき疾患	講義	南
27	手・指部の損傷(1)	解剖と機能、中手骨骨頭部骨折、中手骨頸部骨折 中手骨骨幹部骨折	講義	南
28	手・指部の損傷(2)	第 1 中手骨基部骨折、第 5 中手骨基部骨折	講義	南
29	期末まとめ	23～28 回まで期末まとめ	演習	南
30	手・指部の損傷(3)	手根中手関節脱臼	講義	南
31	手・指部の損傷(4)	基節骨骨折	講義	南
32	手・指部の損傷(5)	中節骨骨折	講義	南
33	手・指部の損傷(6)	末節骨骨折、マレットフィンガー	講義	南
34	手・指部の損傷(7)	第 1 指中手指節関節脱臼 第 1 指以外の中手指節関節脱臼	講義	南
35	手・指部の損傷(8)	近位指節間関節脱臼、遠位指節間関節脱臼	講義	南
36	手・指部の損傷(9)	指側副靭帯損傷、ロッキングフィンガー、ばね指	講義	南
37	期末まとめ	30～36 回まで期末まとめ	演習	南
38	手・指部の損傷(10)	デュプイトラン拘縮、ヘバーデン結節 ボタン穴変形、スワンネック変形、注意すべき疾患	講義	南

評価方法							
評価指標	中間試験	期末試験	－	－	－	－	合計
評価割合(%)	50	50	－	－	－	－	100

教科書	柔道整復学･理論編　(公社)全国柔道整復学校協会　南江堂　¥7,300＋税 柔道整復学･実技編　(公社)全国柔道整復学校協会　南江堂　¥7,000＋税
教材・参考図書	適宜紹介する。
オフィスアワー	適宜確認すること。
履修上の注意点	講義形式は板書を中心とするので、必ずノートを持参すること。また、効果的に知識を習得するために、授業後の復習を欠かさず行うこと。また、講義の内容は補習で補足する。

科目名	柔道整復各論Ⅲ							柔道整復科Ⅰ部 A組
学年	2年	分野	専門	単位数	3単位	時間数	75時間	期間	1～3学期
評価担当	小礒　嘉貴、林　賢一			担当教員	小礒　嘉貴、林　賢一				
科目概要	柔道整復師が日常の臨床で遭遇する外傷(主に下肢骨の骨折・脱臼・軟部組織損傷)について各部位の解剖、発生機序、症状、整復法、固定法、治療法、予後、鑑別診断について習得する。講義では教科書の内容に加え、臨床例を基に実践的な知識となるよう進めていく。特に認定実技審査で出題される内容については重点的に講義を行う。								
到達目標	① 下肢の骨折・脱臼・軟部組織損傷について的確に評価・施術するための実践的な知識を修得する。 ② 認定実技審査で出題される範囲の整復･固定法について、その意義や重要点を理解する。								

回数	単元項目	授業内容	形態	担当教員
1	骨盤骨骨折	骨盤骨単独骨折、骨盤骨輪骨折	講義	小礒
2	股関節の軟部組織損傷	鼠径部痛症候群、関節唇損傷	講義	林
3	大腿骨近位端部骨折(1)	大腿骨骨頭部骨折、大腿骨頚部骨折	講義	小礒
4	股関節の軟部組織損傷	弾発股、梨状筋症候群	講義	林
5	大腿骨近位端部骨折(2)	大腿骨頚部骨折	講義	小礒
6	股関節の軟部組織損傷	股関節外転位拘縮、股関節内転位拘縮、股関節屈曲位拘縮	講義	林
7	大腿骨近位端部骨折(3)	大腿骨転子部骨折、大腿骨転子下骨折	講義	小礒
8	乳幼児期にみられる疾患	発達性股関節脱臼､臼蓋形成不全､化膿性股関節炎、ペルテス病、単純性股関節炎	講義	林
9	股関節脱臼	前方脱臼、後方脱臼、中心性脱臼	講義	小礒
10	思春期にみられる疾患	大腿骨頭すべり症	講義	林
11	中間まとめ	1,3,5,7,9回まで中間まとめ	演習	小礒
12	中間まとめ	2,4,6,8,10回まで中間まとめ	演習	林
13	大腿骨幹部の骨折	大腿骨骨幹部骨折	講義	小礒
14	注意すべき疾患	大腿骨頭壊死症、変形性股関節症	講義	林
15	大腿骨遠位端部骨折(1)	大腿骨顆上骨折、大腿骨遠位骨端線離開	講義	小礒
16	大腿部の軟部組織損傷	大腿部打撲、大腿部肉離れ、大腿部骨化性筋炎	講義	林
17	大腿骨遠位端部骨折(2)	大腿骨顆部骨折、内側側副靭帯付着部の裂離骨折	講義	小礒
18	膝関節部の軟部組織損傷	側副靭帯損傷	講義	林
19	下腿骨近位端部骨折(1)	脛骨顆部骨折、腓骨頭単独骨折	講義	小礒
20	膝関節部の軟部組織損傷	十字靭帯損傷	講義	林
21	下腿骨近位端部骨折(2)	脛骨顆間隆起骨折、脛骨粗面骨折	講義	小礒
22	発育期の膝関節障害	反跳膝、内反膝、外反膝、ブラント病、大腿四頭筋拘縮症	講義	林
23	膝関節脱臼	前方脱臼、後方脱臼、側方脱臼、回旋脱臼	講義	小礒
24	発育期の膝関節障害	オスグッド・シュラッター病、ジャンパー膝、有痛性分裂膝蓋骨	講義	林

25	期末まとめ	13, 15, 17, 19, 21, 23 回まで期末まとめ	演習	小礒
26	期末まとめ	14, 16, 18, 20, 22, 24 回まで期末まとめ	演習	林
27	膝蓋骨の骨折	膝蓋骨骨折	講義	小礒
28	発育期の膝関節障害	腸脛靭帯炎、鵞足炎	講義	林
29	膝蓋骨脱臼	外側脱臼	講義	小礒
30	発育期の膝関節障害	膝蓋軟骨軟化症、滑膜ひだ障害、膝蓋大腿関節症	講義	林
31	下腿骨骨幹部骨折(1)	脛骨単独骨折および脛腓両骨骨折	講義	小礒
32	発育期の膝関節障害	膝蓋前皮下包、脛骨粗面皮下包、腓腹筋半膜様筋包、側副靭帯滑液包	講義	林
33	下腿骨骨幹部骨折(2)	腓骨骨幹部単独骨折	講義	小礒
34	青少年期にみられる疾患	悪性骨腫瘍、離断性骨軟骨炎	講義	林
35	下腿骨骨幹部骨折(3)	下腿部果上骨折	講義	小礒
36	中高年期にみられる疾患	関節リウマチ、偽性痛風	講義	林
37	下腿骨骨幹部骨折(4)	下腿骨疲労骨折	講義	小礒
38	中高年期にみられる疾患	変形性膝関節症	講義	林
39	中間まとめ	27, 29, 31, 33, 35, 37 回まで中間まとめ	演習	小礒
40	中間まとめ	38, 30, 32, 34, 36, 38 回まで中間まとめ	演習	林
41	下腿遠位端部骨折(1)	顆部骨折(分類)	講義	小礒
42	下腿部の軟部組織損傷	過労性脛部痛	講義	林
43	下腿遠位端部骨折(2)	顆部骨折(外転損傷)	講義	小礒
44	下腿部の軟部組織損傷	アキレス腱炎、アキレス腱周囲炎	講義	林
45	下腿遠位端部骨折(3)	顆部骨折(内転損傷)	講義	小礒
46	下腿部の軟部組織損傷	アキレス腱断裂、下腿三頭筋の肉離れ	講義	林
47	足根骨骨折(1)	距骨骨折	講義	小礒
48	注意すべき疾患	コンパートメント症候群	講義	林
49	足根骨骨折(2)	踵骨骨折	講義	小礒
50	注意すべき疾患	下腿感染症、下腿骨腫瘍、下肢血管障害	講義	林
51	足関節部の脱臼(1)	足関節脱臼	講義	小礒
52	足関節部の軟部組織損傷	外側靭帯損傷	講義	林
53	足関節部の脱臼(2)	足関節脱臼(骨折を合併するもの)	講義	小礒
54	足関節部の軟部組織損傷	内側靭帯損傷、遠位脛腓靭帯損傷、二分靭帯損傷	講義	林
55	期末まとめ	41, 43, 45, 47, 49, 51, 53 回まで期末まとめ	演習	小礒
56	期末まとめ	42, 44, 46, 48, 50, 52, 54 回まで期末まとめ	演習	林
57	足根骨部の骨折(1)	舟状骨骨折、立方骨骨折	講義	小礒
58	足関節部の軟部組織損傷	距骨滑車の骨軟骨損傷、足根洞症候群、腓骨筋腱脱臼	講義	林
59	足根骨部の骨折(2)	楔状骨骨折	講義	小礒
60	足関節部の軟部組織損傷	前方インピンジメント、後方インピンジメント	講義	林

61	中足骨部の骨折(1)	中足骨骨折	講義	小礒
62	足根部の軟部組織損傷	ショパール関節損傷、リスフラン関節損傷、偏平足障害	講義	林
63	中足骨部の骨折(2)	中足骨骨折(疲労性骨折)	講義	小礒
64	足・趾部の軟部組織損傷	セーバー病、有痛性外脛骨、アキレス腱滑液包、踵骨棘	講義	林
65	趾骨部の骨折	趾骨骨折	講義	小礒
66	足・趾部の軟部組織損傷	足底腱膜炎、第 1 ケーラー病、足根管症候群	講義	林
67	中足指節関節	中足指節関節の脱臼	講義	小礒
68	前足部の有痛性疾患	外反母趾、強剛母趾、種子骨障害	講義	林
69	指節間関節の脱臼	指節間関節の脱臼	講義	小礒
70	前足部の有痛性疾患	第 2 ケーラー病、モートン病	講義	林
71	期末まとめ	57, 59, 61, 63, 65, 67, 69 回まで期末まとめ	演習	小礒
72	期末まとめ	58, 60, 62, 64, 66, 68, 70 回まで期末まとめ	演習	林
73	下肢の疲労骨折	特徴的な下肢の疲労骨折	講義	小礒
74	下肢のスポーツ障害	思春期に特徴的な下肢のスポーツ障害	講義	林
75	総合まとめ	奇数回総合まとめ	講義	小礒
76	総合まとめ	偶数回総合まとめ	講義	林

評価方法

評価指標	中間試験	期末試験	−	−	−	−	合計
評価割合(%)	50	50	−	−	−	−	100

教科書	柔道整復学･理論編　(公社)全国柔道整復学校協会　南江堂　¥7,300＋税 柔道整復学･実技編　(公社)全国柔道整復学校協会　南江堂　¥7,000＋税
教材・参考図書	適宜紹介する。
オフィスアワー	適宜確認すること。
履修上の注意点	講義形式は板書を中心とするので、必ずノートを持参すること。臨床上特に接する機会が多いと思われる症例に基づき、当該症例の検査・鑑別法及び治療法に関する理解を深める知識を身につけることを目的とするために、授業後の復習を欠かさず行うこと。また、講義の内容は補習で補足する。

科目名	柔道整復各論Ⅳ							柔道整復科Ⅰ部 A組
学年	2年	分野	専門	単位数	2単位	時間数	60時間	期間	1～3学期
評価担当	佐藤　豪介、諸岡　大輔			担当教員	佐藤　豪介、諸岡　大輔				
科目概要	頭部から体幹の骨折・脱臼及び軟部組織損傷の知識を修得する。臨床上遭遇する可能性が高い肋骨骨折、顎関節脱臼及び頚部から腰部の軟部組織損傷に特に重点を置き講義を行う。また、患者の症状、所見から柔道整復術の適否を判断するための知識、超音波観察装置などの医用画像に関する知識、柔道整復師が遭遇する可能性のある様々な損傷・疾患について学ぶ。								
到達目標	① 柔道整復師の施術が適応する部分について的確に評価・鑑別・施術できる知識を習得する。 ② 重度の外傷に遭遇した場合を想定し、他の骨折、脱臼についても適切に判断し医科との連携が取れる知識を習得する。 ③ 安全に柔道整復術を提供するため、超音波観察装置などの医療画像を理解し、説明することができる。								

回数	単元項目	授業内容	形態	担当教員
1	頭部・顔面部の損傷	解剖と機能	講義	佐藤
2	柔道整復術適否の判断(1)	施術の適応判断の必要性、適応の判断	講義	諸岡
3	頭蓋骨骨折	頭蓋冠骨折(脳震盪含む)、頭蓋底骨折	講義	佐藤
4	柔道整復術適否の判断(2)	意識障害を伴う損傷	講義	諸岡
5	顔面頭蓋骨折(1)	鼻骨骨折・鼻軟骨骨折	講義	佐藤
6	柔道整復術適否の判断(3)	脊髄損傷症状のある損傷	講義	諸岡
7	顔面頭蓋骨折(2)	上顎骨折、眼窩底破裂骨折(眼窩底吹き抜け骨折)	講義	佐藤
8	柔道整復術適否の判断(4)	呼吸運動障害を伴う損傷	講義	諸岡
9	顔面頭蓋骨折(3)	頬骨骨折	講義	佐藤
10	柔道整復術適否の判断(5)	内臓損傷の合併が疑われる損傷	講義	諸岡
11	中間まとめ	1,3,5,7,9回まで中間まとめ	演習	佐藤
12	中間まとめ	2,4,6,8,10回まで中間まとめ	演習	諸岡
13	下顎骨骨折	下顎骨骨体部骨折、下顎枝部骨折	講義	佐藤
14	柔道整復術適否の判断(6)	外出血を伴う損傷	講義	諸岡
15	顎関節脱臼(1)	前方脱臼	講義	佐藤
16	柔道整復術適否の判断(7)	血流障害を伴う損傷	講義	諸岡
17	顎関節脱臼(2)	後方脱臼、側方脱臼	講義	佐藤
18	柔道整復術適否の判断(8)	末梢神経損傷を伴う損傷	講義	諸岡
19	頭部・顔面部の軟部組織損傷(1)	頭部・顔面部打撲	講義	佐藤

20	柔道整復術適否の判断(9)	high energy 損傷、脱臼骨折	講義	諸岡
21	頭部・顔面部の軟部組織損傷(2)	顎関節症	講義	佐藤
22	柔道整復術適否の判断(10)	病的骨折および脱臼	講義	諸岡
23	頭部・顔面部の軟部組織損傷(3)	顎関節症	講義	佐藤
24	柔道整復術適否の判断(12)	損傷に類似した症状を示す疾患（1）	講義	諸岡
25	期末まとめ	13,15,17,19,21,23 回まで期末まとめ	演習	佐藤
26	期末まとめ	14,16,18,20,22,24 回まで中間まとめ	演習	諸岡
27	頸部の損傷	頚椎の解剖と機能	講義	佐藤
28	柔道整復術適否の判断(13)	損傷に類似した症状を示す疾患（2）	講義	諸岡
29	上位頚椎骨折	環椎破裂型骨折(ジェファーソン骨折)、軸椎歯突起骨折	講義	佐藤
30	総合まとめ	1～14 回までの総合まとめ	講義	諸岡
31	中・下位頚椎骨折	椎体楔状圧迫骨折、ティアドロップ骨折、椎体破裂骨折、棘突起骨折	講義	佐藤
32	頚椎脱臼	環軸関節の脱臼および脱臼骨折、下位頸椎の脱臼および脱臼骨折	講義	佐藤
33	頸部の軟部組織損傷	外傷性頸部症候群(むちうち損傷)、胸郭出口症候群、寝違え	講義	佐藤
34	注意すべき疾患	斜頸、頸椎椎間板ヘルニア、頸椎症、後縦靭帯骨化症、頸椎の炎症性病変、外傷性腕神経叢麻痺(上位型麻痺)	講義	佐藤
35	注意すべき疾患	外傷性腕神経叢麻痺(下位型麻痺)、外傷性腕神経叢麻痺(全型麻痺)、分娩麻痺、副神経麻痺、長胸神経麻痺、頸髄損傷、先天性奇形	講義	佐藤
36	中間まとめ	27,29,31～35 回まで中間まとめ	演習	佐藤
37	胸・背部の損傷	胸・背部の解剖と機能	講義	佐藤
38	胸部の骨折(1)	肋骨骨折、肋軟骨骨折	講義	佐藤
39	胸部の骨折(2)	胸骨骨折	講義	佐藤
40	胸椎の骨折・脱臼	胸腰椎椎体圧迫骨折、胸腰椎移行部椎体圧迫骨折	講義	佐藤
41	胸・背部の軟部組織損傷	胸肋関節損傷、肋間筋損傷、胸部・背部打撲傷、背部の軟部組織損傷	講義	佐藤
42	その他の疾患、注意すべき疾患	胸・背部の損傷	講義	佐藤
43	期末まとめ	37～42 回まで期末まとめ	演習	佐藤
44	腰部・仙骨部の損傷	腰部・仙骨部の解剖と機能	講義	佐藤
45	腰椎の骨折(1)	下位腰椎椎体圧迫骨折、チャンス骨折	講義	佐藤
46	腰椎の骨折(2)	腰椎椎体破裂骨折、腰椎肋骨突起(横突起)骨折	講義	佐藤
47	医用画像(1)	X 線	講義	諸岡
48	腰椎の脱臼	腰椎脱臼	講義	佐藤

49	医用画像(2)	X 線 CT	講義	諸岡
50	腰部の軟部組織損傷(1)	関節性	講義	佐藤
51	医用画像(3)	X 線 CT	講義	諸岡
52	腰部の軟部組織損傷(2)	靭帯性	講義	佐藤
53	医用画像(4)	MRI	講義	諸岡
54	腰部の軟部組織損傷(3)	筋・筋膜性	講義	佐藤
55	医用画像(5)	MRI	講義	諸岡
56	期末まとめ	44～46,48,50,52,54 回まで期末まとめ	演習	佐藤
57	期末まとめ	47,49,51,53,55 回まで期末まとめ	演習	諸岡
58	その他の疾患、注意すべき疾患	腰部の損傷	講義	佐藤
59	医用画像(6)	超音波画像装置	講義	諸岡
60	総合まとめ(1)	2 学年の総括	講義	佐藤
61	医用画像(7)	超音波画像装置	講義	諸岡
62				

評価指標	中間試験	期末試験	−	−	−	−	合計
評価割合(%)	50	50	−	−	−	−	100

教科書	柔道整復学･理論編　(公社)全国柔道整復学校協会　南江堂　¥7,300＋税 柔道整復学･実技編　(公社)全国柔道整復学校協会　南江堂　¥7,000＋税 施術の適応と医用画像の理解　(公社)全国柔道整復学校協会　南江堂　¥2,600＋税
教材・参考図書	適宜紹介する。
オフィスアワー	適宜確認すること。
履修上の注意点	講義形式は板書を中心とするので、必ずノートを持参すること。また、効果的に知識を習得するために、授業後の復習を欠かさず行うこと。また、講義の内容は補習で補足する。

科目名	柔道整復各論Ⅴ							柔道整復科Ⅰ部 A組
学年	3年	分野	専門	単位数	2単位	時間数	60時間	期間	1～3学期
評価担当	岩瀬　惇平				担当教員	岩瀬　惇平			
科目概要	柔道整復師は画像(X線、MRIなど)を撮影する事ができない為、疾患に対し触診や徒手検査を行って損傷の判断をしなければならない。この科目では上肢の骨折、脱臼、軟部組織損傷における骨片転位や症状を学習し、各疾患の整復や治療法および後療法を修得する。								
到達目標	① 各疾患の発生機序、症状、その他特徴について理解し説明ができる。 ② 類似疾患との鑑別をし、的確な治療法が選択できるようになる。								

回数	単元項目	授業内容	形態	担当教員
1	鎖骨部の損傷(1)	解剖と機能、鎖骨骨折	講義	岩瀬
2	鎖骨部の損傷(2)	鎖骨の脱臼	講義	岩瀬
3	鎖骨部の損傷(3)	注意すべき疾患	講義	岩瀬
4	肩関節部の損傷(1)	解剖と機能、肩甲骨の骨折	講義	岩瀬
5	肩関節部の損傷(2)	上腕骨近位部の骨折 (上腕骨骨頭骨折、解剖頸骨折、外科頸骨折)	講義	岩瀬
6	肩関節部の損傷(3)	上腕骨近位部の骨折 (大結節単独骨折、小結節単独骨折、骨端線離開)	講義	岩瀬
7	肩関節部の損傷(4)	肩関節脱臼	講義	岩瀬
8	肩関節部の損傷(5)	肩関節部の軟部組織損傷損傷 (筋・腱の損傷、スポーツ損傷)	講義	岩瀬
9	肩関節部の損傷(6)	肩関節部の軟部組織損傷 (不安定症、末梢神経障害、その他の疾患)	講義	岩瀬
10	肩関節部の損傷(7)	注意すべき疾患	講義	岩瀬
11	上腕部の損傷(1)	解剖と機能、上腕骨骨幹部骨折	講義	岩瀬
12	上腕部の損傷(2)	上腕部の軟部組織損傷、注意すべき疾患	講義	岩瀬
13	肘関節部の損傷(1)	解剖と機能、上腕骨遠位部の骨折(上腕骨顆上骨折)	講義	岩瀬
14	肘関節部の損傷(2)	上腕骨遠位部の骨折 (上腕骨外顆骨折、上腕骨内側上顆骨折)	講義	岩瀬
15	肘関節部の損傷(3)	前腕骨近位部の骨折	講義	岩瀬
16	肘関節部の損傷(4)	肘関節の脱臼(前腕両骨脱臼、橈骨頭単独脱臼、肘内障)	講義	岩瀬
17	肘関節部の損傷(5)	肘関節部の軟部組織損傷、注意すべき疾患	講義	岩瀬
18	前腕部の損傷(1)	解剖と機能、前腕骨骨幹部骨折 (橈骨骨幹部骨折、ガレアジ骨折)	講義	岩瀬
19	前腕部の損傷(2)	前腕骨骨幹部骨折(尺骨骨幹部骨折、モンテギア骨折、橈・尺両骨骨幹部骨折)	講義	岩瀬
20	前腕部の損傷(3)	前腕部の軟部組織損傷 (前腕コンパートメント症候群、腱交叉症候群)	講義	岩瀬
21	前腕部の損傷(4)	前腕部の軟部組織損傷(末梢神経障害)	講義	岩瀬
22	手関節部の損傷(1)	解剖と機能、前腕骨遠位端部骨折	講義	岩瀬

		(コーレス骨折、スミス骨折)		
23	手関節部の損傷(2)	前腕骨遠位端部骨折(バートン骨折、ショウファー骨折、橈骨遠位骨端線離開)	講義	岩瀬
24	手関節部の損傷(3)	手根骨部の骨折、手関節の脱臼	講義	岩瀬
25	手関節部の損傷(4)	手関節部の軟部組織損傷 (TFCC 損傷、ド・ケルバン病、末梢神経障害)	講義	岩瀬
26	手関節部の損傷(5)	手関節部の軟部組織損傷(キーンベック病、マーデルング変形、注意すべき疾患)	講義	岩瀬
27	手・指部の損傷(1)	解剖と機能、中手骨部の骨折 (中手骨骨頭部・頸部・骨幹部骨折)	講義	岩瀬
28	手・指部の損傷(2)	中手骨部の骨折 (第 1・5 中手骨基部骨折、後療法)	講義	岩瀬
29	手・指部の損傷(3)	手根中手関節の脱臼	講義	岩瀬
30	手・指部の損傷(4)	指骨部の骨折(基節骨骨折、中節骨骨折)	講義	岩瀬
31	手・指部の損傷(5)	指骨部の骨折(末節骨骨折、マレットフィンガー)	講義	岩瀬
32	手・指部の損傷(6)	中手指節関節・指節間関節の脱臼	講義	岩瀬
33	手・指部の損傷(7)	手・指部の軟部組織損傷(腱・靭帯の損傷)	講義	岩瀬
34	手・指部の損傷(8)	手・指部の軟部組織損傷(その他の手指部の変性疾患および変形、注意すべき疾患)	講義	岩瀬

評価方法

評価指標	定期試験	−	−	−	−	−	合計
評価割合(%)	100	−	−	−	−	−	100

教科書	柔道整復学･理論編　(公社)全国柔道整復学校協会　南江堂　¥7,300＋税 柔道整復学･実技編　(公社)全国柔道整復学校協会　南江堂　¥7,000＋税
教材・参考図書	適宜紹介する。
オフィスアワー	適宜確認すること。
履修上の注意点	講義形式は板書を中心とするので、必ずノートを持参すること。また、効果的に知識を習得するために、授業後の復習を欠かさず行うこと。また、講義の内容は補習で補足する。

科目名	柔道整復各論Ⅵ							柔道整復科Ⅰ部 A組
学年	3年	分野	専門	単位数	1単位	時間数	30時間	期間	2～3学期
評価担当	中村　秀樹				担当教員	中村　秀樹		
科目概要	柔道整復学を理解する上で重要な柔道整復学総論を解剖学的な知識を絡めて体系的に理解する。さらに総論が実際の外傷とどのように関連しているかについて下肢の損傷(骨折・脱臼・打撲・捻挫・挫傷)で学び臨床現場で活用できる知識を修得する。							
到達目標	① 体系的に理解することで学んだ知識を実際の臨床現場で活用し、適切に診察・鑑別・施術・指導管理できる能力を身につける。							

回数	単元項目	授業内容	形態	担当教員
1	頭部・顔面(1)	頭部・顔面骨折、顎関節脱臼	講義	中村
2	頭部・顔面(2)	頭部・顔面部打撲、顎関節症	講義	中村
3	頸部の損傷	頸椎骨折、脱臼、軟部組織損傷	講義	中村
4	胸部・背部の損傷	胸部の骨折、胸椎骨折、脱臼、軟部組織損傷、その他	講義	中村
5	腰部の損傷	腰椎骨折、脱臼、軟部組織損傷	講義	中村
6	骨盤部の損傷	骨盤骨骨折	講義	中村
7	股関節部の損傷(1)	大腿骨近端部骨折(骨頭、頸部、転子部、転子下)	講義	中村
8	股関節部の損傷(2)	大腿骨頚部外側骨折・転子部・骨幹部、股関節脱臼、軟部組織損傷、注意すべき疾患	講義	中村
9	大腿部の損傷	大腿骨骨幹部骨折、軟部組織損傷、注意すべき疾患	講義	中村
10	膝関節部の損傷	膝関節脱臼、膝蓋骨骨折、膝蓋骨脱臼	講義	中村
11	膝関節部の軟部組織損傷(1)	半月板、靭帯損傷、発育期膝蓋骨障害	講義	中村
12	膝関節部の軟部組織損傷(2)	腸脛靭帯炎、鵞足炎、膝蓋大腿関節障害、膝周囲の関節包、滑液包の異常、神経障害、注意すべき疾患	講義	中村
13	下腿部の損傷(1)	下腿骨幹部骨折	講義	中村
14	下腿部の損傷(2)	下腿部の軟部組織損傷、注意すべき疾患	講義	中村
15	足関節部の損傷(1)	下腿遠位端部の骨折	講義	中村
16	足関節部の損傷(2)	足根骨部の骨折、足関節部脱臼	講義	中村
17	足関節部の軟部組織損傷	足関節捻挫、足関節捻挫の類床鑑別	講義	中村
18	足・趾部の損傷(1)	足根骨部の骨折、中足部の骨折、趾骨部の骨折、足根部の脱臼と軟部組織損傷	講義	中村
19	足・趾部の損傷(2)	中足趾節関節・趾節間関節部の脱臼、中足部から後足部の有痛性疾患、前足部の有痛性疾患	講義	中村

評価方法							
評価指標	定期試験	－	－	－	－	－	合計
評価割合(%)	100	－	－	－	－	－	100

教科書	柔道整復学・理論編　(公社)全国柔道整復学校協会　南江堂　¥7,300＋税 柔道整復学・実技編　(公社)全国柔道整復学校協会　南江堂　¥7,000＋税

教材・参考図書	適宜紹介する。
オフィスアワー	適宜確認すること。
履修上の注意点	講義形式は板書を中心とするので、必ずノートを持参すること。また、効果的に知識を習得するために、授業後の復習を欠かさず行うこと。また、講義の内容は補習で補足する。

科目名	臨床演習Ⅰ							柔道整復科Ⅰ部 A組
学年	3年	分野	専門	単位数	1単位	時間数	30時間	期間	1～3学期
評価担当	喜多村　伸明			担当教員	喜多村　伸明				
科目概要	柔道整復師は運動器の施術を行うので、運動器全体の知識すなわち整形外科学全般についても基本的な知識を持っている必要がある。柔道整復師による施術が運動器の治療全体においてどのような位置付けにあるかを理解し、運動器の疾患を鑑別する知識を習得する。								
到達目標	① 2年次までに修得した知識を基礎とし、運動器疾患の種類、診断法、治療法などについて学び、柔道整復学と整形外科学の関係を理解することで、他の疾病との鑑別をすることができる。								

回数	単元項目	授業内容	形態	担当教員
1	疾患別各論(1)	感染性疾患(急性化膿性骨髄炎、慢性骨髄炎)	講義	喜多村
2	疾患別各論(2)	感染性疾患(ブロディ骨膿瘍、骨関節結核、化膿性関節炎)	講義	喜多村
3	疾患別各論(3)	骨および軟部腫瘍(悪性骨腫瘍)	講義	喜多村
4	疾患別各論(4)	骨および軟部腫瘍(良性骨腫瘍、軟部腫瘍)	講義	喜多村
5	疾患別各論(5)	非感染性軟部・骨関節疾患(変形性関節症)	講義	喜多村
6	疾患別各論(6)	非感染性軟部・骨関節疾患(関節リウマチ)	講義	喜多村
7	疾患別各論(7)	非感染性軟部・骨関節疾患(痛風、偽性痛風)	講義	喜多村
8	疾患別各論(8)	非感染性軟部・骨関節疾患(血友病性関節症、離断性骨軟骨炎、関節遊離体)	講義	喜多村
9	疾患別各論(9)	非感染性軟部・骨関節疾患(その他の関節炎)	講義	喜多村
10	疾患別各論(10)	非感染性軟部・骨関節疾患(骨粗鬆症)	講義	喜多村
11	疾患別各論(11)	全身性の骨・軟部疾患(先天性骨系統疾患)	講義	喜多村
12	疾患別各論(12)	全身性の骨・軟部疾患(先天性骨系統疾患)	講義	喜多村
13	疾患別各論(13)	全身性の骨・軟部疾患(多発性神経線維腫症、くる病、巨人症、下垂体性小人症)	講義	喜多村
14	疾患別各論(14)	骨端症(ペルテス病、オスグッド・シュラッター病、ブラント病)	講義	喜多村
15	疾患別各論(15)	骨端症(セーバー病、キーンベック病、ケーラー病、フライバーグ病)	講義	喜多村
16	疾患別各論(16)	神経・筋疾患(上肢の神経麻痺と絞扼性神経障害)	講義	喜多村
17	疾患別各論(17)	神経・筋疾患(上肢の神経麻痺と絞扼性神経障害)	講義	喜多村
18	疾患別各論(18)	神経・筋疾患(下肢の神経麻痺と絞扼性神経障害)	講義	喜多村
19	疾患別各論(19)	神経・筋疾患(腕神経叢損傷・分娩麻痺)	講義	喜多村
20	疾患別各論(20)	神経・筋疾患(全身性神経・筋疾患)	講義	喜多村
21	疾患別各論(21)	神経・筋疾患(全身性神経・筋疾患)	講義	喜多村
22	疾患別各論(22)	神経・筋疾患(脊髄腫瘍、脊髄損傷)	講義	喜多村
23	身体部位別各論(1)	体幹(頚部)	講義	喜多村
24	身体部位別各論(2)	体幹(胸部)	講義	喜多村

25	身体部位別各論(3)	体幹(腰部)	講義	喜多村
26	身体部位別各論(4)	肩甲帯および上肢の疾患(肩・肩甲帯、上腕・肘関節)	講義	喜多村
27	身体部位別各論(5)	肩甲帯および上肢の疾患(前腕、手関節)	講義	喜多村
28	身体部位別各論(6)	肩甲帯および上肢の疾患(手・手指)	講義	喜多村
29	身体部位別各論(7)	骨盤および下肢の疾患(骨盤・股関節、大腿・膝関節)	講義	喜多村
30	身体部位別各論(8)	骨盤および下肢の疾患(下腿・足関節、足・足趾)	講義	喜多村
31	総合まとめ(1)	1回～30回のまとめ	演習	喜多村
32	総合まとめ(2)	1回～30回のまとめ	演習	喜多村
33	総合まとめ(3)	1回～30回のまとめ	演習	喜多村
34	総合まとめ(4)	1回～30回のまとめ	演習	喜多村

評価方法

評価指標	定期試験	−	−	−	−	−	合計
評価割合(%)	100	−	−	−	−	−	100

教科書	整形外科学　(公社)全国柔道整復学校協会　南江堂　¥5,600＋税
教材・参考図書	適宜紹介する。
オフィスアワー	適宜確認すること。
履修上の注意点	講義形式は板書を中心とするので、必ずノートを持参すること。また、効果的に知識を習得するために、授業後の復習を欠かさず行うこと。また、講義の内容は補習で補足する。

科目名	臨床演習Ⅱ							柔道整復科Ⅰ部 A組
学年	3年	分野	専門	単位数	2単位	時間数	60時間	期間	1～3学期
評価担当	石橋　大輔				担当教員	石橋　大輔			
科目概要	診察の基本と内科疾患を中心とした概念を学ぶと同時に、柔道整復師が臨床現場で注意を払わなければならない症状・所見の理解を深める。								
到達目標	① 2年次までに習得した知識を基礎とし、各疾患の原因、症状、検査所見、治療、予後といった病態生理を理解し、医療面接における患者所見から鑑別診断を行うことができる。								

回数	単元項目	授業内容	形態	担当教員
1	診察概論(1)	診察の進め方と心がまえ・評価と記録	講義	石橋
2	診察各論(2)	医療面接・視診	講義	石橋
3	診察各論(3)	打診・聴診・触診・生命徴候	講義	石橋
4	診察各論(4)	感覚検査・反射検査	講義	石橋
5	診察各論(5)	代表的な臨床症状	講義	石橋
6	検査法	生命徴候の測定・生理機能検査・検体検査 運動機能検査	講義	石橋
7	呼吸器疾患(1)	主要徴候、肺炎、肺癌	講義	石橋
8	呼吸器疾患(2)	気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患	講義	石橋
9	循環器疾患(1)	主要徴候、心不全、虚血性心疾患	講義	石橋
10	循環器疾患(2)	心臓弁膜症、高血圧	講義	石橋
11	循環器疾患(3)	動脈・静脈疾患	講義	石橋
12	消化器疾患(1)	主要徴候、食道、胃疾患	講義	石橋
13	消化器疾患(2)	大腸疾患、肝疾患	講義	石橋
14	代謝疾患	糖尿病、脂質異常症、痛風	講義	石橋
15	内分泌疾患(1)	下垂体疾患	講義	石橋
16	内分泌疾患(2)	甲状腺疾患	講義	石橋
17	内分泌疾患(3)	副腎疾患	講義	石橋
18	血液・造血器疾患(1)	主要徴候、赤血球疾患	講義	石橋
19	血液・造血器疾患(2)	白血球疾患、出血傾向	講義	石橋
20	腎・尿路疾患(1)	主要徴候、腎不全	講義	石橋
21	腎・尿路疾患(2)	糸球体疾患	講義	石橋
22	神経系疾患(1)	主要徴候、脳血管障害	講義	石橋
23	神経系疾患(2)	神経変性疾患	講義	石橋
24	神経系疾患(3)	神経免疫疾患、筋疾患	講義	石橋
25	感染症	エイズ、梅毒	講義	石橋
26	膠原病(1)	病因・病態、関節リウマチ	講義	石橋

27	膠原病(2)	全身性エリテマトーデス、強皮症、皮膚筋炎	講義	石橋
28	膠原病(3)	シェーグレン症候群、ベーチェット病	講義	石橋
29	総論および各論(1)	診察・検査法の総括	講義	石橋
30	総論および各論(2)	主要疾患の総括的事項の確認	講義	石橋
31	総合まとめ(1)	1回～30回の演習問題	演習	石橋
32	総合まとめ(2)	1回～30回の演習問題	演習	石橋
33	総合まとめ(3)	1回～30回の演習問題	演習	石橋
34	総合まとめ(4)	1回～30回の演習問題	演習	石橋

評価方法

評価指標	定期試験	－	－	－	－	－	合計
評価割合(%)	100	－	－	－	－	－	100

教科書	一般臨床医学　(公社)全国柔道整復学校協会　医歯薬出版　¥5,800＋税
教材・参考図書	適宜紹介する。
オフィスアワー	適宜確認すること。
履修上の注意点	講義形式は板書を中心とするので、必ずノートを持参すること。また、効果的に知識を習得するために、授業後の復習を欠かさず行うこと。また、講義の内容は補習で補足する。

科目名	臨床演習Ⅲ							柔道整復科Ⅰ部 A組
学年	3年	分野	専門	単位数	2単位	時間数	60時間	期間	1～3学期
評価担当	諸岡　大輔				担当教員	諸岡　大輔			
科目概要	ＥＢＭ(根拠に基づいた医療)やインフォームド・コンセントが広く徹底されてきている。臨床現場で遭遇する骨折・脱臼・軟部組織損傷を鑑別するために、柔道整復学だけではなく外科学の知識を総合的に学ぶことで損傷の分類や治療方法、治癒過程を理解し、柔道整復術の適応か否か判断できる知識を修得する。								
到達目標	① 2年次までに習得した知識を基礎とし、柔道整復師が対応可能な疾患とそうでない疾患の鑑別について学び、医療面接等で得た情報から医学的知識を統合し適切な治療が行えるようになる。								

回数	単元項目	授業内容	形態	担当教員
1	損傷(1)	損傷分類、バイタルサイン、交通外傷、特殊損傷	講義	諸岡
2	損傷(2)	創傷分類、創傷の治癒過程、処置、熱傷	講義	諸岡
3	炎症と外科感染症(1)	炎症の定義、分類、感染症発症のメカニズム	講義	諸岡
4	炎症と外科感染症(2)	外科感染症各論	講義	諸岡
5	腫瘍(1)	成因、分類、発育形式、症状	講義	諸岡
5	腫瘍(2)	検査、治療	講義	諸岡
6	ショック(1)	ショックの４つの分類と原因、症状、治療法	講義	諸岡
7	ショック(2)	緊急処置、合併症	講義	諸岡
8	輸血、輸液(1)	輸血の基礎知識、適応と実際	講義	諸岡
9	輸血、輸液(2)	一般輸液と高カロリー輸液	講義	諸岡
10	消毒と滅菌	消毒薬の種類、滅菌法	講義	諸岡
11	手術	切開法、結紮法、縫合法、穿刺術	講義	諸岡
12	麻酔	全身麻酔の分類、導入方法、合併症、局所麻酔の分類、穿刺方法、合併症	講義	諸岡
13	移植と免疫	移植の用語、免疫抑制、改正臓器移植法、世界と日本の移植の現状	講義	諸岡
14	出血と止血(1)	出血の分類	講義	諸岡
15	出血と止血(2)	止血の仕組み、外出血と内出血、止血法	講義	諸岡
16	心肺蘇生法	救急救命の流れ、心肺蘇生法、人工呼吸法、AED	講義	諸岡
17	脳神経外科疾患(1)	脳神経疾患の主要徴候、中枢性疾患特有な病態	講義	諸岡
18	脳神経外科疾患(2)	画像検査、頭部外傷	講義	諸岡
19	脳神経外科疾患(3)	脳血管障害、脳腫瘍	講義	諸岡
20	甲状腺疾患	甲状腺疾患、副甲状腺疾患	講義	諸岡
21	頸部疾患	頸部の腫瘍性疾患、後天性疾患	講義	諸岡
22	胸壁・呼吸器疾患(1)	胸郭・肺の検査、手術(切開法)、ドレナージ	講義	諸岡
23	胸壁・呼吸器疾患(2)	肺・胸膜の疾患、胸部損傷	講義	諸岡
24	心臓・脈管疾患(1)	心臓疾患、心・血管系疾患に対する検査法	講義	諸岡
25	心臓・脈管疾患(2)	心臓手術法、先天性心疾患、弁膜症	講義	諸岡

26	心臓・脈管疾患(3)	心臓腫瘍、動脈疾患、静脈疾患	講義	諸岡
27	乳腺疾患(1)	診断、乳腺疾患	講義	諸岡
28	乳腺疾患(2)	良性腫瘍、悪性腫瘍、乳癌	講義	諸岡
29	腹部外科疾患(1)	腹部外科疾患・消化器疾患に対する主な検査	講義	諸岡
30	腹部外科疾患(2)	代表的腹部外科疾患	講義	諸岡
31	総合まとめ(1)	1回～30回の演習問題	演習	諸岡
32	総合まとめ(2)	1回～30回の演習問題	演習	諸岡
33	総合まとめ(3)	1回～30回の演習問題	演習	諸岡
34	総合まとめ(4)	1回～30回の演習問題	演習	諸岡
35	総合まとめ(5)	1回～30回の演習問題	演習	諸岡

評価方法

評価指標	定期試験	－	－	－	－	－	合計
評価割合(%)	100	－	－	－	－	－	100

教科書	外科学概論　(公社)全国柔道整復学校協会　南江堂　¥5,700＋税 柔道整復学･理論編　(公社)全国柔道整復学校協会　南江堂　¥7,300＋税
教材・参考図書	適宜紹介する。
オフィスアワー	適宜確認すること。
履修上の注意点	講義形式は板書を中心とするので、必ずノートを持参すること。また、効果的に知識を習得するために、授業後の復習を欠かさず行うこと。また、講義の内容は補習で補足する。

科目名	臨床演習Ⅳ							柔道整復科Ⅰ部 A組
学年	3年	分野	専門	単位数	2単位	時間数	60時間	期間	1～2学期
評価担当	喜多村　伸明			担当教員	喜多村　伸明				
科目概要	これまで習得した知識を基礎とし、実際の外傷とどのように関連しているか、損傷(骨折・脱臼・打撲・捻挫・挫傷)の鑑別を理解するために、柔道整復学だけではなく内科や整形外科学の知識を総合的に学ぶことで臨床現場で柔道整復術の適応か否か判断できる知識を修得する。また、国家試験の過去問や本校独自で作成した問題を活用しながら知識を定着させる。								
到達目標	① 柔道整復師として非常に重要な基本的事項である医学的知識および技能ともに、社会的、倫理的側面について学ぶことで、安全な医療を提供する観点から適切に診察・鑑別・施術・指導管理が行えるようになる。 ② 臨床の場を想定して、総合的・基本的な思考力や適切な判断力を身につける。								

回数	単元項目	授業内容	形態	担当教員
1	柔道整復術の適否	診断の原則	講義	喜多村
2	損傷に類似した症状を示す疾患(1)	内臓疾患の投影を疑う疼痛	講義	喜多村
3	損傷に類似した症状を示す疾患(2)	腰痛を伴う疾患(腰痛のレッドフラッグ)	講義	喜多村
4	損傷に類似した症状を示す疾患(3)	腰痛を伴う疾患(後正中型腰椎椎間板ヘルニア)	講義	喜多村
5	損傷に類似した症状を示す疾患(4)	腰痛を伴う疾患(特発性脊髄硬膜外血腫)	講義	喜多村
6	損傷に類似した症状を示す疾患(5)	腰痛を伴う疾患(急性化膿性脊椎炎)	講義	喜多村
7	損傷に類似した症状を示す疾患(6)	腰痛を伴う疾患(転移性脊椎腫瘍)	講義	喜多村
8	損傷に類似した症状を示す疾患(7)	化膿性の炎症	講義	喜多村
9	損傷に類似した症状を示す疾患(8)	軟部組織の圧迫損傷	講義	喜多村
10	血流障害を伴う損傷	動脈損傷、骨折、脱臼	講義	喜多村
11	末梢神経損傷を伴う損傷(1)	腕神経叢麻痺	講義	喜多村
12	末梢神経損傷を伴う損傷(2)	骨折	講義	喜多村
13	末梢神経損傷を伴う損傷(3)	脱臼	講義	喜多村
14	脱臼骨折(1)	肩関節、肘関節	講義	喜多村
15	脱臼骨折(2)	股関節、足関節	講義	喜多村
16	外出血を伴う損傷(1)	開放性骨折	講義	喜多村
17	外出血を伴う損傷(2)	開放性脱臼	講義	喜多村
18	病的骨折および脱臼	病的骨折、病的骨折	講義	喜多村
19	意識障害を伴う損傷(1)	頭蓋骨骨折	講義	喜多村
20	意識障害を伴う損傷(2)	脳挫傷、外傷性クモ膜下出血	講義	喜多村
21	意識障害を伴う損傷(3)	急性硬膜外血腫、急性硬膜下血腫	講義	喜多村

22	意識障害を伴う損傷(4)	急性脳内血腫、慢性硬膜下血腫	講義	喜多村
23	脊髄症状のある損傷(1)	頚椎損傷、非骨傷性頸髄損傷	講義	喜多村
24	脊髄症状のある損傷(2)	胸椎・腰椎損傷、非骨傷性胸椎・腰椎部脊髄損傷	講義	喜多村
25	呼吸運動障害を伴う損傷	胸部外傷	講義	喜多村
26	内臓損傷の合併が疑われる損傷(1)	骨折(肋骨骨折、骨盤骨折)	講義	喜多村
27	内臓損傷の合併が疑われる損傷(2)	脱臼(胸鎖関節脱臼、股関節脱臼骨折)	講義	喜多村
28	高エネルギー外傷(1)	外傷性ショック、DIC	講義	喜多村
29	高エネルギー外傷(2)	FES、DVT、PTE	講義	喜多村
30	総合まとめ	1～29 回まで総合まとめ	演習	喜多村

評価方法

評価指標	定期試験	−	−	−	−	−	合計
評価割合(%)	100	−	−	−	−	−	100

教科書	医療の中の柔道整復　(公社)全国柔道整復学校協会　南江堂　¥2,300＋税
教材・参考図書	適宜紹介する。
オフィスアワー	適宜確認すること。
履修上の注意点	講義形式は板書を中心とするので、必ずノートを持参すること。また、効果的に知識を習得するために、授業後の復習を欠かさず行うこと。

科目名	柔道整復実技Ⅰ								柔道整復科Ⅰ部 A組
学年	1年	分野	専門	単位数	2単位	時間数	60時間	期間	1～2学期
評価担当	岩瀬　惇平、素根　勝					担当教員	岩瀬　惇平、素根　勝		
科目概要	柔道整復術の一つである固定の中の「包帯による固定法」と「テーピングによる固定法」について学ぶ。「包帯による固定法」では基本となる基本包帯法と身体の部位別包帯法、鎖骨骨折に対する代表的な巻き方であるデゾー包帯法、肩関節脱臼に対する代表的な巻き方であるヴェルポー包帯法・ジュール包帯法を習得する。「テーピングによる固定法」では膝関節内側側副靭帯損傷と足関節外側靭帯損傷に対する固定法を習得する。								
到達目標	① 固定の目的・範囲・肢位および固定施行時の一般原則を理解する。 ② 包帯・テーピングを素早く・しっかり・丁寧に巻けるようになる。								

回数	単元項目	授業内容	形態	担当教員
1	オリエンテーション 固定材料の種類	固定の目的・範囲・肢位 硬性材料、軟性材料	実技	岩瀬・素根
2	包帯の巻き方と注意事項	包帯の巻き方の基礎・持ち方・巻き戻し	実技	岩瀬・素根
3	基本包帯法(1)	環行帯・螺旋帯・蛇行帯・折転帯	実技	岩瀬・素根
4	基本包帯法(2)	亀甲帯・麦穂帯	実技	岩瀬・素根
5	基本包帯法(3)	手から肘の基本包帯法	実技	岩瀬・素根
6	中間まとめ	1～5回まで中間まとめ	演習	岩瀬・素根
7	中間まとめ	1～5回まで中間まとめ	演習	岩瀬・素根
8	基本包帯法(4)	肘から肩の基本包帯法	実技	岩瀬・素根
9	基本包帯法(5)	肘から肩の基本包帯法	実技	岩瀬・素根
10	基本包帯法(6)	足から膝の基本包帯法	実技	岩瀬・素根
11	基本包帯法(7)	基本包帯法復習	実技	岩瀬・素根
12	基本包帯法(8)	基本包帯法復習	実技	岩瀬・素根
13	期末まとめ	8～12回まで期末まとめ	演習	岩瀬・素根
14	期末まとめ	8～12回まで期末まとめ	演習	岩瀬・素根
15	部位別包帯法	手関節・手指部の包帯法、足関節・足趾部の包帯法	実技	岩瀬・素根
16	冠名包帯法(1)	デゾー包帯法	実技	岩瀬・素根
17	冠名包帯法(2)	ヴェルポー包帯法	実技	岩瀬・素根
18	冠名包帯法(3)	ジュール包帯法	実技	岩瀬・素根
19	評価(1)	身体測定法(上肢)	実技	岩瀬・素根
20	評価(2)	身体測定法(下肢)	実技	岩瀬・素根
21	中間まとめ	15～20回まで中間まとめ	演習	岩瀬・素根
22	中間まとめ	15～20回まで中間まとめ	演習	岩瀬・素根
23	膝関節内側側副靭帯損傷	Xサポートテープ固定	実技	岩瀬・素根
24	足関節外側靭帯損傷(1)	バスケットウィーブテープ固定	実技	岩瀬・素根

25	足関節外側靭帯損傷(2)	バスケットウィーブテープ固定	実技	岩瀬・素根
26	足関節外側靭帯損傷(3)	フィギュアエイト・ヒールロックテープ固定	実技	岩瀬・素根
27	足関節外側靭帯損傷(4)	フィギュアエイト・ヒールロックテープ固定	実技	岩瀬・素根
28	期末まとめ	23～27 回まで期末まとめ	演習	岩瀬・素根
29	期末まとめ	23～27 回まで期末まとめ	演習	岩瀬・素根
30	総括	1～29 回までの総括	実技	岩瀬・素根

評価方法

評価指標	中間試験	期末試験	−	−	−	−	合計
評価割合(%)	50	50	−	−	−	−	100

教科書	包帯固定学　(公社)全国柔道整復学校協会　南江堂　¥2,500＋税
教材・参考図書	適宜紹介する。
オフィスアワー	適宜確認すること。
履修上の注意点	実習着および整容は、常に清潔に保ち衛生面に留意すること。実技が中心となるので、必ず実技道具とノートを持参すること。また、効果的に技術を習得するために、授業後の練習を欠かさず行うこと。自分が行った固定に対して、目的が果たされているか否かの確認を常に行い、その中から課題を見つけだして技術を向上させていくこと。
担当教員の実務経験	岩瀬：施術所にて 15 年間の柔道整復の臨床経験を有し、包帯、テーピングの実技に精通している。 素根：施術所にて 6 年間の柔道整復の臨床経験を有し、包帯、テーピングの実技に精通している。

科目名	柔道整復実技Ⅱ								柔道整復科Ⅰ部 A組
学年	1年	分野	専門	単位数	2単位	時間数	60時間	期間	1～3学期
評価担当	佐藤　豪介、坂　逸平				担当教員	佐藤　豪介、坂　逸平			
科目概要	柔道整復術を業として行うためには多くの医学的知識が必要であり、特に運動器の解剖は必須である。この科目では柔道整復師が治療を行うことができる骨折、脱臼と関わりが深い骨や筋、関節について解説する。								
到達目標	① 骨や筋、関節の構造等を学び、骨のランドマークや筋の起始・停止・作用の理解を深めて、関節の運動について説明できるようになる。 ② 実際に身体に触れてみて、その部位の名称を答えられるようになる。 ③ 正常な構造等を学ぶことで、何が異常なのか鑑別できるようになる。								

回数	単元項目	授業内容	形態	担当教員
1	骨の触診(1)	上肢帯の骨の触診	実技	佐藤・坂
2	骨の触診(2)	下肢帯の骨の触診	実技	佐藤・坂
3	筋の触診(1)	肩部、上腕部の筋の触診	実技	佐藤・坂
4	筋の触診(2)	前腕部、手部の筋の触診	実技	佐藤・坂
5	筋の触診(3)	体幹・腰背部の筋の触診	実技	佐藤・坂
6	中間まとめ	1～5回まで中間まとめ	演習	佐藤・坂
7	中間まとめ	1～5回まで中間まとめ	演習	佐藤・坂
8	筋の触診(4)	下肢の筋の触診	実技	佐藤・坂
9	後療法：手技療法(1)	軽擦法・揉捏法・圧迫法	実技	佐藤・坂
10	後療法：手技療法(2)	叩打法・強擦法・曲手	実技	佐藤・坂
11	後療法：手技療法(3)	上肢の手技療法	実技	佐藤・坂
12	後療法：手技療法(4)	腰背部の手技療法	実技	佐藤・坂
13	後療法：手技療法(5)	下肢の手技療法	実技	佐藤・坂
14	中間まとめ	8～13回まで中間まとめ	演習	佐藤・坂
15	中間まとめ	8～13回まで中間まとめ	演習	佐藤・坂
16	運動療法(1)	肩部、上腕部の筋の運動療法	実技	佐藤・坂
17	運動療法(2)	前腕部、手部の筋の運動療法	実技	佐藤・坂
18	運動療法(3)	殿部、大腿部の筋の運動療法	実技	佐藤・坂
19	運動療法(4)	膝部、下腿部、足部の筋の運動療法	実技	佐藤・坂
20	運動療法(5)	体幹の筋の運動療法	実技	佐藤・坂
21	期末まとめ	16～20回まで期末まとめ	演習	佐藤・坂
22	期末まとめ	16～20回まで期末まとめ	演習	佐藤・坂
23	運動療法(6)	腰背部の筋の運動療法	実技	佐藤・坂
24	進級実技演習(1)	手関節～前腕の包帯固定	実技	佐藤・坂
25	進級実技演習(2)	肘関節～肩関節の包帯固定	実技	佐藤・坂
26	進級実技演習(3)	足関節～下腿の包帯固定(膝関節含む)	実技	佐藤・坂

27	進級実技演習(4)	足関節のテーピング	実技	佐藤・坂
28	進級実技演習(5)	膝関節のテーピング	実技	佐藤・坂
29	期末まとめ	23～28 回まで期末まとめ	演習	佐藤・坂
30	期末まとめ	23～28 回まで期末まとめ	演習	佐藤・坂
31	総合まとめ	1～28 回まで総復習	実技	佐藤・坂

評価方法							
評価指標	中間試験	期末試験	－	－	－	－	合計
評価割合(%)	50	50	－	－	－	－	100

教科書	解剖学　(公社)全国柔道整復学校協会　医歯薬出版　¥7,800＋税 柔道整復学･理論編　(公社)全国柔道整復学校協会　南江堂　¥7,300＋税
教材・参考図書	イラスト解剖学　松村譲兒　中外医学社　¥7,600＋税
オフィスアワー	適宜確認すること。
履修上の注意点	実習着および整容は、常に清潔に保ち衛生面に留意すること。実技が中心となるので、必ず実技道具とノートを持参すること。効果的に技術を習得するために、授業後の練習を欠かさず行うこと。また、講義の内容は補習で補足する。
担当教員の実務経験	佐藤：施術所にて 21 年間の柔道整復の臨床経験を有し、包帯、テーピングの実技、触診実技、手技療法、運動療法に精通している。 坂：施術所にて 39 年間の柔道整復の臨床経験を有し、包帯、テーピングの実技、触診実技、手技療法、運動療法に精通している。

科目名	柔道整復実技Ⅲ							柔道整復科Ⅰ部 A組
学年	1年	分野	専門	単位数	1単位	時間数	30時間	期間	3学期
評価担当	喜多村　伸明、坂　逸平			担当教員	喜多村　伸明、坂　逸平				
科目概要	運動療法・物理療法には様々な種類があるが、血液循環の改善、疼痛軽減だけでなく、障害予防、巧緻性改善なども目的とされ、スポーツ分野に限らず病院、クリニック、接骨院などでも頻繁に用いられている。種々の物理療法機器を実際に使用し、身体に現れる効果・反応を科学的に理解し、適応や禁忌を学ぶ。 また、様々な症状で来所した患者に対し、患者を全人的に受け入れて、患部を愛護的に扱い、適切な治療を施すため、症状を鑑別するための触診を学び、二次損傷(血管・神経損傷)を確認するための技術を学ぶ。								
到達目標	① 解剖学的・生理学的理解に基づいた物理療法を、確実かつ安全に実施できる知識と技術を修得する。 ② 各種物理療法機器の効果、適応、禁忌を理解し、確実かつ安全に実施できる知識と技術を修得する。 ③ 施術の介助（患者誘導、患部の愛護的な扱い方）を修得する。 ④ それぞれの症例に必要な触診を確実かつ安全に実施できる知識を修得する。 ⑤ 血管・神経損傷の確認を確実かつ安全に実施できる知識を修得する。								

回数	単元項目	授業内容	形態	担当教員
1	概論	物理療法概論	実技	喜多村・坂
2	電気療法(1)	干渉波療法の操作方法	実技	喜多村・坂
3	電気療法(2)	干渉波療法の操作及び模擬患者への施行	実技	喜多村・坂
4	光線療法・温熱療法	赤外線、パラフィン浴、ホットパック療法	実技	喜多村・坂
5	温熱療法	超音波、極超短波	実技	喜多村・坂
6	触診技術(1)	オリエンテーション、鎖骨定型的骨折、肩鎖関節上方脱臼	実技	喜多村・坂
7	触診技術(2)	上腕骨外科頚外転型骨折、肩関節烏口下脱臼、腱板損傷、上腕二頭筋長頭腱損傷	実技	喜多村・坂
8	触診技術(3)	肘関節後方脱臼、肘内障、コーレス骨折	実技	喜多村・坂
9	触診技術(4)	ハムストリング損傷、大腿四頭筋打撲、膝関節側副靭帯損傷、膝関節十字靭帯損傷	実技	喜多村・坂
10	触診技術(5)	膝関節半月板損傷、下腿三頭筋損傷、足関節外側靭帯損傷	実技	喜多村・坂
11	臨床実習前施術試験	1～5回まで期末まとめ	演習	喜多村・坂
12	臨床実習前施術試験	1～5回まで期末まとめ	演習	喜多村・坂
13	臨床実習前施術試験	6～10回まで期末まとめ	演習	喜多村・坂
14	臨床実習前施術試験	6～10回まで期末まとめ	演習	喜多村・坂
15	総合まとめ	総復習	実技	喜多村・坂
16	総合まとめ	総復習	実技	喜多村・坂

評価方法

評価指標	期末試験	−	−	−	−	−	合計
評価割合(%)	100	−	−	−	−	−	100

教科書	柔道整復学･理論編　(公社)全国柔道整復学校協会　南江堂　¥7,300＋税 柔道整復学･実技編(公社)全国柔道整復学校協会　南江堂　¥7,000＋税
教材・参考図書	適宜紹介する。
オフィスアワー	適宜確認すること。

履修上の注意点	実習着および整容は、常に清潔に保ち衛生面に留意すること。実技が中心となるので、必ず実技道具とノートを持参すること。効果的に技術を習得するために、授業後の練習を欠かさず行うこと。また、講義の内容は補習で補足する。
担当教員の実務経験	喜多村：施術所にて 27 年間の柔道整復の臨床経験を有し、物理療法実施に関する知識と技術、触診感覚検査の実技に精通している。 坂：施術所にて 39 年間の柔道整復の臨床経験を有し、物理療法実施に関する知識と技術、触診感覚検査の実技に精通している。

科目名	柔道整復実技Ⅳ								柔道整復科Ⅰ部 A 組
学年	2 年	分野	専門	単位数	2 単位	時間数	60 時間	期間	1～2 学期
評価担当	林　賢一、田代　秀敏					担当教員	林　賢一、田代　秀敏		
科目概要	施術所やスポーツ現場で数多く遭遇する体幹・上・下肢の軟部組織損傷については、教科書以外にも様々な臨床例からの知識が必要な場合が多い。本講義では教科書の内容に加え、臨床例を基にその診断・治療に必要な知識を習得する。								
到達目標	① 徒手筋力検査(MMT)：体幹・上・下肢の代表的な筋の損傷程度を的確に評価・施術するため必要な、知識を習得する。 ② 上・下肢の関節の損傷予防のテーピングテクニックを修得する。								

回数	単元項目	授業内容	形態	担当教員
1	総括：MMT について	授業の流れ、概要の説明、注意点、柔道整復師が行う MMT とは	実技	林・田代
2	体幹・上肢筋の MMT(1)	MMT の実施法・注意点 僧帽筋の MMT	実技	林・田代
3	体幹・上肢筋の MMT(2)	広背筋・三角筋の MMT	実技	林・田代
4	体幹・上肢筋の MMT(3)	三角筋・大胸筋・上腕二頭筋・上腕筋の MMT	実技	林・田代
5	体幹・上肢筋の MMT(4)	胸鎖乳突筋・上腕三頭筋・上腕筋の MMT	実技	林・田代
6	体幹・上肢筋の MMT(5)	体幹・棘上筋・棘下筋	実技	林・田代
7	中間まとめ	1～6 回まで中間まとめ	演習	林・田代
8	体幹・下肢筋の MMT(1)	腹直筋・内外腹斜筋・脊柱起立筋の MMT	実技	林・田代
9	体幹・下肢筋の MMT(2)	中殿筋・大殿筋の MMT	実技	林・田代
10	体幹・下肢筋の MMT(3)	中殿筋・大殿筋・大腿筋膜張筋・外旋 6 筋の MMT	実技	林・田代
11	体幹・下肢筋の MMT(4)	大腰筋・腸骨筋・腰方形筋・大腿四頭筋の MMT	実技	林・田代
12	体幹・下肢筋の MMT(5)	ハムストリングス・下腿三頭筋・縫工筋の MMT	実技	林・田代
13	上肢・体幹・下肢の MMT	体幹・下肢筋の MMT	実技	林・田代
14	期末まとめ	8～13 回まで期末まとめ	演習	林・田代
15	テーピング基礎(1)	テーピングの種類と使用法・臨床例解説	実技	林・田代
16	テーピング基礎(2)	テーピング実践・アンダーラップ他	実技	林・田代
17	臨床テーピング(1)	足関節(アンカー・スターアップ)	実技	林・田代
18	臨床テーピング(2)	足関節(フォースシュー・サーキュラー)	実技	林・田代
19	臨床テーピング(3)	足関節(ラージヒールロック)	実技	林・田代
20	臨床テーピング(4)	足関節(フィギュアエイト・ラッピング)	実技	林・田代
21	臨床テーピング(5)	膝関節疾患総論(1)	実技	林・田代
22	中間まとめ	16～21 回まで中間まとめ	演習	林・田代
23	臨床テーピング(6)	膝関節疾患総論(2)	実技	林・田代
24	臨床テーピング(7)	膝関節(アンテリアサポート・サーキュラー)	実技	林・田代
25	臨床テーピング(8)	膝関節(スパイラル・スプリットテープ)	実技	林・田代
26	臨床テーピング(9)	膝関節(X サポート・スパイラル)	実技	林・田代

27	臨床テーピング(10)	膝関節(ACL・MCL 損傷テーピング)	実技	林・田代
28	臨床テーピング(11)	キネシオテーピング理論・実践	実技	林・田代
29	期末まとめ	23～28 回まで期末まとめ	演習	林・田代
30	臨床テーピング(12)、総括	肘関節・指関節のテーピング、総括	実技	林・田代

評価方法							
評価指標	中間試験	期末試験	−	−	−	−	合計
評価割合(%)	50	50	−	−	−	−	100

教科書	運動学　(公社)全国柔道整復学校協会　医歯薬出版　¥4,200＋税 解剖学　(公社)全国柔道整復学校協会　医歯薬出版　¥7,800＋税
教材・参考図書	適宜紹介する。
オフィスアワー	適宜確認すること。
履修上の注意点	実習着および整容は、常に清潔に保ち衛生面に留意すること。筋肉の解剖学的構造を理解していないと、検査を理論的に理解することが困難な為、解剖学や運動学の教科書等を使用し予習をすること。必ずノートを持参すること。効果的に知識を習得するために、授業後の復習を欠かさず行うこと。
担当教員の実務経験	林:施術所にて 9 年間の柔道整復の臨床経験を有し、触診および MMT に関する知識と技術、障害予防のテーピングに精通している。 田代:施術所にて 19 年間の柔道整復の臨床経験を有し、触診および MMT に関する知識と技術、障害予防のテーピングに精通している。

科目名	柔道整復実技Ⅴ							柔道整復科Ⅰ部 A組
学年	2年	分野	専門	単位数	2単位	時間数	60時間	期間	1～2学期
評価担当	小礒　嘉貴、坂主　充史			担当教員	小礒　嘉貴、坂主　充史				
科目概要	柔道整復術は、急性及び亜急性の原因によって発生する各種運動器損傷に対する施術である。この授業では、非観血的に行う「整復法」と「固定法」の2つについて、日常の臨床でよく遭遇する各損傷別に実技を通じて修得する。								
到達目標	① 上肢の骨折・脱臼の発生機序の理解、類似損傷との鑑別のポイント、具体的な治療計画(整復法、検査法、評価法、固定法、後療法、可動域訓練、筋力増強訓練、指導管理、治癒日程等)を立てることが出来る。 ② 骨折部位、脱臼部位、軟部組織損傷部の状態と位置を正確に把握し指し示すことができる。 ③ 整復法、検査法の手順や手技を理解し正確に行うことができる。 ④ 種々の固定材料の特性を把握し、症例に応じて使い分けることができる。								

回数	単元項目	授業内容	形態	担当教員
1	鎖骨骨折(1)	診察・整復	実技	小礒・坂主
2	鎖骨骨折(2)	固定	実技	小礒・坂主
3	上腕骨外科頸骨折	1)外転型骨折(診察・整復)、2)内転型骨折	実技	小礒・坂主
4	上腕骨近位骨端線離開		実技	小礒・坂主
5	上腕骨骨幹部骨折	固定	実技	小礒・坂主
6	中間まとめ	1～5回まで中間まとめ	実技	小礒・坂主
7	中間まとめ	1～5回まで中間まとめ	実技	小礒・坂主
8	上腕骨遠位部の骨折(1)	上腕骨顆上骨折	演習	小礒・坂主
9	上腕骨遠位部の骨折(2)	上腕骨外顆骨折	実技	小礒・坂主
10	上腕骨遠位部の骨折(3) 前腕骨近位部の骨折	上腕骨内側上顆骨折、橈骨近位端部骨折、肘頭骨折	実技	小礒・坂主
11	前腕骨骨幹部骨折	モンテギア骨折、橈尺両骨骨幹部骨折	実技	小礒・坂主
12	前腕骨遠位端部骨折(1)	コーレス骨折(診察・整復)	実技	小礒・坂主
13	期末まとめ	9～12回まで期末まとめ	演習	小礒・坂主
14	期末まとめ	9～12回まで期末まとめ	演習	小礒・坂主
15	前腕骨遠位端部骨折(2)	コーレス骨折(固定)	実技	小礒・坂主
16	前腕骨遠位端部骨折(3) 手根部・中手骨部の骨折	スミス骨折、舟状骨骨折、ベネット骨折	実技	小礒・坂主
17	中手骨部の骨折	中手骨骨幹部骨折、中手骨頸部骨折(固定)	実技	小礒・坂主
18	指骨の骨折(1)	基節骨基部骨折	実技	小礒・坂主
19	指骨の骨折(2)	基節骨骨幹部骨折、中節骨掌側板付着部裂離骨折、中節骨骨折(頸部骨折骨幹部骨折)	実技	小礒・坂主
20	肩鎖関節脱臼(1)	診察・整復	実技	小礒・坂主
21	中間まとめ	15～20回まで中間まとめ	演習	小礒・坂主
22	中間まとめ	15～20回まで中間まとめ	演習	小礒・坂主
23	肩鎖関節脱臼(2)	固定	実技	小礒・坂主
24	肩関節脱臼(1)	診察・整復	実技	小礒・坂主

25	肩関節脱臼(2)	固定	実技	小礒・坂主
26	肘関節脱臼(1)	診察・整復	実技	小礒・坂主
27	肘関節脱臼(2)	固定、肘内障(診察・整復)	実技	小礒・坂主
28	期末まとめ	23～27 回まで期末まとめ	演習	小礒・坂主
29	期末まとめ	23～27 回まで期末まとめ	演習	小礒・坂主
30	指関節脱臼	PIP 関節脱臼(固定)、第 1 指 MP 関節脱臼	実技	小礒・坂主

評価方法

評価指標	中間試験	期末試験	－	－	－	－	合計
評価割合(%)	50	50	－	－	－	－	100

教科書	柔道整復学･理論編　(公社)全国柔道整復学校協会　南江堂　¥7,300＋税 柔道整復学･実技編　(公社)全国柔道整復学校協会　南江堂　¥7,000＋税 包帯固定学　(公社)全国柔道整復学校協会　南江堂　¥2,500＋税
教材・参考図書	適宜紹介する。
オフィスアワー	適宜確認すること。
履修上の注意点	実習着および整容は、常に清潔に保ち衛生面に留意すること。必ずノートを持参すること。効果的に知識を習得するために、授業後の復習を欠かさず行うこと。
担当教員の実務経験	小礒：施術所にて 20 年間の柔道整復の臨床経験を有し、骨折、脱臼、その他外傷に対する診察、治療法の実技に精通している。 坂主：施術所にて 21 年間の柔道整復の臨床経験を有し、骨折、脱臼、その他外傷に対する診察、治療法の実技に精通している。

科目名	柔道整復実技Ⅵ							柔道整復科Ⅰ部 A組
学年	2年	分野	専門	単位数	2単位	時間数	60時間	期間	1～3学期
評価担当	佐藤　豪介、坂　逸平				担当教員	佐藤　豪介、坂　逸平			
科目概要	柔道整復術は、急性及び亜急性の原因によって発生する各種運動器損傷に対する施術である。この授業では筋・腱・靭帯など軟部組織損傷の評価のために重要な「検査法」、非観血的に行う「整復法」と「固定法」の3つについて、日常の臨床でよく遭遇する各損傷別に実技を通じて修得する。								
到達目標	① 上肢の軟損、下肢の骨折・脱臼・軟損の発生機序の理解、類似損傷との鑑別のポイント、具体的な治療計画(整復法、検査法、評価法、固定法、後療法、可動域訓練、筋力増強訓練、指導管理、治癒日程等)を立てることが出来る。 ② 骨折部位、脱臼部位、軟部組織損傷部の状態と位置を正確に把握し指し示すことができる。 ③ 整復法、検査法の手順や手技を理解し正確に行うことができる。 ④ 種々の固定材料の特性を把握し、症例に応じて使い分けることができる。								

回数	単元項目	授業内容	形態	担当教員
1	肩部軟部組織損傷(1)	腱板断裂(診察・検査)	実技	佐藤・坂
2	肩部軟部組織損傷(2)	上腕二頭筋長頭腱損傷(診察・検査)	実技	佐藤・坂
3	肘部・手部軟部組織損傷	肘関節内側側副靭帯損傷、ロッキングフィンガー(第2指)、第1指MP関節側副靭帯損傷	実技	佐藤・坂
4	手部・指部軟部組織損傷	PIP関節側副靭帯損傷、マレットフィンガー	実技	佐藤・坂
5	中間まとめ	1～4回まで中間まとめ	演習	佐藤・坂
6	中間まとめ	1～4回まで中間まとめ	演習	佐藤・坂
7	大腿骨骨折	大腿骨頸部骨折(内側骨折、外側骨折)	実技	佐藤・坂
8	大腿骨・膝蓋骨骨折	大腿骨骨幹部骨折、膝蓋骨骨折	実技	佐藤・坂
9	下腿骨骨折(1)	下腿骨骨幹部骨折(固定)	実技	佐藤・坂
10	下腿骨骨折(2)	顆部骨折	実技	佐藤・坂
11	足根骨骨折	踵骨体部骨折	実技	佐藤・坂
12	中足骨骨折	第5中足骨基底部裂離骨折	実技	佐藤・坂
13	中間まとめ	7～12回まで中間まとめ	演習	佐藤・坂
14	中間まとめ	7～12回まで中間まとめ	演習	佐藤・坂
15	中足骨・趾骨骨折	中足骨骨幹部骨折、足趾の骨折	実技	佐藤・坂
16	股関節脱臼	後方脱臼	実技	佐藤・坂
17	膝蓋骨・足趾脱臼	膝蓋骨脱臼(側方脱臼)、足趾の脱臼	実技	佐藤・坂
18	大腿屈筋群損傷	ハムストリングスの肉離れ(診察・検査)	実技	佐藤・坂
19	大腿四頭筋打撲	診察・検査	実技	佐藤・坂
20	期末まとめ	15～19回まで期末まとめ	演習	佐藤・坂
21	期末まとめ	15～19回まで期末まとめ	演習	佐藤・坂
22	膝関節前十字靭帯損傷	診察・検査	実技	佐藤・坂
23	膝関節側副靭帯損傷(1)	内側側副靭帯損傷(診察・検査、固定)	実技	佐藤・坂
24	膝関節半月(板)損傷	診察・検査	実技	佐藤・坂

25	アキレス腱断裂	固定	実技	佐藤・坂
26	下腿三頭筋の肉離れ	診察・検査	実技	佐藤・坂
27	足関節捻挫	診察・検査	実技	佐藤・坂
28	期末まとめ	23～27 回まで期末まとめ	演習	佐藤・坂
29	期末まとめ	23～27 回まで期末まとめ	演習	佐藤・坂
30	足関節捻挫	固定(3 種)	実技	佐藤・坂

評価方法

評価指標	中間試験	期末試験	−	−	−	−	合計
評価割合(%)	50	50	−	−	−	−	100

教科書	柔道整復学･理論編　(公社)全国柔道整復学校協会　南江堂　¥7,300＋税 柔道整復学･実技編　(公社)全国柔道整復学校協会　南江堂　¥7,000＋税
教材・参考図書	適宜紹介する。
オフィスアワー	適宜確認すること。
履修上の注意点	実習着および整容は、常に清潔に保ち、衛生面に留意すること。必ずノートを持参すること。効果的に知識を習得するために、授業後の復習を欠かさず行うこと。
担当教員の実務経験	佐藤：施術所にて 21 年間の柔道整復の臨床経験を有し、骨折・脱臼の整復及び軟部組織損傷の診察法・検査法の実技に精通している。 坂：施術所にて 39 年間の柔道整復の臨床経験を有し、骨折・脱臼の整復及び軟部組織損傷の診察法・検査法の実技に精通している。

科目名	柔道整復実技Ⅶ								柔道整復科Ⅰ部 A 組
学年	2 年	分野	専門	単位数	2 単位	時間数	60 時間	期間	1～3 学期
評価担当	林　賢一、石橋　大輔					担当教員	林　賢一、石橋　大輔		
科目概要	我が国は、少子高齢化が急速に進んでおり、医療費などの社会保障関係費は今後も増加すると見込まれている。こうした状況下で、国民の健康寿命の延伸の実現に向けて、健康づくりや介護予防などに貢献できる柔道整復師が求められている。また、スポーツ現場における外傷予防・外傷処置は柔道整復師にとって必須の能力である。本科目では、柔道整復師への社会的要請の一つである高齢者および競技者の外傷予防に対し、生理学で習得したそれぞれの特徴および生理学的変化に関する知識を活用し、具体的な外傷予防の手法を学ぶ。								
到達目標	① 高齢者の心理、加齢に伴う身体の機能の変化、フレイルやサルコペニア、高齢者特有の疾病や症状、認知症の理解など高齢者介護に必要な知識を理解し、説明できる。 ② 高齢者に対する適切な運動指導が実施できる知識・技術・コミュニケーション能力を修得する。 ③ 競技者に対して適切な評価・処置・運動指導・生活指導・予防指導が出来る実践力を修得する。 ④ 関連職種と連携するために必要な、医療や福祉分野全般に共通する基礎理論・技術を修得する。								

回数	単元項目	授業内容	形態	担当教員
1	柔道整復師と介護保険 発達と老化の理解	介護保険の目的と理念、介護保険制度における柔道整復師、人間の成長と発達の基礎的理解、老年期の発達と熟成、老化に伴う心と身体の変化と日常生活、エイジング理論、高齢者と健康	講義	林・石橋
2	認知症の理解	認知症の定義、認知症を取り巻く状況、医学的側面からみた認知症の基礎、認知症に伴う心と身体の変化と日常生活、連携と協働、家族への支援、認知症予防	講義	林・石橋
3	介護保険制度	介護保険、要介護度、要介護認定、介護保険の給付、介護サービスの利用、介護サービスの受給パターン、介護サービス事業所、介護連携職種	講義	林・石橋
4	介護の過程	介護過程の意義、介護過程、情報収集と課題の優先順位、介護過程の実践的展開	講義	林・石橋
5	高齢者介護と ICF	高齢者介護、ICF、リハビリテーションと ICF、機能訓練と ICF	講義	林・石橋
6	期末まとめ	1～5 回まで期末まとめ	演習	林・石橋
7	機能訓練(1)	機能訓練の手順	実技	林・石橋
8	機能訓練(2)	体力測定の計測法	実技	林・石橋
9	機能訓練(3)	個別サービス計画書の作成法	実技	林・石橋
10	機能訓練(4)	器具を用いない運動	実技	林・石橋
11	機能訓練(5)	簡単な器具を用いて行う運動	実技	林・石橋
12	機能訓練(6)	運動メニューの作成	実技	林・石橋
13	中間まとめ	7～12 回まで中間まとめ	演習	林・石橋
14	中間まとめ	7～12 回まで中間まとめ	演習	林・石橋
15	機能訓練(7)	運動メニューの作成	実技	林・石橋
16	競技者の外傷処置(1)	オリエンテーション、競技者の特徴	実技	林・石橋
17	競技者の外傷処置(2)	RICE 処置	実技	林・石橋

18	競技者の外傷処置(3)	心肺蘇生を含む救急処置	実技	林・石橋
19	競技者の外傷予防(4)	頭頸部のスポーツ外傷に対する評価・処置・運動指導・生活指導・予防指導	実技	林・石橋
20	期末まとめ	15～19 回まで期末まとめ	演習	林・石橋
21	期末まとめ	15～19 回まで期末まとめ	演習	林・石橋
22	競技者の外傷予防(5)	肩関節のスポーツ外傷に対する評価・処置・運動指導・生活指導・予防指導	実技	林・石橋
23	競技者の外傷予防(6)	肘関節のスポーツ外傷に対する評価・処置・運動指導・生活指導・予防指導	実技	林・石橋
24	競技者の外傷予防(7)	手関節のスポーツ外傷に対する評価・処置・運動指導・生活指導・予防指導	実技	林・石橋
25	競技者の外傷予防(8)	腰部・大腿部のスポーツ外傷に対する評価・処置・運動指導・生活指導・予防指導	実技	林・石橋
26	競技者の外傷予防(9)	膝関節のスポーツ外傷に対する評価・処置・運動指導・生活指導・予防指導	実技	林・石橋
27	競技者の外傷予防(10)	下腿部･足関節のスポーツ外傷に対する評価･処置･運動指導・生活指導・予防指導	実技	林・石橋
28	期末まとめ	22～27 回まで期末まとめ	演習	林・石橋
29	期末まとめ	22～27 回まで期末まとめ	演習	林・石橋
30	競技者の外傷予防(11)	競技者に対する運動指導のシミュレーション	実技	林・石橋
31	総括	1～30 回までの総括	実技	林・石橋

評価方法

評価指標	中間試験	期末試験	−	−	−	−	合計
評価割合(%)	50	50	−	−	−	−	100

教科書	柔道整復師と機能訓練指導　(公社)全国柔道整復学校協会　南江堂　¥3,000＋税 競技者の外傷予防　(公社)全国柔道整復学校協会　南江堂（予定）
教材・参考図書	適宜紹介する。
オフィスアワー	適宜確認すること。
履修上の注意点	実習着および整容は、常に清潔に保ち衛生面に留意すること。必ずノートを持参すること。効果的に知識を習得するために、授業後の復習を欠かさず行うこと。また、講義の内容は補習で補足する。
担当教員の実務経験	林：施術所にて 9 年間の柔道整復の臨床経験を有し、介護保険、機能訓練、外傷に対する評価、処置、予防法に関する知識と技術に精通している。 石橋：施術所にて 15 年間の施術所での柔道整復の臨床経験を有し、外傷に対する評価、処置、予防法に関する知識と技術に精通している。

科目名	柔道整復実技Ⅷ							柔道整復科Ⅰ部 A組
学年	2年	分野	専門	単位数	1単位	時間数	30時間	期間	3学期
評価担当	田代　秀敏、石橋　大輔			担当教員	田代　秀敏、石橋　大輔				
科目概要	実際の臨床と同様の「医療面接から始まり、検査等を行い、疾患を特定する」ロールプレイおよびシミュレーションを行い、実践力を身につける。								
到達目標	① 患者に対する接遇方法を身につける。 ② 医療面接(問診)の手順を学び、患者の訴えを的確に把握できるようになる。 ③ 検査・測定法の目的と手順を理解し、疑われる疾患・傷病に応じた検査等を実践できるようになる。 ④ 検査等の結果を記録する事ができるようになる。								

回数	単元項目	授業内容	形態	担当教員
1	医療面接の基本	医療面接の目的、面接項目、質問法等	実技	田代・石橋
2	医療面接の実践	面接結果の評価と記録、結果の記載方法	実技	田代・石橋
3	頚部の検査･測定･評価(1)	関節可動域測定(ROM)、臨床徒手検査	実技	田代・石橋
4	頚部の検査･測定･評価(2)	神経学的検査、徒手筋力検査(MMT)	実技	田代・石橋
5	腰部の検査･測定･評価(1)	関節可動域測定(ROM)、臨床徒手検査	実技	田代・石橋
6	腰部の検査･測定･評価(2)	神経学的検査、徒手筋力検査(MMT)	実技	田代・石橋
7	膝部の検査･測定･評価(1)	関節可動域測定(ROM)、臨床徒手検査	実技	田代・石橋
8	膝部の検査･測定･評価(2)	徒手筋力検査(MMT)、触診(圧痛部位)	実技	田代・石橋
9	面接･検査･測定･記録(1)	医療面接、測定と評価、結果と記録	実技	田代・石橋
10	面接･検査･測定･記録(2)	医療面接、測定と評価、結果と記録	実技	田代・石橋
11	臨床実習前施術試験(1)	1～10回まで期末まとめ	演習	田代・石橋
12	臨床実習前施術試験(2)	1～10回まで期末まとめ	演習	田代・石橋
13	臨床実習前施術試験(3)	1～10回まで期末まとめ	演習	田代・石橋
14	臨床実習前施術試験(4)	1～10回まで期末まとめ	演習	田代・石橋
15	総合実践(1)	医療面接～評価までのロールプレイ	実技	田代・石橋
16	総合実践(2)	医療面接～評価までのロールプレイ	実技	田代・石橋

評価方法

評価指標	期末試験		－	－	－	－	合計
評価割合(%)	100		－	－	－	－	100

教科書	一般臨床医学　(公社)全国柔道整復学校協会　医歯薬出版 ¥5,800＋税 整形外科学　(公社)全国柔道整復学校協会　南江堂 ¥5,600＋税 柔道整復学･理論編　(公社)全国柔道整復学校協会　南江堂　¥7,300＋税 柔道整復学･実技編　(公社)全国柔道整復学校協会　南江堂　¥7,000＋税
教材・参考図書	適宜紹介する。
オフィスアワー	適宜確認すること。

履修上の注意点	実習着および整容は、常に清潔に保ち衛生面に留意すること。必ずノートを持参すること。効果的に知識を習得するために、授業後の復習を欠かさず行うこと。また、講義の内容は補習で補足する。
担当教員の実務経験	田代：施術所にて 19 年間の柔道整復の臨床経験を有し、医療面接から治療まで柔道整復実技に精通している。 石橋：施術所にて 15 年間の柔道整復の臨床経験を有し、医療面接から治療まで柔道整復実技に精通している。

科目名	柔道整復実技Ⅸ							柔道整復科Ⅰ部 A組
学年	3年	分野	専門	単位数	3単位	時間数	90時間	期間	1～2学期
評価担当	喜多村　伸明、坂主　充史				担当教員	喜多村　伸明、坂主　充史			
科目概要	柔道整復師の業務範囲である、骨折・脱臼・筋腱等軟部組織損傷を鑑別する手段としての診察法ならびに検査法、治療する手段としての整復法ならびに固定法を修得する。								
到達目標	① 診察法や整復法ならびに検査法、固定法の意義を理論的に理解する。 ② 実際の損傷を想定して処置を行い、臨床現場において各々の損傷に対処できるようになる。								

回数	単元項目	授業内容	形態	担当教員
1	固定装具作成	シーネ、すだれ副子、腋窩枕子の作成	実技	喜多村・坂主
2	鎖骨骨折	リング固定又は8字帯、Sayerテープ固定・診察・整復	実技	喜多村・坂主
3	上腕骨骨幹部骨折	ミッデルドルフ三角副子固定	実技	喜多村・坂主
4	コーレス骨折	クラーメル副子と局所副子・三角巾固定・診察・整復	実技	喜多村・坂主
5	肩鎖関節上方脱臼	テープ固定・診察・整復	実技	喜多村・坂主
6	肩関節前方脱臼	局所副子・三角巾固定・診察・整復	実技	喜多村・坂主
7	肘関節後方脱臼	クラーメル副子・三角巾固定・診察・整復	実技	喜多村・坂主
8	下腿骨骨幹部骨折	クラーメル副子固定	実技	喜多村・坂主
9	アキレス腱断裂	クラーメル副子固定	実技	喜多村・坂主
10	骨折総合(1)	診察及び整復(鎖骨骨折)	実技	喜多村・坂主
11	骨折総合(2)	診察及び整復(上腕骨外科頸骨折)	実技	喜多村・坂主
12	骨折総合(3)	診察及び整復(上腕骨外科頸骨折)	実技	喜多村・坂主
13	骨折総合(4)	診察及び整復(コーレス骨折)	実技	喜多村・坂主
14	骨折総合(5)	固定(鎖骨骨折)	実技	喜多村・坂主
15	骨折総合(6)	固定(上腕骨骨幹部骨折)	実技	喜多村・坂主
16	骨折総合(7)	固定(コーレス骨折)	実技	喜多村・坂主
17	骨折総合(8)	固定(第5中手骨頚部骨折)	実技	喜多村・坂主
18	骨折総合(9)	固定(下腿骨骨幹部骨折)	実技	喜多村・坂主
19	骨折総合(10)	固定(肋骨骨折)	実技	喜多村・坂主
20	脱臼総合(1)	診察及び整復(肩鎖関節脱臼)	実技	喜多村・坂主
21	脱臼総合(2)	診察及び整復(肩関節脱臼)	実技	喜多村・坂主
22	脱臼総合(3)	診察及び整復(肘関節脱臼)	実技	喜多村・坂主
23	脱臼総合(4)	診察及び整復(肘内障)	実技	喜多村・坂主
24	脱臼総合(5)	固定(肩鎖関節脱臼)	実技	喜多村・坂主
25	脱臼総合(6)	固定(肩関節脱臼)	実技	喜多村・坂主
26	脱臼総合(7)	固定(肘関節脱臼)	実技	喜多村・坂主

27	脱臼総合(8)	固定(手第 2 指 PIP 関節背側脱臼)	実技	喜多村・坂主
28	軟部組織損傷総合(1)	診察及び検査(腱板損傷)	実技	喜多村・坂主
29	軟部組織損傷総合(2)	診察及び検査(上腕二頭筋長頭腱損傷)	実技	喜多村・坂主
30	軟部組織損傷総合(3)	診察及び検査(ハムストリングス損傷・大腿四頭筋打撲)	実技	喜多村・坂主
31	軟部組織損傷総合(4)	診察及び検査(膝関節側副靭帯損傷)	実技	喜多村・坂主
32	軟部組織損傷総合(5)	診察及び検査(膝関節十字靭帯損傷)	実技	喜多村・坂主
33	軟部組織損傷総合(6)	診察及び検査(膝関節半月板損傷)	実技	喜多村・坂主
34	軟部組織損傷総合(7)	診察及び検査(下腿三頭筋損傷)	実技	喜多村・坂主
35	軟部組織損傷総合(8)	診察及び検査(足関節外側側副靭帯損傷)	実技	喜多村・坂主
36	軟部組織損傷総合(9)	固定(アキレス腱断裂)	実技	喜多村・坂主
37	軟部組織損傷総合(10)	固定(足関節外側靭帯損傷(局所副子固定))	実技	喜多村・坂主
38	軟部組織損傷総合(11)	固定(膝関節内側側副靭帯損傷)	実技	喜多村・坂主
39	軟部組織損傷総合(12)	固定(足関節外側靭帯損傷(バスケットウィーブ)・足関節外側靭帯損傷(フィギュアエイト・ヒールロック))	実技	喜多村・坂主
40	総合まとめ(1)	1～39 回のまとめ	実技	喜多村・坂主
41	総合まとめ(2)	1～39 回のまとめ	実技	喜多村・坂主
42	総合まとめ(3)	1～39 回のまとめ	実技	喜多村・坂主
43	総合まとめ(4)	1～39 回のまとめ	実技	喜多村・坂主
44	総合まとめ(5)	1～39 回のまとめ	実技	喜多村・坂主
45	総合まとめ(6)	1～39 回のまとめ	実技	喜多村・坂主

評価方法

評価指標	定期試験	－	－	－	－	－	合計
評価割合(%)	100	－	－	－	－	－	100

教科書	柔道整復学･理論編　(公社)全国柔道整復学校協会　南江堂　¥7,300＋税 柔道整復学･実技編　(公社)全国柔道整復学校協会　南江堂　¥7,000＋税
教材・参考図書	適宜紹介する。
オフィスアワー	適宜確認すること。
履修上の注意点	実習着および整容は、常に清潔に保ち衛生面に留意すること。必ずノートを持参すること。効果的に知識を習得するために、授業後の復習を欠かさず行うこと。
担当教員の実務経験	喜多村：施術所にて 27 年間の柔道整復の臨床経験を有し、骨折、脱臼、軟部組織損傷の処置における実技に精通している。 坂主：施術所にて 21 年間の柔道整復の臨床経験を有し、骨折、脱臼、軟部組織損傷の処置における実技に精通している。

科目名	臨床実習Ⅰ							柔道整復科Ⅰ部 A組
学年	1年	分野	専門	単位数	1単位	時間数	45時間	期間	1学期
評価担当	坂主　充史、佐藤　豪介								
科目概要	実際に施術所での実習に行うにあたり、まずは学内における事前指導(整容、接遇)をとおして、自己の資格をより具体的に意識できるようにする。実習施設においては、施術や受付の応対、医療面接や実際の医療現場で使用されている物理療法器具の知識と技術を修得する。また、清掃、整頓、バックヤードにおける雑務等の業務補助を積極的に行い、個人情報の取扱いや守秘義務などのコンプライアンスに関する知識も学ぶ。								
到達目標	① 柔道整復師としての整容・接遇を修得できる。 ② 清掃、整頓、バックヤードにおける雑務等の業務補助の重要性を学ぶことができる。 ③ 個人情報の取扱いや守秘義務などのコンプライアンスに関する知識を修得し、倫理観を培うことができる。								

回数	単元項目	授業内容	形態	担当教員
	臨床実習Ⅰ	実習期間：令和5年6月～令和5年12月 実習時間：14:00～17:00 実習場所：福柔整骨院 リハビリテーションセンター 実習方法：学生20名を1グループとし、15日間の実習を行う。 実習詳細：臨床実習Ⅱに向け、柔道整復師としての整容・接遇を学ぶ。清掃、整頓などの院内業務に積極的に関わることで、業務補助の重要性を学ぶ。また、各種の物理療法機器の選択及び施行ができるようになる。	実習	坂主 佐藤

評価方法							
評価指標	学内評価	リポート	－	－	－	－	合計
評価割合(%)	50	50	－	－	－	－	100

教科書	柔道整復学･理論編　(公社)全国柔道整復学校協会　南江堂　¥7,300＋税 柔道整復学･実技編　(公社)全国柔道整復学校協会　南江堂　¥7,000＋税 解剖学　(公社)全国柔道整復学校協会　医歯薬出版　¥7,800＋税
教材・参考図書	実習オリエンテーション時に紹介する。
オフィスアワー	適宜確認すること。
履修上の注意点	実習着および整容は、常に清潔に保ち衛生面に留意すること。自己の健康管理には、十分に注意すること。事前の学習内容は、実習オリエンテーション時に提示する。 実習・学習内容は、実習後すぐに記録し、報告・連絡・相談を欠かさないこと。

科目名	臨床実習Ⅱ								柔道整復科Ⅰ部 A組
学年	2年	分野	専門	単位数	1単位	時間数	45時間	期間	1学期
評価担当	舘原　宗幸、坂主　充史、中村　秀樹								
科目概要	柔道整復実技Ⅰ・Ⅱ・Ⅲで修得した包帯法・触診法・物理療法の知識と技術が、実際の現場で有資格者によってどのように用いられているのか、施術や受付の応対、医療面接を含めた実際の医療現場を見学する。また、挨拶をとおしてスタッフや患者と触れ合う機会を得る。原則としては、正統的周辺参加論に基づき、「見て学ぶ」ことを主眼に置くが、積極的に質問をできる環境を設け、まずは施術所の全体像の概要を学ぶ。								
到達目標	① 社会人としての礼節をわきまえた挨拶と自己紹介ができる。 ② 接骨院関係者(スタッフや患者・家族等)に、好印象を与える挨拶と受答えができる。 ③ 接骨院内での業務を見学することで、柔道整復師としての職業観を確立し、自己の資格をより具体的に把握・理解し行動することができる。 ④ 症例に応じた適切な物理療法機器の選択及び施行ができる。 ⑤ 包帯法や手技療法、触診に関する知識と技術の有用性を理解することができる。								

回数	単元項目	授業内容	形態	担当教員
	臨床実習Ⅱ	実習期間：令和6年7月～令和6年8月 実習時間：9:00～19:00 実習場所：福岡医療学院接骨院 他、合計20施設 実習方法：学生2名を1グループとし、6日間の実習を行う。 実習詳細：スタッフや患者とコミュニケーションをとりながら、受付応対から実際の施術に至るまでを見学し、全体の流れを把握する。また臨床実習Ⅰで身に付けた物理療法機器の取扱いを有資格者の指導のもとで行う。	実習	舘原 坂主 中村

評価方法

評価指標	学外評価	リポート	−	−	−	−	合計
評価割合(%)	50	50	−	−	−	−	100

教科書	
	柔道整復学･理論編　(公社)全国柔道整復学校協会　南江堂　¥7,300＋税
	柔道整復学･実技編　(公社)全国柔道整復学校協会　南江堂　¥7,000＋税
	解剖学　(公社)全国柔道整復学校協会　医歯薬出版　¥7,800＋税
教材・参考図書	実習オリエンテーション時に紹介する。
オフィスアワー	適宜確認すること。
履修上の注意点	実習着および整容は、常に清潔に保ち衛生面に留意すること。自己の健康管理には、十分に注意すること。事前の学習内容は、実習オリエンテーション時に提示する。 実習・学習内容は、実習後すぐに記録し、報告・連絡・相談を欠かさないこと。

科目名	臨床実習Ⅲ								柔道整復科Ⅰ部 A組
学年	3年	分野	専門	単位数	1単位	時間数	45時間	期間	1学期
評価担当	中村　秀樹、岩瀬　惇平、坂主　充史								
科目概要	柔道整復実技Ⅷで修得した医療面接の技術を、実際の臨床現場において活用することを目的とする。実習担当教員及び実習指導者の指導のもと、受け持ち対象者に対して受傷機序や日時、症状等の医療面接を行い、必要であれば検査法等を交えながら損傷部位と重症度を把握するための方策を学ぶ。実習担当教員及び実習指導者から指導・アドバイスを受けながら、必要な情報をうまく引き出すためのコミュニケーション術を学ぶ。								
到達目標	① 有資格者や他のスタッフと連携し、業務にあたることができる。 ② 施術が円滑に出来るよう、院内環境整備や必要な固定具の準備ができる。 ③ 患者との関わりを通じて、柔道整復師として必要なコミュニケーション能力を身につける。 ④ 院内業務を通して、関係者との意思の疎通を図り、主体的に課題を発見して、課題解決に寄与することができる。								

回数	単元項目	授業内容	形態	担当教員
	臨床実習Ⅲ	実習期間：令和7年6月 実習時間：9:00～17:30 実習場所：福岡医療学院整骨院 他、合計20施設 実習方法：学生2名を1グループとし、6日間の実習を行う。 実習詳細：実習担当教員及び実習指導者の指導のもと、院内業務や施術補助を行う。 また、これまで学内の授業で学んだ内容が、臨床現場でどのように活用されているのかを学ぶ	実習	中村 岩瀬 坂主

評価方法							
評価指標	学外評価	リポート	－	－	－	－	合計
評価割合(%)	50	50	－	－	－	－	100

教科書	柔道整復学･理論編　(公社)全国柔道整復学校協会　南江堂　¥7,300＋税 柔道整復学･実技編　(公社)全国柔道整復学校協会　南江堂　¥7,000＋税 解剖学　(公社)全国柔道整復学校協会　医歯薬出版　¥7,800＋税
教材・参考図書	実習オリエンテーション時に紹介する。
オフィスアワー	適宜確認すること。
履修上の注意点	実習着および整容は、常に清潔に保ち衛生面に留意すること。自己の健康管理には、十分に注意すること。事前の学習内容は、実習オリエンテーション時に提示する。 実習・学習内容は、実習後すぐに記録し、報告・連絡・相談を欠かさないこと。

科目名	臨床実習Ⅳ							柔道整復科Ⅰ部 A組
学年	3年	分野	専門	単位数	1単位	時間数	45時間	期間	1学期
評価担当	中村　秀樹、岩瀬　惇平、坂主　充史								
科目概要	1、2年次で学んできた包帯法、触診、手技、医療面接、各種検査法、物理療法、運動療法等に関する知識と技術を生かし、実際の施術所において、有資格者が行う施術に対する補助を行う。様々な症例に対して、医療面接から施術、指導管理に至るまで補助スタッフとして、対象者の状態に応じた患者安全の確保と柔道整復の施術ができるようになるための知識と技術を修得する。								
到達目標	① 多様な背景をもつ患者に応じた言葉遣いの大切さを理解することができ、言葉以外の様々な患者への配慮を理解することができる。 ② 説明と同意・選択など患者本位の対応の必要性を理解することができる。 ③ 開放型質問と閉鎖型質問等、医療面接の展開を理解することができる。 ④ 共感的態度や支持的態度など患者の感情面への配慮の必要性を理解することができる。 ⑤ 症例に応じた適切な物理療法機器の選択および施行ができる。 ⑥ 医療面接から得た情報を元に、症状の鑑別、評価、治療プログラムの作成ができる。								

回数	単元項目	授業内容	形態	担当教員
	臨床実習Ⅳ	実習期間：令和7年6月 実習時間：9:00～17:30 実習場所：福岡医療学院整骨院 他、合計20施設 実習方法：学生2名を1グループとし、6日間の実習を行う。 実習詳細：これまでの実習・実技で身につけてきた知識と技能を生かし、医療面接から施術、患者指導に至るまで、全ての面において有資格者の補助を行う。	実習	中村 岩瀬 坂主

評価方法							
評価指標	学外評価	リポート	－	－	－	－	合計
評価割合(%)	50	50	－	－	－	－	100

教科書	柔道整復学･理論編　(公社)全国柔道整復学校協会　南江堂　¥7,300＋税 柔道整復学･実技編　(公社)全国柔道整復学校協会　南江堂　¥7,000＋税 解剖学　(公社)全国柔道整復学校協会　医歯薬出版　¥7,800＋税
教材・参考図書	実習オリエンテーション時に紹介する。
オフィスアワー	適宜確認すること。
履修上の注意点	実習着および整容は、常に清潔に保ち衛生面に留意すること。自己の健康管理には、十分に注意すること。事前の学習内容は、実習オリエンテーション時に提示する。 実習・学習内容は、実習後すぐに記録し、報告・連絡・相談を欠かさないこと。